

14.21  
307

始





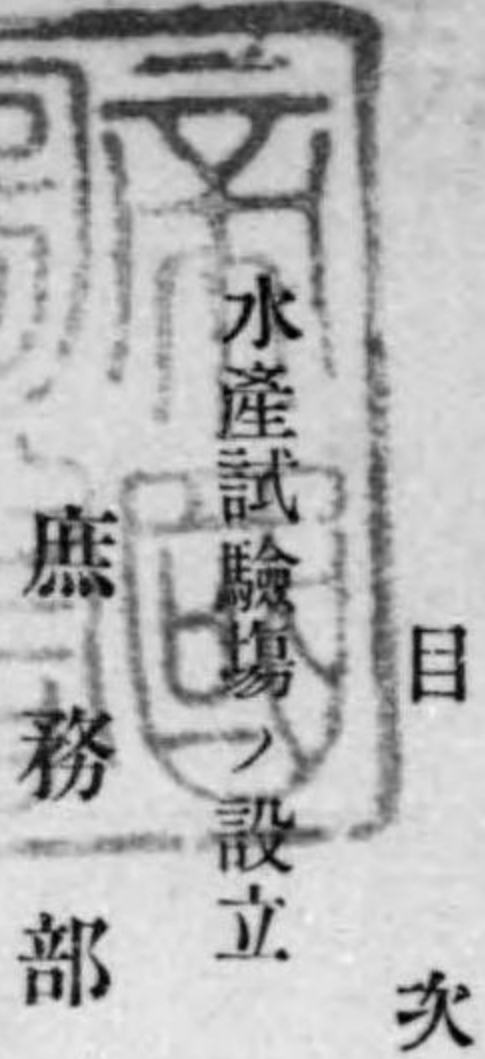
1424  
307

明治四十四年度  
大正元年度

佐賀縣水產試驗場事業報告書



明治四十四年度 佐賀縣水產試驗場事業報告書



目次

一 佐賀縣水產試驗場規定.....二

一 佐賀縣水產試驗場處務細則.....四

一 佐賀縣水產試驗場鯉兒配付規定.....七

一 佐賀縣水產試驗場漁獲物、養成物、並製品處分規定.....八

一 本場及出張所ノ位置.....九

一 職員並擔當業務.....九

一 經費豫算.....一〇

試驗及調査事項

一 漁業基本調査.....一二

漁撈部

一 鯛延繩及一本釣漁業試驗.....一四

一、日 次

大正 2. 12. 3 内交



製造部

- 一 雲丹製造試驗……………二五
- 一 布糊製造指導……………二六

養殖部

- 一 蠅被害原因調査試驗並稚貝蕃殖保護試驗……………二九
- 一 輸出向牡蠣養殖試驗……………四〇
- 一 伏老貝養殖試驗……………四一
- 一 淡水養殖試驗……………四一

明治四十  
四年度 佐賀縣水產試驗場事業報告書

水產試驗場ノ設立

本縣ハ内海(南)外海(北)ノ兩海面ヲ有ス而シテ其ノ海岸線ハ七十四里ノ長キニ亘リ漁業戸數八千五百餘戸、漁業人員二萬四千九百餘人、漁船五千三百餘隻、一ヶ年漁獲高百二十餘萬圓ニ達シ兩海共前途甚ダ有望ナルヲ以テ明治二十八年縣ニ水産技術員ヲ置キ専ラ之ガ指導獎勵ノ任ニ當ラシメタルノ内外兩海ノ沿岸地區ニ各一個ノ水産組合ヲ設置セシメ之ニ對シ年々縣費ヨリ補助金ヲ下附シテ必要ノ試驗及獎勵事業ヲ實行セシメ又遠洋漁業獎勵規定ヲ設ケテ獎勵金ヲ下附セラル、コト、ナリ一面鮮海出漁者ヲシテ鮮海出漁組合ヲ組織セシメ出漁者ノ指導監督ヲ爲サシメラレタル結果沿岸漁業及遠洋漁業トモ多少實行ヲ見ルニ至リシモ尙發展ノ餘地尠カラズ殊ニ淡水養殖業ノ如キ頗ル幼稚ニシテ縣下各地ニ散在セル公有水面即チ稻田灌溉用ノ溜地、用水濠並池沼等ノ總水面積約三百萬坪以上ニ上レルニモ拘ラズ養殖業ヲ經營セル面積ハ僅ニ十八萬餘坪ニ過キズ此ノ如キ狀況ナルヲ以テ斯業ノ發展ヲ企圖センガ爲メ漁業ノ基本調査並各種漁撈試驗、製造試驗及淡水ノ養殖試驗ヲ爲シテ其ノ成績ヲ一般當業者ニ示スト同時ニ漁業上ニ關スル指導獎勵ヲ爲スノ目的ヲ以テ本試驗場ハ明治四十四年四月ニ設立セラレタリ



一、佐賀縣水産試驗場規定  
庶務部

佐賀縣水産試驗場規定

- 第壹條 本場ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第貳條 本場ニ於テ施行スル業務ハ左ノ如シ
- 一、漁撈、製造、養殖ニ關スル試驗
  - 二、漁業ノ基本調査
  - 三、魚兒介苗ノ配付
  - 四、水産製品ノ鑑定及販路調査
  - 五、講習、講話及傳習
  - 六、水産上ニ關スル質疑應答
- 第參條 本場ニ左ノ職員ヲ置ク
- |    |     |    |     |
|----|-----|----|-----|
| 場長 | 壹名  | 技師 | 若干名 |
| 場手 | 若干名 | 書記 | 若干名 |
- 第四條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ處理シ場員ヲ監督ス
- 第五條 技師技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ業務ニ従事ス
- 第六條 書記ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

- 第七條 場長ハ業務ヲ補佐セシムル爲メ助手ヲ任用スルコトヲ得
- 第八條 場長事故アルトキハ上席ノ職員其事務ヲ代理ス
- 第九條 左ノ事項ハ場長ヨリ知事ニ經伺ノ上處分スベシ
- 一、諸規程ヲ制定スルコト
  - 二、經費豫算中目以上ノ流用ニ關スルコト
  - 三、一廉金參拾圓以上ヲ要スル營繕ニ關スルコト
  - 四、既定ノ試驗事業ヲ變更又ハ追加スルコト
  - 五、職員管外出張ニ關スルコト
  - 六、前各号ノ外重要ナル事項
- 第拾條 左ノ事項ハ場長ニ於テ處分スルコトヲ得
- 一、雇員、漁夫、人夫、小使ノ採用罷免ニ關スルコト
  - 二、場員ノ事務分擔ニ關スルコト
  - 三、場員管内出張ニ關スルコト
  - 四、場員ノ歸省、看護、墓參、轉地療養其他私事旅行、賜暇願ノ許可及除服出仕ヲ命スルコト
  - 五、豫算ノ定額内ニ於ケル物品購入及賣却ニ關スルコト
  - 六、試驗用具ノ貸與ニ關スルコト
  - 七、前各項ノ外事ノ輕易ニ属スル事項
- 第拾壹條 場長ハ次年度ニ於テ施行セントスル業務ノ項目及方法ヲ撰定シ之ニ明細書ヲ附シタル豫算書ヲ調製シ毎年七月三
- 一、佐賀縣水産試驗場規程



十日迄ニ知事ニ差出スベシ

第拾貳條 場長ハ試驗及調査ニ關スル業務ノ効程ヲ毎年度末ニ於テ知事ニ報告スベシ  
第拾參條 職員ノ勤怠ハ翌月十日マデニ知事ニ報告スベシ

佐賀縣水産試驗場處務細則

第壹條 本場ニ業務部、庶務部ヲ置ク  
第貳條 各部ノ事務分掌左ノ如シ

業 務 部

- 一、漁撈製造養殖ノ試験ニ關スルコト
- 二、漁業基本調査ニ關スルコト
- 三、水産製品ノ鑑定及販路調査ニ關スルコト
- 四、講習講話及ヒ傳習ニ關スルコト
- 五、魚兒介苗ノ配付ニ關スルコト
- 六、試験用地及業務用物品管理ニ關スルコト
- 七、業務報告編纂ニ關スルコト
- 八、業務用雇夫監督ニ關スルコト
- 九、出張中業務用ニ必要ナル物品購入又ハ採捕物拂下ニ關スルコト
- 十、水産上ノ質問應答ニ關スルコト

士標本類陳列ニ關スルコト

庶 務 部

- 一、文書物品ノ收受發送ニ關スルコト
- 二、印鑑保管ニ關スルコト
- 三、文書ノ編纂保存ニ關スルコト
- 四、印刷ニ關スルコト
- 五、物品ノ出納保管並ニ賣却ニ關スルコト
- 六、建物ノ營繕又ハ土地建物ノ保管ニ關スルコト
- 七、會計豫算収支決算ニ關スルコト
- 八、財産管理ニ關スルコト
- 九、小使其他諸雇入ニ關スルコト
- 十、場内ノ取締ニ關スルコト
- 十一、他ノ主管ニ屬セザル事項

第參條 本場ノ事務ハ總テ場長ノ決裁ヲ經テ施行スルモノトス

第四條 主管明カナシザルモノハ場長ノ指揮ヲ請フベシ

第五條 本場ニ到達スル文書物品ハ庶務部ニ於テ開封ノ上其件名簿ニ登載シ文書ニハ番号年月日ヲ記入シ場長ノ檢閲ヲ受ケタル後チ之ヲ主任者ニ配付シ件名簿ニ受領者ノ檢印ヲ受クベシ

但親展書ハ封緘ノ儘件名簿ニ登載シ場長宛ノモノハ其件名簿ト共ニ場長ニ其他ハ直ニ宛名ノ者ニ配付シ受領印

一、佐賀縣水産試驗場處務細則



- 第六條 各部主任ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルキハ速ニ處分案ヲ起草シ回議又ハ回覽ノ手續ヲナスベシ
- 第七條 庶務部ニ於テ各主任者ヨリ發送スベキ文書ノ回付ヲ受ケタルトキハ速ニ淨寫校合ノ上件名簿ニ登載シ發送ノ手續ヲナスベシ
- 第八條 郵便電報若クハ小包發送ノ場合ハ前項ノ外郵便切手受拂簿ニ記載シ通運便ニ托スルキハ發送簿ニ其旨附記スベシ
- 第九條 翌年度ニ施行セントスル試驗及其ノ他ノ計畫ハ各主任者ニ於テ七月末日マデニ取調ヘ場長ニ差出スベシ
- 第十條 書籍圖書其他保存スヘキモノハ受付ノ都度簿冊ニ登載シテ保存スヘシ
- 第十壹條 庶務部ニ於テハ其年ノ收受發送文書ノ件數ヲ調査シ翌年一月三十日迄ニ場長ニ差出スベシ
- 第十貳條 場員登場シタルキハ自ラ出勤簿ニ捺印スベシ
- 第十參條 場員疾病又ハ事故アリテ登場シ能ハザルキハ其ノ事由ヲ記シテ届出ツベシ
- 第十肆條 若シ疾病ノ爲メ缺勤五日以上ニ涉ルキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ベシ
- 第十伍條 忌服ヲ受ケタルキハ其旨届出ベシ
- 第十陸條 私事旅行又ハ歸省セントスルキハ場長ノ許可ヲ受クベシ
- 第十柒條 場員ハ事務ノ繁閑ニ依リ互ニ相補助スベシ
- 第十捌條 宿直ニ關シテハ佐賀縣廳庶務處細則ヲ準用ス

佐賀縣水産試驗場鯉兒配付規程

- 第一條 本場附屬養魚試驗地ニ於テ養成シタル鯉兒ハ淡水振魚事業獎勵ノ爲本縣内都市町村其他公共團體學校及振魚經營者ニ限リ本規程ニ依リ配付ス
- 第二條 鯉兒ノ配付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ毎年五月末日マデ本場ニ出願許可ヲ受クヘシ
  - 一 飼養スベキ場所及面積(區畫漁業免許ノモノハ其ノ免許番號ヲモ記載スルコト)
  - 一 所要ノ尾數並休長
  - 一 放養豫定月日
- 第三條 配付ヲ爲ス鯉兒ノ價格ハ左ノ如シ
  - 一 鯉兒體長壹寸以下ノモノ壹尾ニ付壹厘
  - 一 鯉兒體長壹寸以上壹寸五分以下ノモノ壹尾ニ付貳厘
  - 一 鯉兒體長壹寸五分以上貳寸以下ノモノ壹尾ニ付四厘
  - 一 鯉兒體長貳寸以上參寸以下ノモノ壹尾ニ付八厘
  - 一 鯉兒體長參寸以上四寸以下ノモノ壹尾ニ付壹錢
  - 一 鯉兒體長四寸以上ノモノハ量目ニ依リ其都度價格ヲ定ム
- 第四條 出願ノ鯉兒數配付スヘキ豫定數ニ超過スルトキハ尾數ヲ減シテ許可ス
- 第五條 第二條ニ依リ許可シタルキハ鯉兒引渡ノ期日及場所ヲ定メ之ヲ出願者ニ通知スルモノトス
- 第六條 鯉兒配付ノ許可ヲ受ケタルモノハ代金納付ノ上其ノ領收證ヲ指定ノ場所ニ持參シ現品ヲ受取ルベシ
- 第七條 本場ヨリ配付ヲ受ケタル鯉兒ハ左ニ掲クル期間飼養スルニアラザレバ他ニ販賣スルコトヲ得ス



一、佐賀縣水產試驗場漁獲物養成物並製品處分規程

一 稻田ニ於テ飼養スルモノハ六十日以上

一 池、沼、溜池、濠等ニ飼養スルモノハ滿一ケ年以上

第八條 鯉兒配付ノ許可後天災地變其他不可抗力ノ爲許可シタル尾數ヲ配付シ難キキ又ハ配付ノ許可ヲ受ケタルモノ受渡當日ニ出頭セザルキハ其許可ヲ取消シ若クハ尾數ヲ減スルコトアルヘシ

第九條 配付ヲ受ケタル鯉兒ヲ第四條ノ期間内飼養セズシテ他ニ轉賣シタルキハ市價相當ノ代價ヲ追徵ス

佐賀縣水產試驗場漁獲物養成物並製品處分規程

第一條 本場各試驗事業ヨリ生スル漁獲物養成物並ニ製品ハ本規程ニ依リ處理スルモノトス

第二條 漁獲物ハ製造試驗用ノ原料ニ供スルモノ、外其ノ時々經伺セス隨意賣却ヲ爲シ事後其事實ヲ詳具シ縣廳ニ報告スルモノトス

第三條 製品ハ製了後試食用數量、見本數量、試驗用數量、廢棄數量ニ區別シ殘餘品ハ時機ヲ見計ヒ賣却スルモノトス

第四條 養成物ハ製造、試驗用ノ原料ニ供スルモノ、外賣却スルモノトス

但魚苗ハ配付規程ニ依リ處理スルモノトス

第五條 魚苗以外ノ養成物及製品ハ量目二十貫匁、個數百個以内ニシテ各價額貳拾圓未滿ノモノハ其時々經伺セス隨時賣却シ得ルモノトス

第六條 魚苗以外ノ養成物及製品ハ毎年度末ニ於テ見本、試賣、賣却、廢棄及現在品ノ明細表ヲ作り尙ホ試賣品ニ付ハテ其批評等ヲ具シ縣廳ニ報告スルモノトス

本場及出張所ノ位置

一本場

佐賀縣廳內

二 有明海出張所

藤津郡八本木村

三 松浦海出張所

東松浦郡呼子村

四 淡水養魚池事務所

佐賀郡高木瀬

職員及擔當業務

場長	(事務取扱)	事務官補	福地榮
技師		水産技師	木原方吉
養殖主任	(本場在勤)	技手	吉津常藏
漁撈主任	(松浦海出張所在勤)	技手	宮田光
庶務會計	(本場在勤)	書記	平田兵三
松浦海出張所在勤		助手	大坂庫太郎
有明海出張所在勤		助手	磯谷克雄
淡水養魚池事務所所在勤		助手	田中勘治

一、本場及出張所ノ位置 一、職員及擔當業務



一、明治四十四年度經費豫算

明治四十四年度經費豫算

一、支出豫算

經常部

一金七千五百八拾圓

內譯

金千八百參拾六圓

內

金千八拾圓

金五百七拾六圓

金百八拾圓

金貳千五百八拾四圓

內

金千圓

金貳百拾九圓六拾錢

金百四拾四圓

金千九拾參圓貳拾錢

金貳拾七圓五拾四錢

水產試驗場費

俸給

技手給

助手給

書記給

旅費

小使給

監守人給

備人給

勉勵手當

金參千百六拾圓

內

金千七百四拾八圓八拾錢

金百六拾七圓

金六拾圓

金五拾圓

金百九拾貳圓

金六百八拾五圓

金百八拾貳圓貳拾錢

金貳拾五圓

金五拾圓

臨時部

一金參百五拾圓

此外試驗場設立ノ前年度即明治四十三年度ニ於テ淡水養魚試驗池ノ設備費トシテ金千四百參拾九圓ヲ支出セリ

基本調査船貳艘新造費

二、收入豫算

經常部

一金七百五拾圓

雜收入

一、明治四十四年度經費豫算



### 試驗及調査事項

#### 漁業基本調査

本縣ハ北方松浦海ヲ控ヘ南方有明海ニ瀕ス而シテ松浦海ハ外海有明海ハ内海ニシテ其海況全ク異ナルノミナラス棲息スル水族亦異ナルカ故ニ基本調査ハ兩海ニ於テ之ヲ爲スコト、シ松浦有明ノ兩方面ニ出張所ヲ設ケ農商務省指定ノ調査事項ニ就キ本年六月ヨリ毎月六回ノ海洋観測ヲ實行セリ其ノ結果ハ別ニ一括シテ報告スヘシ猶本年度ニ於ケル漁村調査ハ東松浦郡ニ於テ玉島、濱崎、鏡、満島、唐津村ノ五ヶ村藤津郡ニ於テ大浦、多良、七浦、南鹿島、北鹿島村ノ五ヶ村ニ就キ調査ヲナセリ之等ハ縣下全漁村ノ調査終了ノ上報告スベシ

今漁業基本調査ノ調査範圍及方法中本縣ニ於テ爲スベキ事項ヲ摘記スレバ左ノ如シ

#### 事項

##### 乙 浮游生物ノ調査

- 一 浮游生物ヲ採收シタルキハ左ノ事項ヲ記載スルコト
  - イ、採收ノ日時、天候、風向、風力、氣温、比重、水色、透明、度、月齡、潮候、潮流及速度
  - ロ、生物採收ノ位置水面ヨリノ距離
  - ハ、分量ノ大要其他參考トナルヘキモノ
- 以上ノ外附帶調査トシテ一般ノ漁況ヲ調査セリ
- 丁 漁場、漁船、漁具、漁法及漁獲物ノ變遷
- 一 各種漁業ニ就キ其沿革並現況ヲ調査スルコト

- 二 前項ノ調査ハ地方廳及地方水産試驗場等ト協定ノ上之ヲ行フコト
- 三 調査ノ要項ハ左ノ範圍ニ準スルコト

イ、現在ノ漁場、漁船、漁具、漁法、漁獲物及ビ其ノ利用

ロ、漁業ノ組織及經濟

ハ、廢滅ニ歸シタル漁場、漁船、漁具、漁法、漁獲物利用法並其ノ廢滅シタル理由

ニ、新漁場ノ發見又ハ新漁船、漁具、漁法、漁獲物ノ創始及其ノ沿革

ホ、漁場、漁船、漁具、漁法及漁獲物利用法ノ變更並ニ沿革

- 四 前項ノ調査ニハ左ノ事項ニ就キ精細ノ取調ヲ爲スコト

イ、漁具及附屬具ノ構造、寸法、材料

ロ、漁業ノ方法

ハ、漁船及附屬具ノ構造寸法、材料、運用方法、乗組員

ニ、漁獲物ノ種類、數量、大サ、去來、又ハ發生、採捕ノ時季

ホ、主要漁獲物大漁、不漁ノ年月日及其ノ原因ト認ムヘキ事項

ヘ、漁場ノ位置、廣袤、水深、底質、海流、潮流、水色、生物等

ト、漁獲物ノ處理、貯藏、運搬法等

チ、漁業資本、漁夫雇人、利益分配法、餌料供給

- 五 漁場、漁船、漁具、漁法ノ創始、變更、廢滅ノ漁獲物及漁獲高ニ及ホシタル影響



### 漁撈部

#### 網延繩及一本釣漁業試驗

主任技手 宮 田 光

本縣松浦海ハ網延繩及網一本釣等ノ漁業ニ適シ其ノ區域頗ル廣潤ナルニモ拘ラス在來ノ該漁船ノ多クハ肩巾五尺以内ノ小形船ニシテ僅カニ加唐島、小川島、馬渡島等ノ近海ニ於テ從漁スルニ過キス從テ其ノ技モ亦拙劣ナルヲ以テ漁船ノ如キハ屢之カ改良ヲ促スモ未タ改善ノ機運ニ至ラス漁利ノ大部ハ却テ他縣出漁民ニ致サル、ノ狀態ナルヲ以テ該漁夫ノ養成並漁場調査ノ爲メ東西松浦水産組合ヨリ肩巾七尺五寸ノ漁船ヲ借入レ本年六月十二日ヨリ十一月十八日ニ至ル間延繩及一本釣漁業ノ試驗ヲ施行シタルニ其ノ成績左ノ如シ

#### 漁場

漁場ハ主トシテ壹州水道、烏帽子島附近、壹州北方、全大島ト二神島トノ間ヲ操業ス

#### 漁船並ニ乗組員

本縣東西松浦水産組合所有ノ肩巾七尺五寸ノ日本形漁船ヲ借入レ山口縣人ヲ漁夫長ニ又呼子村ヨリ三名湊村ヨリ一名ノ漁夫ヲ傭入合計五名ヲ以テ從事セリ

#### 漁具

延繩ハ本縣ニ於ケル同漁業ノ盛大ナル湊村、呼子村及名古屋村ニ於テ製造シタルモノヲ購入シ其ノ儘使用セリ其ノ構造左ノ如シ

#### 湊村

幹繩ハ麻製二子撚一鉢ノ長サ四百五十尋重量二百三十匁

枝条ハ全上長サ三尋一尺ノモノヲ幹繩九尋毎ニ一本ヲ結付ス總數五拾本重量五拾匁

#### 呼子村

幹繩ハ麻製二子撚一鉢ノ長サ四百尋重量貳百貳拾匁

枝条ハ全上長サ三尋半ノモノヲ幹繩八尋毎ニ結付ス總數五拾本重量五拾七匁

#### 名古屋村

幹繩ハ麻製二子撚長サ七百尋重量四百匁

枝条ハ全上長サ三尋ノモノヲ幹繩十尋毎ニ結付ス總數七拾本重量八拾四匁

以上三種ノ釣具ヲ併用シタルニ其ノ太サニ於テハ海底泥砂質ノ場所ニ使用スルニハ適當ナルモ岩礁等ノ場所ニ使用スルニハ細キニ過クルノ感アリ又一鉢ノ長サニ於テモ湊村、呼子村製ノモノハ短キ爲メ徒ニ鉢數ヲ増シ船内ニ於ケル取扱上不便ナルヲ以テ之ヲ七百尋ニ一定セリ

枝条ノ長サニ於テハ之ヲ三尋ニ短縮ス

枝条間ノ距離遠キニ失スルヲ以テ之ヲ十尋ニ短縮ス

以上ノ如ク改造シタル結果其ノ構造左ノ如シ

幹繩ハ一鉢ノ長サ七百尋ニシテ太サハ前記ノ三種ヲ以テス

枝条ハ長サ三尋ノモノヲ幹繩七尋毎ニ結付ス總數百本太サハ前全様

釣鉤ハ亞鉛線徑六厘長サ一寸八分ニシテ形狀左圖ノ如シ

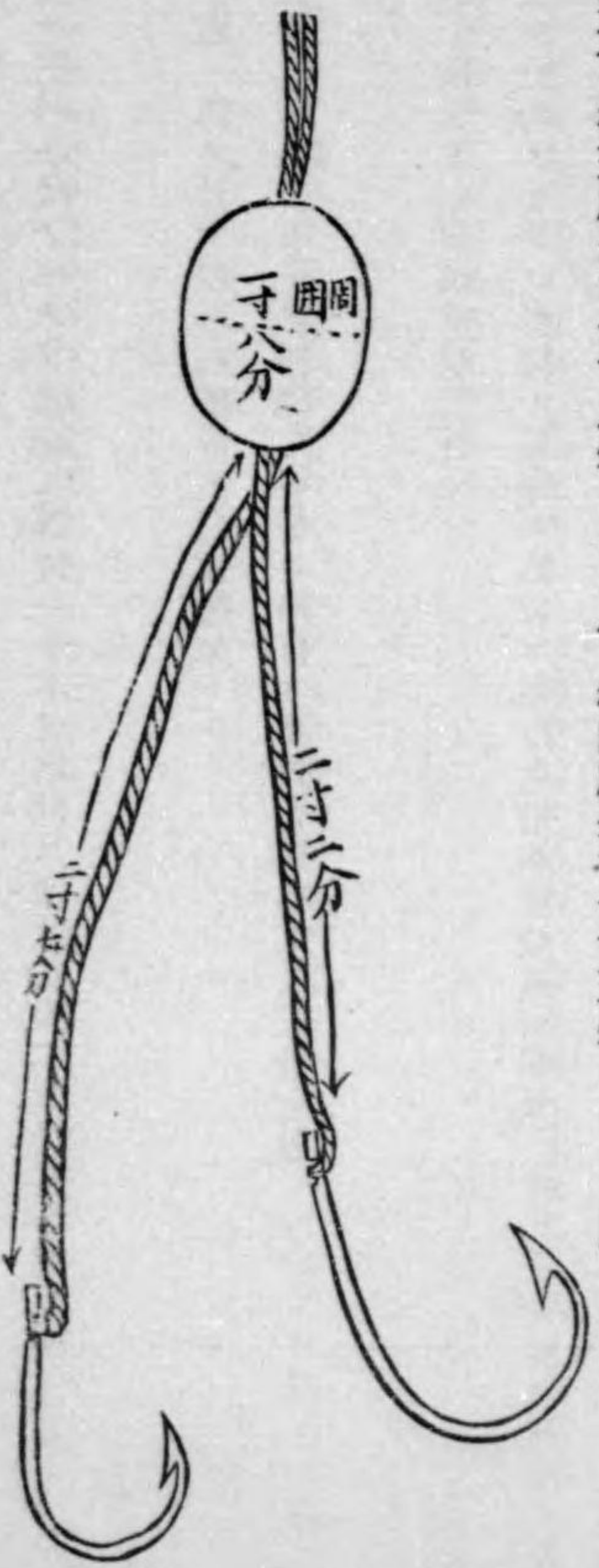




一、網延繩及一本釣漁業試験

浮標繩ハ麻製三子燃太サ徑一分二厘ノモノ四本長サ各八十尋  
 浮標 ハ徑一尺六寸高サ一尺ノ樽四個  
 錨 ハ木製ノモノニ石ヲ結付ス  
 餌料 ハ柔魚ノ活餌  
 改良漁具鯛一本釣

元やまハ麻製二子右燃長サ三拾尋重量八匁  
 先やまハ絹糸二子右燃長サ二十四尋重サ十一匁  
 天蚕糸ハ先やまノ先端ニ人造天蚕糸三尋ヲ付シ更ニ一尋半ノ天蚕糸ヲ結付ス  
 沈子釣ノ上部ハ圓形ニシテ重サ十三匁ノ鉛一個ヲ付シ先やまニハ棗形ニシテ重サ五分ノ鉛ヲ三尺ヲ隔テ、全部即チ二十七尋間ニ結付ス總數四十五個  
 釣鈎錫鍍鐵製大サ徑五厘長サ一寸八分ノモノ及ヒ徑四厘長サ一寸五分ノモノヲ用フ  
 餌料小蝦



小鯛一本釣

元やま麻製二子右燃長サ三十尋重サ七匁五分  
 先やま絹製右二子燃長サ二十九尋重サ十一匁  
 天蚕糸ハ先やまノ先端ニ一尋一尺ヲ付シ之ニ長サ六寸ノ枝系四本ヲ結付ス  
 沈子天蚕糸ノ先端ニハ圓錐形重サ三十二匁ノ鉛ヲ付ス  
 先やまニハ棗形重サ三匁ノモノヲ元やまヨリ一尋ニ付左記ノ如ク添付ス  
 一尋目十三個二尋目十二個三尋目十四個四尋目十四個五尋目十四個六尋目十四個七尋目十四個八尋目十五個九尋目十二個  
 十尋目十二個十一尋目十二個十二尋目十三個十三尋目十三個十四尋目十五個十五尋目十六個十六尋目十六個十七尋目十七  
 個十八尋目十七個十九尋目十七個二十尋目十四個二十一尋目十五個二十二尋目二十三個二十三尋目十五個二十四尋目十五個  
 二十五尋目十五個二十六尋目九個二十七尋目九個二十八尋目九個二十九尋目ニハ一個重サ六分ノモノ五個ニ等分ニ付ス  
 釣鈎錫鍍鐵製徑三厘長サ一寸三分ノモノヲ用フ  
 餌料小蝦

網延繩操業日誌



月	日	氣象	底質	漁場	餌料	漁具	漁獲物	摘	要
六月	十六日	晴							
		天氣 風向 風力			使用 數	使用 時期	種類 數量	本日午後六時出帆	
		NW 4							

一、網延繩操業日誌



月日	天氣	風向	風力	質底	漁場	料餌	漁具	漁獲物	摘	要
六月十七日	晴	NW	4	砂	加唐島ノ西北端ヨリ北西ニムケテ延下	カイ	三	六時	一	午前三時餌料ヲ求メ漁場ニ向フ
六月十八日	晴	SW	4	砂	松島ト加唐島ノ間ヲ北ヨリ南向テ下ル	カイ	三	七時	一	午後十一時餌料ヲ得小川島ニムケテ
六月廿一日	晴	W	3	礁	加唐島北方ヨリ二日瀬	カイ	六	七時	二	晝間小川島ニ假泊ス
六月廿五日	晴	S	4	礁	全上	カイ	六	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
六月廿九日	晴	S	3	砂	二日瀬ヨリ黒瀬マテ	カイ	一〇	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月六日	晴	S	1	礁	名島ト小川島トノ中間	カイ	一〇	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月七日	曇	S	5	砂	全上	カイ	一〇	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月十二日	曇	E	3	砂	加唐島ノ東端ヨリ小川島ニムケテ更ニ東方ニ下ス	カイ	六	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月十五日	晴	SW	42	砂	小川島ノ東方ヨリ烏帽子島ノ間	カイ	四	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月十九日	晴	W	4	礁	鷹島ヨリ東方ニムケテ	カイ	三	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月廿一日	晴	W	4	礁	小川島ノ沖合四渾ノ處	カイ	四	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
七月廿八日	晴	W	3	砂	小川島ノ東方約二渾	カイ	三	七時	二	午前四時餌料ヲ求ム
十一月三十日	曇	N	3	礁	烏帽子島ノ沖合三渾	カイ	二	七時	一	餌料小數ノ爲メ沖合ニ出ヅルコト能ハス

鯛一本釣操業日誌

月日	天氣	風向	風力	質底	漁場	料餌	漁具	漁獲物	摘	要
七月十七日	晴	W	4	砂	烏帽子島ヨリ小川島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月十八日	晴	S	3	砂	小川島ノ東方ヨリ烏帽子島ト名島ノ中間マテ	ピエ	五	六時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月二十日	晴	W	3	砂	姫島ト烏帽子島ノ間	ピエ	六	八時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月廿一日	晴	W	3	砂	姫島ト烏帽子島ノ中間ヨリ高島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月廿五日	晴	W	3	砂	烏帽子島ヨリ小川島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月廿六日	晴	W	4	砂	烏帽子島ヨリ全島ノ北方約五渾ノ處	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月廿七日	曇	SW	3	砂	烏帽子島ヨリ小川島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
七月廿七日	雨	N	3	砂	烏帽子島ヨリ小川島マテ	ピエ	四	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月一日	午前雨 午後晴	W	3	砂	土器崎ノ北方二渾ノ處ヨリ加部島ノ北端マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月二日	晴	W	0	礁	加部島ヨリ小川島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月三日	晴	N	2	岩及砂	名島ノ南方三渾ノ處ヨリ烏帽子島マテ	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月四日	曇	NE	4	岩及砂	烏帽子島ノ東方三渾ノ處	ピエ	五	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月四日	曇	NE	5	岩及砂	松島ヨリ馬渡島マテ	ピエ	四	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル
八月十二日	晴	W	2	礁	松島ヨリ馬渡島マテ	ピエ	四	七時	一〇	午後二時ヨリ豪雨トナリ午後九時頃ヨリ北東ノ烈風トナル







九月廿五日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日	九月三十日	十月一日	十月二日	十月三日	十月四日	十月五日	十月六日	十月七日	十月八日	十月九日	十月十日	十月十一日	十月十二日	十月十三日	十月十四日	十月十五日	十月十六日	十月十七日	十月十八日		
晴	雨	雨	雨	雨	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	
N	S	N	S	SN	N	S	NW	NW	N	N	N	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	
2	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
礫	砂	泥	礫	礫	礫	礫	砂	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	礫	
假屋灣ヨリ向島マテ	向島北方二湊	壹州魚釣崎ヨリ湯水沖	壹州大島ノ西方約三湊	壹州平瀬ノ西方二湊	加唐島北方約三湊	向島ヨリ松島マテ	加唐島北方三湊	平瀬ト島帽子ノ間	加唐島ノ北方三湊	加唐島ノ北方四湊	加唐島ノ北方四湊	馬渡島ノ北方三湊	名島ノ北方二湊	小川島ノ北方四湊	松島沖ノ二湊ノ處ヨリ加唐島ノ北方三ノ處									
ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	ピエ	
四	三	三	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
午前	午前	午前	午後	午後	午前	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	
七時	九時	九時	六時	四時	五時	七時	八時	四時	七時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	六時	
小たい	小たい	小たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	口たい	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	

備考

本表中月日記載セス其ノ使用月日ニ甚敷懸隔アルハ餌料ナキ爲沖合ニ假泊シ又ハ荒天ノ爲メ出漁セサル等ノ關係ヨリ生シタルモノナリ故ニ本表ハ實際漁撈ニ從事シタル月日ノミヲ掲クルコト、セリ

前記ノ結果ニ依レハ今回ノ試験ハ其ノ漁獲高ヨリ見ルトキハ決シテ優良ノ成績ニ非ズト雖本年ハ試験場設立當時ニシテ前例ノ範ル可キモノナク諸般ノ準備ト漁業ノ經驗トニ於テ未タ完カラス加之天候ノ不良餌料ノ缺乏並漁船ノ構造不十分ニシテ操縦意ノ如クナラサリシト一ハ「トロール」漁船ノ禁示區域内ニ侵漁シ鯛漁場ヲシテ殆ト荒廢ニ歸セシメタルニ因ルモノ、如シ依テ明年度ニ於テハ新ニ適當ノ漁船ヲ建造シ以テ之カ試験ヲ繼續シ充分ナル効果ヲ舉ケン事ヲ期ス



## 製造部

### 雲丹製造試験

主任助手 大阪 庫太郎

雲丹ノ原料タル海膽ハ縣下東松浦郡ノ沿岸一帯何レモ産セサルナシ就中小川島、高島、神集島、加唐島、馬渡島等最多シ然レトモ之カ採捕ヲナシ製造スルモノ甚タ稀ニシテ只僅ニ高島、小川島ニ於テ之カ採捕製造ヲ爲スモノアルノミニシテ他ハ總テ之ヲ放棄シテ顧ミルモノナキ有様ナリ尙高島、小川島ノ當業者ニ於テ製造セラレタル品ヲ見ルニ其ノ製方極メテ幼稚ニシテ到底上流社會ノ嗜好ニ供スル能ハス殊ニ當業者ニシテ雲丹ハ梅雨期ニ於テハ腐敗スルモノ、如ク考ヘ居レリ故ニ之レカ製造ノ改良ヲ計ルト全時ニ雲丹製造ヲ指導獎勵スル時ハ其ノ産額モ蓋シ僅少ナラサル可シ茲ニ於テ本年度ニテハ雲丹ノ製造法ヲ一般當業者ニ示スト全時ニ一方雲丹ハ梅雨期ニ於テ腐敗スルモノニアラサルコトヲ知ラシメンカ爲メニ之カ試製ヲナシタリ試験ハ東松浦郡呼子村大字小川島ニ於テ實施セリ

右小川島ハ目今雲丹製造業者ノ比較的多キト原料ヲ得ルニ容易ナルトニヨリ特ニ此ノ地ニ於テ施行セリ

本試験ハ明年度ヨリ引續キ行フ可キ豫定ナルヲ以テ詳細ナル事ハ明年度ヨリノ繼續試験ノ完了ヲ待テ報告スヘシ本試験施行ノ大要左ノ如シ

試験施行年月日

明治四十四年五月十六日

原料ニ供シタル海膽ノ種類

鬼ガゼ、坊主ガゼ

原料ニ供シタル卵巣ノ種類並數量

一、雲丹製造試験



鬼ガゼ 四舛  
坊主ガゼ 二合五勺

右原料ヲ左ノ三種ニ區別ス

- 二合五勺鹽 (卵巢一舛ニ對シ)
- 三合鹽 ( )
- 三合五勺鹽 ( )

製造方法

採捕シタル海膽ノ殼ヲ割り丁寧ニ卵巢ノミヲ採集シ前記ノ割合ノ鹽量ニヨリ鹽漬ヲナスコト約四十日ニシテ後之ヲ取出シ  
滲出水分ヲ寒冷紗ノ袋ニテ濾過シ更ニ硝子瓶ニ入レ貯藏ス

結果

三種共優ニ一ヶ年ノ保存ニ堪ヘタリ

布糊製造指導

ふのりハ縣下東松浦郡沿岸一帯ニ饒産シ殊ニ昨四十三年五月ヨリふのり養殖實施ト共ニ其ノ産額モ著シク増加シ性質モ極メ  
テ良好ナリ然ルニ在來之レカ製造ノ方法甚ダ幼稚ナルヲ以テ製造濫雜ニシテ良品ヲ出サス仍而之カ製法ヲ指導シ善良ナル製  
品ノ製出ヲ計ルノ目的ヲ以テ產地各村ニ出張シ製造ノ指導ヲナシタリ其ノ概要左ノ如シ

指導村名

東松浦郡名古屋、同郡滿島村、全郡玉島村、全郡入野村、全郡湊村

指導ノ要項

- 一、採藻ニ付キ
  - (一) 採藻ハ適當ニ成長セルモノヲ採收スルコト
  - (二) 採藻ハ可成摘藻ヲナシ介殼雜藻ノ混セサル様注意スルコト
  - (三) 種類ヲ異ニセルモノハ各別ニ採收スルコト
- 二、脱鹽ニ付キ
  - (一) 原藻ニ付着混合シ洗滌ニヨリ除去セラルヘキ鹽類其他ノ夾雜物ヲ除去スルコト
  - (二) 原藻ノ軟化及枝條ノ展伸ヲ充分ニ實行スルコト
- 三、蕙付ニ付キ
  - (一) 蕙ハ新ラシキモノヨリ古キモノ良好ナルコト
  - (二) 梓ヲ作り可成形ヲ一定スルコト
  - (三) 平均ニ厚薄ナキ様蕙付ヲナスコト
- 四、撒水ニ付キ
  - (一) 蕙付後撒水ヲナスコト
  - (二) 撒水ノ量並回数ハ原藻ノ硬軟天候ノ如何ニヨリ斟酌スルコト
  - (三) 撒水ハ如露ニテ行フ方最モ良好ナルコト
- 五、晒白乾燥ニ付キ
  - (一) 要スルニ布糊製造ヲ行フ際注意スヘキハ天候ヲ見定ムルコト最モ肝要ニシテ如何ニ技術ニ熟練ナルモノト雖天候ノ



一、海羅製造

如何ニヨリテハ精良品ノ製出ハ不可能ナルニヨリ天候ノ見定ニ注意スルコト  
指導セシ結果

各地共製造法ヲ了知シ精良品ノ製造ニ努メタル結果價格ニ於テモ從前ニ比シ二、三割乃至四、五割ハ騰貴スルニ至レリ

養 殖 部

蠶貝被害原因調査並ニ稚貝保護試驗

主任技手 吉 津 常 藏  
助手 磯 谷 克 雄

蠶貝ハ本縣有明海ニ於ケル水産物中其ノ産額ニ於テ第一位ヲ占メ一時ハ其ノ養殖面積九拾六萬坪産額拾八萬四千圓ニ達シ乾製蠶貝ハ海外輸出品トシテ從來盛ニ製出セシモ明治四十一年ヨリ四十二年ニ至ル三ケ年間打續養殖場内ノ蠶貝ハ殆ント全部斃死セシヲ以テ一般養殖業者ハ將來ノ養殖上ニ不安ノ念ヲ起シ一時休業又ハ廢業スル者續出シ四十四年十二月末ニ於テハ養殖面積四拾四萬五千坪ニ減少セリ然レモ有明海ニ於ケル干瀉面積ハ約八千五百五拾參萬坪ニシテ其ノ内四百萬坪ハ蠶貝養殖場ニ利用シ得ラル、見込アルヲ以テ先ツ蠶貝被害ノ原因調査ト共ニ其ノ被害ヲ避クルノ養殖法ヲ講スルノ必要ヲ認メ藤津郡八本木村地先及佐賀郡南川副村地先ニ各一ヶ所ノ試驗地ヲ設ケ本年五月ヨリ八月ニ至ル間毎月稚貝ヲ蒔付ケ月ニ六回ノ定期海洋觀測ヲ行ヒ其他蠶貝被害ノ原因調査ニ關シテハ附帶的各種試驗ヲ併行セリ左ニ項ヲ追フテ其ノ功程ヲ敘述ス

稚貝採收運搬並ニ處理法

本試驗用稚貝ハ佐賀郡南川副村地先ニ發生シタルモノヲ手取法ニ依リ採收シ附着セル泥土ハ丁寧ニ洗落シ壹斗五升入ノ俵ニ七、八分目ニ入レ船内ニ積ミ重ネ運搬中二回乃至三回潮水ヲ打チ掛ケ乾カサル様苦ヲ覆ヒ採收ヨリ二十四時間以内ニ蒔付ヲ終了セリ

稚貝蒔付方法

從來當業者ニ於テハ潮時ト唱ヘ養殖地ノ周圍ニ豫メ長キ竹ヲ立テ置キ之ヲ目標トシ滿潮時潮流ノ緩ナル時刻ヲ見計ヒ棹ニテ船ヲ進メツ、潮上ヨリ蒔入ル、ヲ以テ厚薄一樣ナラサルヲ例トス故ニ本場ニ於テハ干瀉時ニ際シ瀉ノ露出セシトキ瀉桶ニ稚貝ヲ入レ之ニ潮水ヲ加ヘ其ノ瀉桶ヲ瀉板ニ乗セ坪數ニ對シ定量ノ石數ヲ厚薄ナキ様蒔付ヲ爲セリ

一、蠶貝被害原因調査並ニ稚貝保護試驗







本表ニ依レバ養殖日數百三十日間ニシテ蒔付當時ノ体量ニ比シ貳舛蒔ノモノ七倍四歩、參舛蒔ノモノ六倍五歩、四舛蒔ノモノ五倍五歩ニ成長シ居レリ又收納石數ハ蒔付量ニ比シ貳舛蒔ノモノ五割、參舛蒔ノモノ六割壹歩六厘、四舛蒔ノモノ參割貳歩ノ增收トナレリ

五月二十八日蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付當時ノ体量		種貝	採收時ノ成長度
	體長	體量		
五合蒔	一寸	三分八厘	四百全粒	
壹舛蒔	全	全	九百全粒	
壹舛五合蒔	全	全	千三百八十粒	

本表中採收時ノ成長度等ヲ記載セサルハ六月上旬被害ノ爲メ天然發生地ニ於ケル種貝ハ過半ハ減少シ試驗地ニ蒔付ノ種貝モ全部死滅セシニ由ル

六月二十三日蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付當時ノ体量		種貝	採收時ノ成長度
	體長	體量		
壹舛蒔	一寸五分	七分二厘	五百粒	二寸六分 七釐六厘
貳舛蒔	全	全	千粒	二寸七分 七釐五厘
參舛蒔	全	全	千五百粒	二寸五分 七釐二分

本表ニ依レバ養殖日數九十日間ニシテ蒔付當時ノ体量ニ比シ壹舛蒔ノモノ十倍七歩、貳舛蒔ノモノ十倍四歩、參舛蒔ノモノ九倍八歩ニ成長シ居レリ又收納石數ハ蒔付量ニ比シ壹舛蒔ノモノ四倍壹歩、貳舛蒔ノモノ參倍六歩、參舛蒔ノモノ參

倍ノ增收トナレリ

七月十二日蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付當時ノ体量		種貝	採收時ノ成長度
	體長	體量		
壹舛蒔	一寸五分	七分五厘	四百粒	二寸四分 六釐六厘
貳舛蒔	全	全	八百粒	二寸四分 六釐二分
參舛蒔	全	全	千二百粒	二寸七分 五釐七分

本表ニ依レバ養殖日數七十一日ニシテ蒔付當時ノ体量ニ比シ壹舛蒔ノモノ八倍三歩、貳舛蒔ノモノ八倍、參舛蒔ノモノ七倍六歩ニ成長シ居レリ又收納石數ハ蒔付量ニ比シ壹舛蒔ノモノ貳倍貳歩、貳舛蒔ノモノ貳倍參歩、參舛蒔ノモノ貳倍四歩(稍ヤ疑アリ)ノ增收トナレリ

八月十二日蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付當時ノ体量		種貝	採收時ノ成長度
	體長	體量		
壹舛五合蒔	一寸三分	八分	三百九十粒	五寸八十五粒
貳舛蒔	全	全	七百八十粒	七百八十粒
參舛蒔	全	全	千四百粒	千四百粒

附記 本表ノ八月蒔ハ次年ニ採取スルコト、セリ

以上三ヶ月ノ成績ニ依レバ種貝蒔付量ハ五月ハ坪參舛(古種貝)蒔、六月ハ坪貳舛蒔、七月ハ坪參舛蒔(稍ヤ疑アリ)ヲ適度ト認メラル又本試驗種貝ヲ原料トシテ製造シタル乾種貝ノ歩留等ハ左ノ如シ



蠶貝製造歩合

調査事項	月別	五月	六月	七月	摘要
原料用數量		壹斗參外壹合	貳斗四合	壹斗四外貳合	前記坪時試驗介ナ月毎ニ區別シ原料トセリ
全上重量		四貫百九拾貳匁	六貫五百貳拾八匁	四貫五百四拾四匁	
原料生介ニ對スル煮熟後ノ歩留		五割九步	五割六步	五割五步	煮熟後秤量シタルモノ
煮熟後ニ於ケル肉ト殻トノ歩留		肉五割九步 殼四割九步	肉五割八步 殼四割七步	肉五割七步 殼四割七步	
乾上ケ製了後ノ斤數		參斤貳合貳匁	參斤九合九匁	貳斤參合貳匁	煮熟後ノ肉量ニ對スル乾上ノ歩留
製品壹斤ニ要セシ原料		四外七匁	五外壹合四匁	六外壹合貳匁	
製品壹斤ノ粒數		百五十粒	貳百貳拾粒	參百參拾粒	天日ノミヲ以テ乾燥シタルモノ

本表中製品壹斤ニ要セシ原料生介ノ數量ハ五月時ノモノ四外七匁、六月時ノモノ五外壹合四匁、七月時ノモノ六外壹合貳匁ニシテ其ノ製品ハ長崎ニ於ケル輸出品ノ標準ニ依レハ壹斤百五十粒ノモノハ大形ノ特別大ニ、貳百貳拾粒ノモノハ大形ノ中ニ、參百參拾粒ノモノハ中形ノ大ニ、相當シ何レモ輸出ニ適當セリ

蠶貝生育ト海水比重トノ關係試驗

本試驗ハ海水比重ノ變化ニヨリ蠶貝生育上ニ及ホス關係ノ調査ニシテ圓筒形ノ高サ貳尺貳寸ノ甕ニ深サ壹尺貳寸マデ瀉泥ヲ入レ更ニ比重一、〇二〇ノ天然海水ト之ニ淡水又ハ食鹽ヲ加ヘテ製シタル一、〇〇五、一、〇一〇、一、〇一五、一、〇二〇、一、〇二五ノ海水及淡水ヲ泥面上六寸ノ深ニ盛リ各容器ニ蠶貝五粒ツ、ヲ放養シ稚貝ト壯成貝ト二種ニ就キ比重

ノ比較試驗ヲ施行シタルニ其ノ結果左ノ如シ

稚貝生育ト比重試驗

番号	海水比重	試養中ノ生活狀態	全部死滅セシ月日	放養ヨリ斃死スル迄ノ時間
一号	一、〇〇〇	六月十九日午前十時放養以來泥中ニ潛伏シ時々泥上ヲ吐出シ二十三日マテ更ニ異狀ナシ二十三日ニ至リ稍ヤ呼吸ハ弱クシテ太クニ見ルニ至リ二十七日ニ至リモ生存セリ	稍ヤ異狀アリシモ斃死セズ	1
二号	一、〇〇五	六月十九日放養以來泥中ニ潛伏シ二十七日ニ至リモ異狀ナク健全ニ生活シ居レリ	更ニ異狀ナシ	1
三号	一、〇一〇	六月十九日放養翌二十日ニ至リ三粒泥面上ニ呼吸管ヲ出シヤ、異狀ヲ認ム二十三日ニ至リ二粒斃死セリ二十五日ニ至リ殘リ三粒モ體セ弱衰ヘ居レリ	稍ヤ異狀アリシモ斃死セズ	1
四号	一、〇一五	六月十九日放養翌二十日ニ至リ五粒トモ盛ニ音泥ヲ吹き出ス二十三日ニ至リ三粒ハ終ニ泥中ニ潛ミタルマ、斃死シ居レリ二十四日ニハ殘二粒モ殆ト死ニ瀕セリ越テ二十五日午前八時全部死滅ス	六月二十五日ニ至リ死滅	百四十二時間
五号	一、〇二〇	六月十九日放養シ其日ノ午後ハ既ニ一粒横臥シテ死セリ二十一日ニ至リ殘リ四粒共呼吸口ヲ太クシ異狀アリ二十三日ニ至リ又三粒斃死シ殘リ一粒モ二十四日午前十時ニ全ク死滅ス	六月二十四日ニ至リ死滅	百二十時間

備考 一容器ニ体長一寸二分ノモノ五粒ツ、放養セリ

本試驗ノ結果ニ依レハ比重一、〇一五ノ海水中ニ於テハ五晝夜ト二十二時間内ニ死滅シ又一、〇二〇ノ海水中ニ於テハ五晝夜間ニ死滅セシニ拘ハラズ一、〇〇〇及ヒ一、〇一〇ノ海水中ニ於テハ多少ノ異狀ヲ認メタルノミニテ二十七日ニ至ルモ斃死セズ就中一、〇〇五ノ海水中ニ於テハ試驗期間中何等ノ異狀ヲ認メザリシ

壯成貝生育ト比重試驗

(發生後十八ヶ月餘ヲ經過シタルモノ)

番号	海水比重	試養中ノ生活狀態	全部死滅セシ月日	放養ヨリ斃死スル迄ノ時間
一号	一、〇〇〇	十四日放養十五日中ハ異狀ナシ十六日ニ至リ二粒ハ呼吸管ヲ二寸以上泥面ニ出シ他ノ二粒モ僅ニ泥面ニ出シ異狀ヲ認ム十八日午前十時ニハ全部斃死ス	九月十八日	八十九時間
二号	一、〇〇五	十四日放養十七日ニ至リ呼吸管ヲ泥面ニ出スモノ三粒アリ十八日ハ五粒ニ増加シ十九日午後六時ニハ全部斃死ス	九月十九日	百二十一時間



三号	1,010	十四日放養後何レモ健全ニシテ全月二十五日ニ至ルモ更ニ異狀ナカリシ	
四号	1,015	十四日放養後何レモ健全ニシテ全月二十五日ニ至ルモ更ニ異狀ナカリシ	
五号	1,020	十四日放養後十六日マテ異狀ナシ十七日ニ至リ五粒ハ泥面ニ呼吸管ヲ出シ十八日ニハ殆ント死ニ逝セリ十九日午前十時ニハ悉ク斃死セリ	九月十九日 百十三時
六号	1,025	十四日放養十六日ニ至リ全部泥面ニ呼吸管ヲ出シ越ヘテ十七日ニハ三粒斃死シ残り三粒モ十八日午後六時ニハ悉ク斃死ス	九月十八日 九十七時

備考 一容器ニ体長二寸四分ノ壯成員五粒ツ、放養セリ

本表ノ成績ニ依レハ比重一、〇〇〇ノ水中ニ於テハ僅カニ三晝夜ト十七時間ニテ悉ク死滅シ又一、〇二五ノ海水中ニ於テハ四晝夜ト十七時間ニテ死滅シタルニ拘ラズ一、〇一〇及一、〇一五ノ海水中ニ於テハ殆ト十二晝夜間放養シ置キタルモ更ニ異狀ナク健全ニ生存セリ

以上二回ノ試験ニ依レバ稚貝ハ稀薄ナル海水中ニ於テモ比較的長時間ノ生活ニ堪ユルモ壯成員ハ稍ヤ濃厚ナル海水中ニアラザレバ生活シ得サルモノ、如シ之レ大ニ研究ノ必要アルヲ認ム

蟬貝養殖試験中ニ於ケル氣象トノ關係

蟬貝被害原因調査ニ關シテハ既ニ記述セシ如ク一定ノ方針ニ基キ五月十四日ニ体長一寸五分七厘體量一匁四分ノ二年貝ヲ蒔付ケタルニ其ノ後更ニ異狀ナカリシヲ以テ全月二十八日ニ體長一寸體量三分八厘ノ一年貝ヲ蒔付ケタルニ全日ヨリ天候變化シ數日間降雨ニテ東又ハ南東ノ風吹キ續キ雨量ハ二十八日ハ二耗四、二十九日ハ六十耗、六月一日ハ六耗六、二日ハ六十耗五ニシテ各河川トモ著シク出水セリ之カ爲メ養殖地ニ稍ヤ浮泥ヲ堆積セシノミナラズ海水ノ比重モ亦多少變化セリ夫ヨリ六日ヲ經テ六月八日ニ至リ五月二十八日時ノ新貝ハ泥面下一寸七分ノ位置ニ於テ全部死滅セリ又發生地ニ於ケル稚貝モ被害激甚ニシテ其ノ過半ハ斃死セシモ五月二十八日時付ノ新貝ニ隣接セル五月十四日時付ノ二年貝ハ極メテ健全ニシテ毫モ異狀アルヲ認メザリシ其ノ後六月十二日ヨリ梅雨期ニ入り連日ノ降雨ニテ各河川出水シ海水比重ニ激變ヲ來タシ又場所

ニ依リテハ浮泥ノ堆積二寸餘ニ及ヒタルモ風位ノ替リタル爲メ其ノ浮泥ハ洗ヒ流サレ稍ヤ常態ニ復シタルヲ以テ六月二十四日更ニ體長一寸二分五厘體量七分二厘ノ一年貝ヲ蒔付ケタルニ然ルニ又々二十五日ヨリ大雨降リ其ノ雨量二十六日ハ百六十二耗二十七日ハ二十四耗ニシテ海水ノ比重ニ大激變ヲ來セシモ浮泥ノ堆積量ハ比較的薄カリシ爲メ何等ノ異狀ナクシテ經過セリ七月十二日體長一寸二分九厘體量七分五厘ノ一年貝ヲ蒔付ケタルニ既ニ梅雨期ニ經過シ殊ニ十五日以後ハ天候全ク恢復シ炎天打續キタル爲メ五、六、七月時ノ各稚貝トモ何等ノ異狀ナク頗ル健全ニ生育セリ八月十二日體長一寸三分四厘體量八分ノ一年貝ヲ蒔付ケタルニ其ノ月ハ氣象上深憂スベキ變化ナクシテ經過シタルモ翌九月上旬ヨリ稍ヤ冷氣ヲ加ヘ殊ニ七日頃ヨリ殆ト二週間餘降雨打續キ其ノ雨量七日ハ九十四耗、八日ハ三十六耗八、九日ハ十六耗六、十一日ハ二十一耗、十二日ハ五耗二、十三日ハ六耗、十四日ハ十四耗、十五日ハ三耗、十六日ハ三耗七、十七日ハ二十八耗、十八日ハ二耗、十九日ハ六耗五、二十一日ハ五十一耗一ニシテ合計百六十七耗九ノ多キヲ測リ連日天候陰鬱ニシテ日照時少ナク加フルニ蟬貝ハ産卵期ニ近ツキタル爲メ稍ヤ衰弱ノ状態ニテ點々泥面ニ葡ヒ出テツブ貝(害敵)ニ食害セラレツ、アル狀況ナリシヲ以テ絶ヘス水温、比重並ニ浮泥ノ堆積等ヲ調査シ又養殖業者ニモ大ニ警戒ヲ加ヘシメタルモ幸ニ二十一日以後天氣ノ恢復ト共ニ多少堆積シ居リタル浮泥モ風波ノ爲メ全ク吹き去ラレタルト其ノ後數日間晴天打續キタル爲メ著シキ被害ヲ見スシテ經過セリ依テ五、六、七月ノ各蒔付貝ハ九月末日マテニ全部採取セリ夫レヨリ一週間後即チ十月七日前後ニ於テ蟬貝ハ悉ク産卵シタルモ十月中ハ更ニ異狀ナク其ノ翌十一月二日ヨリ全十六日マテノ間ニ於テ當業者ノ養殖地一、二ヶ所ニ被害アリシヲ以テ直ニ現場ノ狀況ヲ調査シタルニ其ノ死因ハ蒔付時期ト土地ノ撰定ヲ誤リタルニ由ルモノ、如シ

如上ノ蟬貝被害原因調査試験ハ今後尙回ヲ重ヌルニアラザレバ其ノ原因ヲ明ニ断定スルコト能ハザルモ本年度ニ於ケル試験ノ經過ト四十一、二、三ノ三ヶ年ニ於ケル蟬貝被害ノ時期及ヒ其ノ死滅ノ狀況等ヲ綜合シ以テ其ノ概要ヲ誌シ之カ研究ニ資セントス



- 一、比重一、〇二〇ノ天然海水ト之レニ淡水又ハ食塩ヲ加ヘテ製シタル一、〇〇五。一、〇一〇。一、〇一五。一、〇二〇。一、〇二五。
- 二五ノ海水ニ蠶貝ヲ放養シテ生育上適否ノ試験ヲ執行シタル其ノ成績ニ依ルトキハ壯成蠶貝ノ生育ニ最モ適當ナル比重ハ一、〇一〇乃至一、〇一七即チ海水千分中ニ含有スル塩分ノ量十乃至十七内外ナルモ稚貝ニ適當ナル比重ハ一、〇〇五以下内外ノ最モ稀薄ナルモノナルカ如シ之ニ依リ推考セハ一朝大降雨ニ際シ淡水ノ注流多クシテ海水ノ比重一、〇〇五以下ニ降ルトキト雖モ天然發生地ニ於ケル稚貝ハ著シキ障害ナキモノ、如ク認めラル
- 二、天候不順ノ爲メ既ニ健康ヲ害シ瀉面ニ荷ヒ出テ又ハ死ニ瀕セル蠶貝ヲ檢スルニ呼吸器ノ外皮ニ肉眼ニテ認め得ヘキコペボトダ属ノ微細生物ノ附着セルヲ認め又顯微鏡下ニテ檢スルニ呼吸器内又ハ鰓等ニ休養時代ノジストマノ寄生セルヲ發見セシモ之ヲ以テ被害ノ主因ナリトハ認め難シ
- 三、蠶ハ大小並移殖ノ時期ニ依リ外界ノ變化ヨリ來ル障害ニ堪ユルノ程度異ナルヲ以テ稚貝ヲ移殖スヘキ時季ノ適否ヲ調査スルノ必要アルモ此際被害ノ時季ヲ避クルノ方法ヲ經濟的見地ヨリ講究スルハ最モ良善ノ策ナリト認め本年度ニ於テ一部二年貝ヲ四、五月ノ兩月ニ移殖シ又一年貝ヲ(從來ハ七、八、九ノ三ヶ月ニ移殖セルモ)六、七ノ二ヶ月ニ移殖シ之ヲ被害ノ時期前即チ九月中ニ採收シタルニ前記製造試験成績ノ如ク相當ノ利純ヲ收メ得タリ且養殖上最モ安全ノ方法ト認めラル
- 四、養殖蠶被害ノ時季ガ四十一、二、三ノ三ヶ年トモ十月上旬ナリシハ其ノ原因調査上大ニ研究スベキ要點ナリトス殊ニ前年ノ被害地跡ニ本年移殖シタル稚貝ハ九月ニ採收スルマテ何等ノ異狀ナクシテ著シク成長シ居リタルヲ見レバ其ノ被害ノ主因ナルモノハ蠶ノ産卵時期タル十月上旬ヨリ中旬ニ至ル間ニ於テ特發スルモノ、如ク認めラル
- 五、浮泥ノ堆積ハ蠶貝斃死ノ主因ナリトハ既ニ當業者間ニモ一致シ居レリ又前三ヶ年ニ於ケル蠶貝ノ死滅ノ狀況並ニ本年一ニ當業者ノ養殖地ニ於ケル斃死ノ實況ニ徴スルモ浮泥ノ堆積ガ其ノ死滅ノ一因タルコトハ略々推測スルニ難カラズ然レ

凡浮泥ノ堆積セザル瀉地ハ却テ蠶貝ノ成長遲キヲ見レバ浮泥ハ蠶貝ノ發育上ニ必要ナルガ如キモノト雖モ其ノ堆積過度ナルトキハ却テ斃死スルヲ以テ土地ノ撰定ハ蠶養殖上第一ノ要件ナリトス

六、發生地ニ於ケル稚貝ノ被害時期ハ例年梅雨期前又ハ梅雨ノ初期ニシテ其ノ程度ハ稚貝發生ノ厚薄ニ伴フモノ、如シ是レ稚貝ノ著シク成長スベキ時期ナルヲ以テ生物界ニ免レザル生存競争ノ結果ニ外ナラザルベク思考セラル尤モ濡筋ニ棲息スル稚貝ハ各河川ヨリ注入スル流水ノ爲メ泥層ト共ニ洗ヒ去ラレテ浴中ニ斃死スルノ狀況ナリトス

本年度ニ於ケル試験並ニ調査ノ結果ハ以上ノ如クナルモ尙繼續ノ必要アルヲ以テ次年度ニ於テハ左記方法ニヨリ各種試験ヲ實行スベキ計畫ナリ

- 一、四、五、六、七、八ノ各月望ノ大潮時ヲ期シ一定ノ瀉地ニ蠶貝ヲ蒔付ケ被害ノ程度ヲ試験スルコト
- 二、一、〇〇〇。一、〇〇五。一、〇一〇。一、〇一五。一、〇二〇。一、〇二五ノ各比重ノ海水中ニ蠶貝ヲ放養シ海水トノ關係ヲ試験スルコト
- 但稚貝ニ就テハ五、六月中ニ二回壯成貝ニ就テハ九月中ニ二回執行スルコト
- 三、適當ノ養殖地ニ四、五、六、七ノ各月望ノ大潮時ニ稚貝ノ大小ニ依リ一坪ニ付一舛、二舛、三舛、四舛ノ割合ヲ以テ蒔付ケ之ヲ九月中ニ採收製造シ其ノ養殖事業収支額ヲ調査スルコト
- 四、蠶貝ニ寄生スル蟲類ニ關スル調査ヲ爲スコト
- 五、養殖地ニ於テ海洋觀測ヲ實行シ全時ニ「ブランクトン」ヲ採收シ其ノ種類ト數量トヲ調査スルコト
- 六、稚貝發生地ヲ適當ニ區畫シテ試験地トシ尺坪取法ニ依リ發生當時ヨリ移殖終了期マテノ間發生ノ厚薄、粒數並ニ其ノ成長度及ヒ粒數減耗等ヲ毎月調査スルコト
- 七、稚貝保護ノ爲メ一時的採收ト間探の方法トニ依リ其ノ増収上ノ得失ヲ調査スルコト



八、蛭貝ヲ時々解剖シテ其ノ生態ヲ調査スルコト

九、蛭貝ノ發生狀態ヲ調査スルコト

本年度蛭貝養殖試驗地ニ於ケル海洋觀測並ニ「ブランクトン」ノ採收物ハ毎月報告濟ニ付茲ニ掲載スコトヲ省略ス

### 輸向牡蠣養殖試驗

牡蠣ハ本縣有明海ニ於ケル重要ノ水産物ノ一ニシテ現在ノ養殖面積ハ拾壹萬四千五百坪此產額五萬八千圓ニ達スルモ從來ノ養殖方法ニテ養育シタル牡蠣ハ形體不整ニシテ輸向ニ適セズ又殼頂部薄クシテ破損シ易ク遠路ノ輸送ニ堪ハザルニ依リ其ノ養殖方法ヲ改善シ其ノ產額ヲ増加セシムル爲メ左ノ方針ニ依リ試驗ニ着手セリ

イ、牡蠣ハ輸向ニ適シ且ツ遠路ノ輸送ニ堪ユル様形體ヲ圓形ニ殼頂部ヲ厚ク養殖スルコト

ロ、養殖ノ發展ニ伴ヒ種貝ノ供給ヲ豊富ナラシムル爲メ蠟苗附着材料ノ適否ヲ試驗スルコト

本試驗地ハ佐賀部久保田村地先住ノ江川尻落筋ニ沿ヒタル干瀉面積六百坪ヲ撰定シ其ノ位置ヨリ約二千間ノ上流ニ設置シア  
ル有明海水産組合ノ洪立養殖試驗地ノ竹浜ニ附着セル蠟苗ヲ採收シ十一月二十四日一坪ニ付七十斤ノ割合ニテ貳千斤ヲ移殖  
シタルニ爾來其ノ發育良好ニシテ年度末ニハ既ニ約四千斤即チ蒔付數量ノ殆ト二倍ニ増加セシヲ以テ之ヲ繼續試驗スルコト  
セリ

### 蠟苗附着材料試驗

本場設立ノ際ハ既ニ牡蠣洪立ノ時季ハ過半經過シ居リ之カ試驗ニ着手スルコト能ハサリシニ依リ本年度ニ於テハ只タ蠟苗附  
着材料試驗ニ必要ナル瓦、竹、雜木等ヲ購入セシニ止メ次年度ニ於テ實行ノ豫定ナリトス

### 伏老貝養殖試驗

伏老貝ハ本縣有明海ニ於テモ年々發生スト雖モ其ノ產額極メテ少ク殊ニ全沿岸漁民ハ天然發生貝ヲ採收スルノミニテ未タ會  
テ之カ養殖ヲ試ミタル者ナキニ依リ斯業ノ獎勵ノ爲メ杵島郡福富村地先ニ面積壹千坪ノ養殖試驗池ヲ設ケ岡山縣兒島灣產ノ  
稚貝壹舛ニ付八百粒乃至壹千粒入ノモノヲ購入シ坪ニ付貳舛ノ割合ニテ十二月十二日ニ六石三月二十日ニ十石ヲ蒔付ケ尙ホ  
次年度ニ於テモ之カ繼續試驗ヲ施行スルコト、セリ

### 淡水養殖試驗

主任 吉 津 常 藏  
助手 田 中 勘 治

縣下各地ニ散在セル池沼、溜池、用水濠等ノ水面ヲ養魚ニ利用セシムル計畫ニテ佐賀郡高木瀬村第五十五聯隊土取場跡溜池  
壹萬四千五百坪ヲ借受ケ之ヲ淡水養魚模範池トシ専ラ温水性魚族ヲ養殖シテ一般ニ其ノ模範ト養魚上ノ經濟的實利ヲ示スト  
共ニ鯉兒ヲ養成シテ養魚經營者ニ廣ク配付スルノ方針ニテ之レガ準備トシテ明治四拾三年度ニ於テ面積九千貳百坪ノ第一號  
養魚模範池及鯉兒養成ニ必要ノ各設備ヲ施シ本年度ヨリ之カ事業ニ着手セリ

### 養魚池種別並ニ面積

一、親鯉飼養池總面積百六拾坪

四拾坪ノ板圍ヲナシタルモノ四ヶ所

一、產卵池總面積拾六坪

四坪ノ叩池四ヶ所

一、孵化池總面積參拾坪參坪ノ叩池貳ヶ所、壹坪五合ノ叩池拾六ヶ所

一、當歲鯉兒飼養池總面積八拾五坪

田面ヲ一尺五寸ノ深サニ掘リ便宜上大小拾貳區ニ區畫セリ

一、伏老貝養殖試驗 一、淡水養殖試驗



一、第一號養魚模範池九千貳百坪

周圍ノ堤塘ニ高サ二尺ノ盛土ヲナシ又注排水口ニハ適當ノ水閘ヲ設備セリ

一、事務所一棟 建坪貳拾參坪五合

以上ノ工事ハ明治四十三年度縣費ヲ以テ設備セリ

親 鯉

親鯉ノ血統ハ必ズ其ノ魚兒ニ遺傳スルモノナルヲ以テ之ガ選擇ハ養魚經濟上必要ノ條件ナリトス故ニ產卵用ノ種鯉ハ奈良縣郡山小松金鱗舎ヨリ体量七百目乃至壹貳百目年齡八歲乃至十歲ノ純良ナル雌魚貳拾尾体量百貳拾目年齡三歲ノ雄魚八拾參尾ヲ購入シ四十坪ノ飼養池四ヶ所ニ分養シ產卵前ハ特ニ營養分ノ多量ナル餌料ヲ與ヘ又魚巢トシテハ一旦煮沸シタル柳根ヲ使用セリ

產卵及孵化ノ狀況

產卵池ハ面積四坪ノ叩池ヲ用ヒ又親鯉ハ克ク精卵ノ熟否ヲ調査シ可成受精ノ機會ヲ多カラシムル爲メ雌一尾ニ對シ雄四尾乃至五尾ノ配合ニテ產卵池ニ收容シ四月十六日ヨリ五月十七日ニ至ルマテ都合四回ニ產卵サシメタリ其ノ卵數及ヒ孵化ノ割合等左ノ如シ

第一回 產卵及孵化表

雌雄配合尾數		親鯉體量		配合期	產卵月日	孵化月日	產卵數	死卵數	孵化數	產卵當日	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數
雌一尾	雄五尾	雌八〇〇克	雄一〇〇〇克	四月廿四日	四月十六日午前二時ヨリ全七時マテ	四月二十三日正午ヨリ翌午後三時ニ至ル	八〇,〇〇〇粒	二五,〇〇〇粒	五五,〇〇〇粒	四日	四日	八日間	八日間
雌一尾	雄四尾	雌五〇〇克	雄一〇〇〇克	四月廿七日	四月十六日午前二時ヨリ全七時マテ	四月二十三日正午ヨリ翌午後三時ニ至ル	六〇,〇〇〇粒	一五,〇〇〇粒	四五,〇〇〇粒	四日	四日	八日間	八日間

第二回 產卵及孵化表

雌雄配合尾數		親鯉體量		配合期	產卵月日	孵化月日	產卵數	死卵數	孵化數	產卵當日	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數
雌二尾	雄一〇尾	雌八〇〇克	雄一〇〇〇克	四月廿七日	四月二十八日午前三時ヨリ全十時ニ至ル	五月四日午前六時ヨリ翌午後六時ニ至ル	一九二,〇〇〇粒	三八,〇〇〇粒	一五〇,〇〇〇粒	四日	四日	七日間	七日間
雌二尾	雄八尾	雌六〇〇克	雄一〇〇〇克	四月廿七日	四月二十八日午前三時ヨリ全十時ニ至ル	五月四日午前六時ヨリ翌午後六時ニ至ル	一三〇,〇〇〇粒	二五,〇〇〇粒	一〇五,〇〇〇粒	四日	四日	七日間	七日間

第三回 產卵及孵化表

雌雄配合尾數		親鯉體量		配合期	產卵月日	孵化月日	產卵數	死卵數	孵化數	產卵當日	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數
雌一尾	雄五尾	雌一,三〇〇克	雄一〇〇〇克	五月二日	五月三日午前二時ヨリ全十時ニ至ル	五月八日午前六時ヨリ翌午後六時ニ至ル	一〇〇,〇〇〇粒	二〇,〇〇〇粒	八〇,〇〇〇粒	三日	三日	六日間	六日間
雌一尾	雄五尾	雌一,三〇〇克	雄一〇〇〇克	五月二日	五月三日午前二時ヨリ全十時ニ至ル	五月八日午前六時ヨリ翌午後六時ニ至ル	一〇〇,〇〇〇粒	二〇,〇〇〇粒	八〇,〇〇〇粒	三日	三日	六日間	六日間
雌一尾	雄四尾	雌六〇〇克	雄一〇〇〇克	五月二日	五月三日午前二時ヨリ全十時ニ至ル	五月八日午前六時ヨリ翌午後六時ニ至ル	六〇,〇〇〇粒	一五,〇〇〇粒	四五,〇〇〇粒	三日	三日	五日間	五日間

第四回 產卵及孵化表

雌雄配合尾數		親鯉體量		配合期	產卵月日	孵化月日	產卵數	死卵數	孵化數	產卵當日	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數	產卵ニ至ル日數
雌二尾	雄九尾	雌六〇〇克	雄一〇〇〇克	五月十日	五月十七日午前二時ヨリ全六時ニ至ル	五月二十日午後二時ヨリ翌午後四時ニ至ル	八〇,〇〇〇粒	二〇,〇〇〇粒	六〇,〇〇〇粒	二日	二日	四日間	四日間
雌二尾	雄九尾	雌八〇〇克	雄一〇〇〇克	五月十日	五月十七日午前二時ヨリ全六時ニ至ル	五月二十日午後二時ヨリ翌午後四時ニ至ル	一〇〇,〇〇〇粒	三〇,〇〇〇粒	九〇,〇〇〇粒	二日	二日	四日間	四日間

採卵總數九拾貳萬貳千粒ニシテ其ノ内死卵二割二分五厘強即チ貳拾萬八千粒孵化兒七割七分四厘強ニシテ七拾壹萬四千尾ヲ得タリ



第一回 孵化氣象觀測日表

觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力	觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力
午前十六日	曇	一九、〇	一八、五	北	和風	四月十六日	曇	一八、五	一八、〇	北	和風
午前十七日	雨	一六、五	一七、〇	北	和風	午前十七日	曇	一七、〇	一七、〇	北	疾風
午前十八日	曇	一五、〇	一五、〇	北	疾風	午前十八日	曇	一五、〇	一五、七	北	疾風
午前十九日	快	一六、五	一五、二	南	軟風	午前十九日	快	一五、五	一八、〇	南	和風
午前二十日	快	一四、五	一四、七	西	和風	午前二十日	曇	一五、〇	一六、五	南	和風
午前二十一日	晴	一七、五	一四、〇	南	和風	午前二十一日	曇	一五、五	一六、五	南	和風
午前二十二日	快	一九、五	一六、〇	南	軟風	午前二十二日	快	二〇、五	一八、〇	南	和風
午前二十三日	晴	一九、〇	一八、〇	南	軟風	午前二十三日	晴	二〇、〇	二〇、〇	南	軟風

此ノ時期ニ於テハ未ダ氣候寒冷ナル爲メ氣象ノ關係上自ラ危險アルヲ免カレズ殊ニ産卵ノ翌日即チ四月十七日ヨリ十八日ニ亘リ北又ハ西ノ疾風吹キ續キ雹霰屢々降り氣象激變ノ爲メ魚卵ノ發育ニ至大ノ關係ヲ及ホシ孵化后ノ氣候一層不順ナリシ爲メ其ノ生育不充分ナリシ

第二回 孵化氣象觀測日表

觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力	觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力
四月二十八日	曇	一六、〇	一八、〇	北	軟風	四月二十八日	曇	一七、〇	一九、〇	北	和風
午前二十九日	曇	一六、五	一五、五	北	軟風	午前二十九日	曇	一九、〇	一八、〇	北	和風

觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力	觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力
午前三十日	曇	一六、〇	一五、五	北	和風	午前三十日	曇	一七、〇	一八、〇	北	和風
五月一日	曇	一五、五	一六、〇	東北	和風	五月一日	曇	一七、五	二〇、〇	北	和風
午前十日	晴	一六、五	一四、〇	東	和風	午前十日	晴	一三、五	一三、七	西	軟風
午前十一日	曇	二〇、〇	二〇、〇	東	軟風	午前十一日	曇	二〇、〇	一三、五	南	軟風
午前十二日	曇	一八、〇	一九、五	南	軟風	午前十二日	雨	一八、〇	二〇、〇	南	和風

此ノ期間ニ於テハ氣象上著シキ變化ナク概シテ氣候適順ナリシ爲メ卵ノ發育並ニ孵化兒ノ生育トモ頗ル佳良ナリシ

第三回 孵化氣象觀測日表

觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力	觀測時刻	天氣	氣溫	水 孵化池 水溫	風向	風力
五月三日	曇	二〇、〇	二二、〇	東	軟風	五月三日	曇	二〇、〇	三三、五	南	風
午前四日	雨	一八、〇	一九、〇	南	軟風	午前四日	雨	一八、〇	二〇、〇	南	和風
午前五日	雨	一六、〇	一七、五	北	和風	午前五日	雨	一六、五	一八、〇	北	和風
午前六日	曇	一七、五	一八、五	北	軟風	午前六日	曇	一六、五	二〇、〇	北	和風
午前七日	晴	一八、〇	一七、五	東	軟風	午前七日	晴	一八、五	二五、五	東	軟風
午前八日	曇	一九、五	一九、〇	西	軟風	午前八日	曇	一三、五	二五、〇	西	軟風

此ノ期間ハ氣候頗ル適順ニシテ水溫亦適度ナリシ爲メ卵ノ發育良好殊ニ魚仔ノ餌料タルみじんこノ發生夥シク充分ニ供給シ得タルヲ以テ其ノ生育極メテ良好ナリシ

第四回 孵化氣象觀測日表



觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力	觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力
五月十七日 午前七時	曇	一八、五	一、七	西	軟風	五月十七日 午後二時	曇	二〇、〇	一九、〇	西	軟風
午前八時	晴	二〇、〇	二、七	東	和風	五月十八日 午前八時	晴	二〇、〇	三、〇	東北	和風
午前九時	晴	一九、五	一九、三	北	軟風	五月十八日 午前十二時	晴	二〇、〇	三、〇	北	軟風
午前十時	曇	二〇、五	二〇、七	北	軟風	五月十八日 午後二時	曇	二〇、〇	三、七	北	軟風
午前二十時						五月二十日 午後二時	曇	二〇、〇	三、七	北	軟風

此ノ期間ハ氣溫水溫トモニ概シテ適順ナリシモ漸次梅雨期ニ近ツキ稍ヤ水質ニ變化ヲ來タシ殊ニ農家ハ稻田一圃ニ施肥スル  
期節トナリ爲メニ孵化用水ニ不純物溶解シ或ハ汚濁シ往々魚卵ニさぶろれぐにヤノ發生ヲ促シ比較的腐敗卵多カリシ

孵化後ノ養成

孵化後臍囊全ク消失シ池ノ周圍ニ沿ヒ悉ク游泳シ始ムルヲ待チ豫メ採集セルルミじんこヲ細目ノ篩ニテ濾シ害敵及塵埃等ヲ除  
去シタルモノ又ハ糸蚯蚓ヲ摺鉢ニテ能ク摺リタルモノヲ撒キ與ヘ且ツ孵化池ニ飼養中ハ一週間乃至十日毎ニ一回水ヲ入レ換  
ヘ其都度大小ヲ撰別シ三、四十日間飼養シ體長一寸内外ニ成長シタル後チ當歲鯉兒飼養池ニ移養セリ  
當歲鯉兒飼養池ハ淺キハ七八寸深キハ一尺二三寸位ニ掘リタル泥池ニシテ五坪乃至拾坪ノモノ拾貳ヶ所ヲ使用セリ鯉兒放養  
後ハ糸蚯蚓又ハ干蛹ノ細粉シタルモノヲ投餌シ二十日乃至三十日毎ニ池水ヲ引落シ大小ヲ撰別シ且ツ飼養中ハ専ラ害敵ヲ捕  
殺シテ鯉兒ノ食害セラル、ヲ豫防セリ

鯉兒養成數ト配付尾數

養成鯉兒ハ六月下旬ヨリ一般養鯉希望者ニ配付ヲ初メ八月下旬迄ニ總數拾八萬千八百尾ヲ配付シ殘餘ハ淡水養魚試驗池ノ内  
第一號模範池ニ飼養セリ

鯉兒配付一覽表

郡別	體長七分乃至一寸	體長一寸乃至一寸五分	體長一寸五分乃至三寸	計
郡別	體長七分乃至一寸	體長一寸乃至一寸五分	體長一寸五分乃至三寸	計
佐賀郡	一二七、〇〇〇尾	一一二、三〇〇尾	五、三〇〇尾	一四五、〇〇〇尾
小城郡	五、〇〇〇	一一〇、五〇〇	一一、五〇〇	一二、〇〇〇
神埼郡	一一、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一二、〇〇〇
三養基郡	一	一、四〇〇	五、〇〇	一、四〇〇
東松浦郡	二〇〇	一	一、七〇〇	二、〇〇〇
西松浦郡	二〇〇	一	一、二〇〇	二、〇〇〇
杵島郡	一	四、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇
藤津郡	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
計	一四四、八〇〇	二八、二〇〇	八、八〇〇	一八一、八〇〇

鯉兒餌料經濟試驗

試驗用池ハ四坪ノ叩池四ヶ所ヲ使用シ池水ハ絶ヘズ用水路ヨリ引入レ池中ヲ流過セシメ注排口ニテ常ニ八寸ノ深サニ調節セ  
リ鯉兒ハ體長二寸九分體量五々二分ノモノヲ一坪ニ付五尾ノ割合ニテ一ヶ所ノ叩池ニ二十尾宛ヲ放養シ八月一日ヨリ左記方  
法ニ依リ餌料經濟試驗ヲ開始セリ

- 一、各種餌料トモ一日二十尾ニ對シ價格貳厘五毛ニ相當スル數量ヲ給ス
- 二、試験ハ三十日ヲ以テ一期間ト定メ體長、及ビ體量ヲ調査ス
- 三、餌料ノ種類及製法

一、淡水養殖試験



乾 螺 生ノ儘秤量シ後碎キテ介殻ヲ去リ肉ヲ細截シタルモノ  
 乾 螺 混合 麥糠ト乾螺トヲ混シテ秤量シ後チ煮沸シタルモノ  
 以上ノ餌料ハ總テ一日ノ定量ヲ二分シ午前十時ト午後二時トノ二回ニ給餌セリ

第一期試験成績

試験池區	餌料種別	放養期間	鯉兒二十尾ニ對スル一日給餌量		放養當時ノ鯉兒		調査時ノ成長度	
			體長	體量	體長	體量	體長	體量
第一號池	鯉ノ粕	自九月一日至九月十日	五 匁	二寸九分	五 匁二分	四 匁	三寸四分	二寸五分
第二號池	乾 螺	全	八 匁三分	全	全	全	三寸七分	二寸五分
第三號池	麥糠混合	全	十 匁	全	全	全	三寸九分	二寸五分
第四號池	田 螺	全	三十 匁	全	全	全	三寸六分	四寸六分

本期間ノ成績ニ依レバ第三號池ノモノ第一位ヲ占メ次ハ第一號池第二號池ノ順位トナリ田螺ヲ給シタルモノ最モ成長速緩ナリシ其ノ原因ハ比較的高價ニシテ一日ノ給餌量三十匁ノ内介殻ヲ除クトキハ其肉量十三匁ニ過ギズシテ他ノ乾燥餌料ニ比シ營養質ノ少量ナリシニ因ルモノ、如シ

第二期試験成績

試験池區	餌料種別	放養期間	鯉兒二十尾ニ對スル一日給餌量		放養當時ノ鯉兒		調査時ノ成長度	
			體長	體量	體長	體量	體長	體量
第一號池	鯉ノ粕	自九月一日至九月十日	五 匁	三寸九分	十 匁二分	五 匁	四寸四分	三寸二分
第二號池	乾 螺	全	八 匁三分	三寸七分	十 匁二分	五 匁	四寸四分	三寸二分
第三號池	麥糠混合	全	十 匁	三寸九分	十三 匁	五 匁	四寸九分	三寸二分
第四號池	田 螺	全	六十 匁	三寸六分	十九 匁三分	五 匁	四寸六分	三寸二分

備考 第四號池ハ第一期試験成績ニ鑑ミ田螺ヲ六十匁ニ倍加セリ  
 本期間ノ成績ニ依レバ第一期試験成績ニ及シ第一號池ノモノ第一位ヲ占メ次ハ第二號池ニシテ第三號池ハ第三位ニ下リ第四號池ノ田螺餌給量ハ六十匁ニ倍加シタルニ拘ハラズ終始其ノ成長遲緩ナリシ其ノ原因ハ氣候ノ爲メ田螺ノ肉質セ營養分ノ減耗シ居ルニ因ルモノ、如シ

次ニ前二期間即チ放養日數六十日間ニ於ケル鯉兒ノ増量ト餌量ノ價格トヲ比較シ經濟上ノ得失ヲ左ニ表示ス

餌料ト經濟上ノ得失

試験池區	餌料種別	二十尾ニ對スル増量		二十尾ニ對スル給餌量		全上價格	差引	損益
		増量ニ對スル價格	價格ニ對スル増量	價格	量			
第一號池	鯉ノ粕	二百十六匁	貳拾壹錢六厘	參 匁	拾 五 錢			六錢六厘
第二號池	乾 螺	二百〇四匁	貳拾錢四厘	四百九十八匁	拾 五 錢			五錢四厘
第三號池	麥糠混合	二百 匁	貳 拾 錢	六百 匁	拾 五 錢			五 錢
第四號池	田 螺	百三十四匁	拾參錢四厘	貳貫七百目	貳拾錢四厘	七 錢		

備考 餌料價格標準ハ拾貫目ニ付鯉ノ粕五圓、乾螺參圓、田螺八拾參錢(壹貫目方參百六拾目ヲ參錢トシ貳斗七升八合代)麥貳圓九拾五錢(壹貫目方百七十目參錢七厘トシ樹目五斗七升代)トシ又麥糠、乾螺、混合餌ハ各五匁ツ、ヲ混用セリ  
 以上餌料ノ試驗ニ於テ第一號池第二號池第三號池ハ略々同一ノ成績ニシテ何レモ相當ノ利純アルニ拘ラズ獨リ第四號池ニ至リテハ鯉兒増量少ナキ爲メ却テ七錢ノ缺損トナレリ

模範養魚

本試験ハ面積九千貳百坪ノ溜池ヲ使用シ十月十五日ヨリ池水ヲ排泄シ雜魚及雜草ヲ取り除ケ全月二十日鯉兒長サ二寸乃至六寸體量平均六匁内外ノモノ總量七拾貳貫尾數壹萬貳千尾ヲ放養シ餌料トシテハ干蝸ニ麥糠ヲ混淆シ之ヲ一旦煮沸シタル後適



一、淡水養殖試驗

度ニ給餌シ次年度ニ於テ繼續スルコト、セリ

尙ホ鯉ハ三歳魚若クハ四歳魚收納法ニ依ルヲ以テ其ノ成績ハ第一期試驗ノ終了ヲ待チテ報告スベシ

鯉兒配付ノ成績

本年度養成ノ鯉兒ハ當初ノ目的ニ依リ溜池等ヲ養魚ニ利用セントスル者ニ對シ拾八萬千八百尾ヲ配付シタル爲メ一般ニ養魚ノ有利ナルコトヲ覺知シ區畫漁業ヲ出願スルモノ多ク本年度末ニ於テ既ニ免許ヲ受ケタル件數九十六件此ノ水面坪數百四十九萬千八百九十六坪ニ達シ前年末ノ拾四萬四千五百三十三坪ニ比シ實ニ百三十四萬七千三百六拾叁坪ヲ増加シ益々發展ノ傾向アルニ依リ次年度ニ於テハ可成多數ノ鯉兒ヲ養成スル爲メ更ニ養成池ヲ擴張シ新タニ養龍池ヲ設ケ又第二號養魚模範池(面積五千三百坪)ノ設備ヲ爲シ各種經濟的試驗ヲ繼續シテ益々斯業ノ獎勵ニ資セントス

模範養魚池(第一號池)水温並氣象觀測日表

観測時刻	月日	天氣	氣温	池水温	風向	風力	雲量
午前	十月二十日	快	二、五	一七、四	北	軟風	〇
午前	二十一日	快	二、五	一七、六	北	軟風	一
午前	二十二日	晴	二、五	一九、二	北	軟風	三
午前	二十三日	晴	二、〇	一七、九	南東	軟風	三
午前	二十四日	快	二、四	一六、六	北	軟風	〇
午前	二十五日	晴	三、五	一九、三	南東	軟風	四
午前	二十六日	晴	三、三	二〇、〇	南東	軟風	七
午後	十月二十日	快	三、二	一八、六	北	軟風	二
午後	二十一日	快	三、〇	一八、〇	北	軟風	二
午後	二十二日	晴	三、七	一八、四	北	軟風	四
午後	二十三日	晴	三、五	二〇、五	北西	和風	四
午後	二十四日	快	三、一	一九、五	南西	軟風	二
午後	二十五日	快	三、二	一八、八	南	軟風	八
午後	二十六日	曇	二、〇	二、三	北	軟風	八

観測時刻	月日	天氣	氣温	池水温	風向	風力	雲量
午前	十月二十七日	快	二、三	一八、九	北西	和風	一
午前	二十八日	快	三、〇	一九、九	北	軟風	二
午前	二十九日	快	三、七	一九、九	南	軟風	一
午前	三十日	快	三、八	一七、二	南	軟風	二
午前	三十一日	快	二、〇	一六、四	北	軟風	一
午前	十一月一日	雨	一六、三	一六、二	北東	軟風	九
午前	二日	快	一四、五	一六、三	南西	和風	二
午前	三日	快	一七、〇	一七、二	東	軟風	二
午前	四日	快	一六、〇	一五、七	北東	和風	二
午前	五日	快	一九、二	一八、六	北東	和風	四
午前	六日	雨	一六、六	一六、〇	東南	軟風	〇
午前	七日	晴	一八、二	一六、五	北東	和風	六
午前	八日	晴	一七、六	一四、五	北東	軟風	六
午前	九日	快	一八、六	一六、〇	東	軟風	一
午前	十日	快	一五、八	一四、二	東	軟風	七
午前	十一日	快	一九、五	一四、四	東	軟風	〇
午前	十二日	雨	一七、二	一六、五	南	疾風	二
午前	十三日	晴	一九、五	一五、〇	東	軟風	五
午後	十月二十七日	快	二、七	一九、四	北西	和風	二
午後	二十八日	快	三、五	一七、八	南	軟風	四
午後	二十九日	快	三、五	一七、七	北東	和風	二
午後	三十日	晴	二、七	一九、四	南西	軟風	四
午後	三十一日	晴	二、七	一九、四	南西	軟風	四
午後	十一月一日	晴	一九、四	一八、二	西南	軟風	七
午後	二日	晴	二〇、五	二〇、七	北東	和風	四
午後	三日	快	一七、五	一七、七	北東	和風	二
午後	四日	快	一九、〇	一八、五	南西	軟風	一
午後	五日	曇	一八、六	一八、八	南	軟風	九
午後	六日	曇	一八、二	一七、〇	北東	和風	九
午後	七日	晴	一五、五	一五、三	北	和風	七
午後	八日	晴	一六、五	一五、五	北	和風	六
午後	九日	快	一七、八	一六、二	北	和風	一
午後	十日	快	二〇、四	一五、六	北東	和風	五
午後	十一日	快	一九、四	一五、五	南	軟風	二
午後	十二日	晴	一八、〇	一七、二	西	和風	七
午後	十三日	快	一八、四	一六、二	北東	軟風	二

一、淡水養殖試驗



一、淡水養殖試驗

午前 十九日 十時	午前 十八日 十時	午前 十七日 十時	午前 十六日 十時	午前 十五日 十時	午前 十四日 十時	午前 十三日 十時	午前 十二日 十時	午前 十一日 十時	午前 十日 十時	午前 九日 十時	午前 八日 十時	午前 七日 十時	午前 六日 十時	午前 五日 十時	午前 四日 十時	午前 三日 十時	午前 二日 十時
雨	快	快	曇	晴	曇	曇	晴	曇	曇	曇	曇	快	雨	快	快	快	雨
二三、七	二一、五	二〇、二	五、八	一〇、五	八、八	五、六	九、〇	八、〇	八、四	八、二	一一、三	一四、四	九、五	一、六	一四、八	一四、〇	一三、〇
二一、〇	七、七	七、五	七、〇	一一、三	九、〇	七、〇	九、二	八、三	八、九	八、六	七、五	二一、〇	八、六	二、二	一三、二	三、二	二一、二
北東	北東	北東	北東	東	北	東	北	東	北東	北	北東	東	北	東	東	東	東
軟風	和風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風	和風	軟風	軟風	軟風	和風	軟風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風
〇	二	一	〇	三	九	九	七	九	九	〇	〇	二	〇	二	／	一	〇
午後 十九日 二時	午後 十八日 二時	午後 十七日 二時	午後 十六日 二時	午後 十五日 二時	午後 十四日 二時	午後 十三日 二時	午後 十二日 二時	午後 十一日 二時	午後 十日 二時	午後 九日 二時	午後 八日 二時	午後 七日 二時	午後 六日 二時	午後 五日 二時	午後 四日 二時	午後 三日 二時	午後 二日 二時
曇	晴	快	曇	晴	曇	曇	曇	晴	曇	曇	晴	快	晴	快	快	快	雨
一七、八	一五、九	二一、五	九、五	一〇、五	九、四	八、〇	九、五	一一、三	一一、〇	九、四	一四、六	一四、八	一〇、二	一五、七	一六、八	一七、〇	一五、〇
一三、六	一〇、五	七、七	八、四	一一、四	九、九	八、九	九、九	九、四	一一、二	九、七	一〇、三	一三、二	九、〇	一三、九	一四、五	一三、〇	一一、四
西	北	北東	北東	北東	北	北東	北	北	北東	北東	北	北	北	東南	北東	北	北
和風	軟風	和風	和風	軟風	和風	軟風	和風	和風	和風	和風	軟風	軟風	和風	和風	軟風	軟風	軟風
九	七	二	〇	六	九	〇	九	九	五	〇	三	二	七	二	一	二	〇

一、淡水養殖試驗

午前 十四日 十時	午前 十五日 十時	午前 十六日 十時	午前 十七日 十時	午前 十八日 十時	午前 十九日 十時	午前 二十日 十時	午前 二十一日 十時	午前 二十二日 十時	午前 二十三日 十時	午前 二十四日 十時	午前 二十五日 十時	午前 二十六日 十時	午前 二十七日 十時	午前 二十八日 十時	午前 二十九日 十時	午前 三十日 十時	午前 三十一日 十時
快	晴	曇	雨	曇	快	晴	晴	快	晴	雨	晴	晴	晴	晴	曇	曇	快
一七、五	二一、四	二〇、五	一八、〇	一八、六	一九、八	一五、八	一四、七	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一八、三	一八、〇	一六、二	一三、〇	九、〇	二一、〇	二一、〇
一六、二	一六、六	一八、七	一六、二	一七、五	一六、〇	一四、六	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一六、五	一三、八	一五、四	一五、三	一三、七	一〇、二	九、八	八、九
北東	東	西	西	北	北	北東	東	東	東	東	東	東	北東	西	西	東	北東
和風	和風	軟風	軟風	和風	軟風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風
一	三	〇	〇	二	四	七	四	一	四	〇	七	三	四	三	九	〇	六
午後 十四日 二時	午後 十五日 二時	午後 十六日 二時	午後 十七日 二時	午後 十八日 二時	午後 十九日 二時	午後 二十日 二時	午後 二十一日 二時	午後 二十二日 二時	午後 二十三日 二時	午後 二十四日 二時	午後 二十五日 二時	午後 二十六日 二時	午後 二十七日 二時	午後 二十八日 二時	午後 二十九日 二時	午後 三十日 二時	午後 三十一日 二時
快	晴	曇	雨	曇	快	晴	晴	快	晴	雨	晴	晴	晴	晴	曇	曇	快
一三、〇	一三、五	一三、五	一三、七	一九、五	二〇、三	一六、五	一七、七	一七、〇	一六、七	一六、〇	一七、七	一八、七	一六、〇	一七、二	一三、五	一三、〇	一五、〇
一六、五	一九、五	二〇、〇	一八、二	一七、〇	一七、〇	一五、三	一四、四	一五、〇	一五、〇	一五、〇	一五、〇	一五、〇	一五、〇	一五、三	一三、九	一三、〇	一三、〇
北	西	西	西	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東	北東
軟風	軟風	軟風	軟風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
二	五	九	五	六	五	七	六	〇	九	〇	九	四	九	四	〇	六	〇











午前 十一日	午前 十二日	午前 十三日	午前 十四日	午前 十五日	午前 十六日	午前 十七日	午前 十八日	午前 十九日	午前 二十日	午前 二十一日	午前 二十二日	午前 二十三日	午前 二十四日	午前 二十五日	午前 二十六日	午前 二十七日	午前 二十八日	午前 二十九日	午前 三十日	午前 三十一日	
快	晴	雨	曇	雨	快	快	曇	晴	晴	雨	晴	快	快	曇	晴	雨	曇	雨	曇	快	
一三、九	一三、二	一四、六	一四、六	一六、二	一六、二	一七、五	一七、五	一八、〇	一八、〇	一九、三	一九、三	二〇、三	二〇、三	二一、五	二一、五	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	
九、四	九、五	三、〇	三、五	三、〇	三、〇	二、〇	二、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	
南	西	南	北	南	北	南	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	西	北	
軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風
一	五	〇	四	五	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
午後 十一日	午後 十二日	午後 十三日	午後 十四日	午後 十五日	午後 十六日	午後 十七日	午後 十八日	午後 十九日	午後 二十日	午後 二十一日	午後 二十二日	午後 二十三日	午後 二十四日	午後 二十五日	午後 二十六日	午後 二十七日	午後 二十八日	午後 二十九日	午後 三十日	午後 三十一日	
快	晴	曇	晴	雨	晴	快	曇	快	晴	晴	晴	快	快	曇	雨	曇	雨	曇	快	快	
一三、五	一六、六	二〇、三	二〇、三	二一、七	二一、七	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇	
一〇、八	三、五	一八、二	一四、三	一五、六	一五、六	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	
南	南	南	北	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	東	南	西	北
和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
一	五	〇	四	五	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三月 十一日	午前 十二日	午前 十三日	午前 十四日	午前 十五日	午前 十六日	午前 十七日	午前 十八日	午前 十九日	午前 二十日	午前 二十一日	午前 二十二日	午前 二十三日	午前 二十四日	午前 二十五日	午前 二十六日	午前 二十七日	午前 二十八日	午前 二十九日	午前 三十日	午前 三十一日
曇	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
一六、三	一四、五	一三、五	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇
二六、〇	一三、七	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軟風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
四	七	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
三月 十一日	午後 十二日	午後 十三日	午後 十四日	午後 十五日	午後 十六日	午後 十七日	午後 十八日	午後 十九日	午後 二十日	午後 二十一日	午後 二十二日	午後 二十三日	午後 二十四日	午後 二十五日	午後 二十六日	午後 二十七日	午後 二十八日	午後 二十九日	午後 三十日	午後 三十一日
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
一六、八	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三	一七、三
一六、三	一四、九	一三、五	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
七	七	九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇



明治四十五年  
大正元年度  
佐賀縣水產試驗場報告書



明治四十五年 度佐賀縣水產試驗場事業報告書

目次

庶務部

明治四十五年 度經費豫算.....一

漁撈部

一 試驗船初鷹丸ノ新造.....四

一 網延繩試驗.....一〇

一 網一本釣試驗.....一二

一 鱒林受網試驗.....一七

製造部

一 雲丹製造試驗.....二一

一 海羅製造試驗.....二一

一 海苔製造試驗.....二七

養殖部

一 蠶被害原因調査試驗並稚具蕃殖保護試驗.....三三



一、目次

- 一輸出向牡蠣養殖試驗.....四二
- 一伏老貝養殖試驗.....四五
- 一淡水養殖試驗.....四三
- 一溜池養殖利用連絡試驗.....五三

調查部

- 一漁業基本調査.....七八
- 一漁村調査.....七九
- 一干潟養殖利用調査.....七九

目次終

明治四拾五年  
大正元年度  
佐賀縣水產試驗場報告

庶務部

明治四十五年  
大正元年度  
度經費豫算

一、支出豫算  
經常部

一金七千五百八拾圓也

內譯

金千八百參拾六圓

內

金千八拾圓

金百八拾圓

金五百七拾六圓

金貳千六百六拾四圓

內

金千圓

金貳百拾九圓

一、明治四十五年大正元年度經費豫算

俸給  
技手給  
書記給  
助手給  
雜給  
旅費  
小使給



一、明治四十五年大正元年度經費豫算

金九拾六圓

金貳百八拾壹圓

金千四拾圓四拾六錢

金貳拾七圓五拾四錢

金參千八拾圓

內

金千百五圓貳拾四錢

金貳百四拾參圓

金百圓

金百九拾貳圓

金六百五拾九圓

金七拾九圓五拾錢

金四百拾參圓七拾六錢

金六拾參圓

金百七拾四圓五拾錢

金五拾圓

臨時部

一金壹千六百參拾七圓也

監守人給

備人賃

備漁夫賃

勉勵手當

場費

備品消耗品費

通信運搬費

印刷費

借家料

親鯉親鼈稚具代

製造原料代

餌料費

借地料

修繕費

雜費

內譯

金壹千拾四圓

金參百五圓

金參百拾八圓

二、收入豫算

一金九百拾圓

漁船新造費

籠養殖池設備費

鯉養殖池設備費

雜收入

一、明治四十五年大正元年度經費豫算



漁撈部

試験船初應丸ノ新造

主任 技手 宮 田 光

本船ハ主トシテ鯛延繩並一本釣試験ニ使用シ更ニ進ンテ流細其他ノ沖合漁業ニ試用センカ爲メ船体ノ堅牢、速力ノ快速、逆航ニ耐ユルト全時ニ漕行ノ輕快ナルヲ期シテ新造シタルモノニシテ其構造左ノ如シ

一、全體ノ尺度

- 總長 三拾五尺
- 肩巾 八尺五寸
- 深サ 三尺四寸

一、敷

用材杉赤身厚サ四十前敷長サ一丈九尺後敷長サ六尺ニシテ前后ノ敷ハ之レヲ接合セズ天然ノ曲材ヲ用ヒ后敷ノ勾配ハ九寸トナス

巾ハ舳ノ付根四寸五分表横墨二尺胴横墨二尺五寸接手二尺四寸舳横墨二尺五寸受尻一尺二寸トナシ胴横墨ヨリ前方正中線ニ中挖ヲ揚卸スヘキ狹長ナル孔ヲ貫通ス其ノ長サ二尺二寸巾三寸トナス

一、舳

用材杉赤身前口長九尺空四尺巾壹尺三寸厚后部四寸五分前部二寸トシ傾斜ノ勾配ハ開キ六寸八分トナス

一、戸立

用材杉厚サ一寸八分高サ二尺六寸上肩巾五尺三寸肩巾五尺六寸ニシテ其勾配ハ六寸トス

一、加敷

用材杉厚サ一寸八分ニシテ勾配ハ表横墨八寸開キ胴横墨九寸六分開キトナス

一、上棚

用材杉厚サ一寸八分勾配表横墨三寸六分開キ胴横墨二寸四分開キトス

一、船梁

- |       |     |       |      |          |
|-------|-----|-------|------|----------|
| 艦船梁   | 用材檜 | 巾三寸   | 厚サ四寸 | 長サ六尺四寸   |
| 舷上船梁  | "   | 四寸角   | "    | 全 十三尺    |
| 全下    | "   | 五寸角   | "    | 全 九尺     |
| 胴上船梁  | "   | 巾五寸   | 厚サ四寸 | 全 一丈三尺五寸 |
| 全下    | "   | "     | "    | 全 九尺     |
| 表上    | "   | "     | "    | 全 十一尺    |
| 全下    | "   | 三寸    | 四寸   | 全 七尺     |
| 二番門上部 | "   | 四寸    | 三寸   | 全 六尺     |
| 全 下部  | 杉   | 三寸角   | 四尺   | "        |
| 一番門   | 檜   | 三寸角   | 五尺六寸 | "        |
| 全 下部  | "   | 二寸五分角 | 二尺   | "        |

一、仕切板 (隔板)

一、試験船初應丸ノ新造



用材杉厚サ一寸八分ニシテ船全部ニ七ヶ所ヲ圖ノ如ク取付ケ全部水密トナス

一、甲板

用材杉厚サ一寸八分ニシテ船体ノ全部ニ張リ詰メ船口十二個所ヲ設ケ但シ表甲板ハ表上船梁ノ上部一尺二寸ノ所ヨリニ番門迄斜面ニ取付ケ之レヲ前後ノ二區ニ分チ各區共ニ船口ヲ設ケ后室ニハ左右共一個宛「デッキグラス」ヲ嵌入ス

一、甲板梁

用材杉三寸角ノモノヲ表甲板下三ヶ所ニ取付ク

一、小縁

用材檜巾二寸五分厚サ一寸ノモノヲ棚板付留ヨリ戸立ニ至ル間ニ釘着セシム

一、橋筒

用材松胴船梁后部並ニ表船梁ヨリ六尺前方ニアリ共ニ大サ前後八寸右左九寸ニシテ高サ二尺六寸トシ其ノ根部ハ敷ニ嵌入シ甲板トノ接觸部ニハ填絮ヲ施シ浸水ヲ防グ

一、外棚

臺ハ用材檜四寸角ノモノヲ用ヒ表甲板側面中部ヨリ舳船梁舷側ヲ去ル二尺ノ處迄達セシム

張板ハ一寸四分ノ松板ヲ以テシ其兩端ハ下面ヨリ波浪ノ打撃ヲ受クルモ決シテ離レサル様固着セシメ胴船梁ノ后部ニ於テ二尺五寸間ハ橋ノ拔差ヲ便ナラシム可ク取外シテ自在ニセリ臺上ニハ松材二寸五分四寸角ノ支柱四本ヲ立テ各支柱間ニハ厚サ一寸二分ノ松板ニ二寸角ノ小縁ヲ二個所ニ付シタルモノヲ波除ケトシテ嵌入シ操業ノ便ヲ計リ支柱ト共ニ隨時取外ス可ク得

一、挖床

用材松長サ九尺巾一尺五寸厚サ中央一尺一寸ニシテ挖穴ハ流挖及立挖ノ二穴ヲ穿ツ

一、中挖

用材ハ鐵板厚サ三分長サ二尺巾一尺五寸三角形ノモノヲ胴船梁ノ前部正中線ニ取付ク

一、船内配置

隔板ニヨリテ六室ニ區劃サレ表甲板下前室ヲ錨、錨綱、燈具其他雜具ノ藏置所トシ其后室ヲ船員ノ居間トシ活魚船ハ表船梁ヨリ胴船梁迄ヲ以テ之レニ當テ舷ノ間ハ之レヲ前後ニ分チ前部ノ長サ二尺三寸巾船巾丈ケノ間ヲ衣類其他ノ置場トシ后半ヲ炊事室トス而シテ炊事室ノ中央ニハ竈ヲ設ケ右舷ニ水槽左舷上部ヲ食料置場下部ヲ米櫃トナス又最后室即チ艙ノ間ハ糧米薪炭並ニ船具、漁具ノ修繕材料等ヲ収容スル所トス

一、活魚船

表船梁ヨリ胴船梁ニ至ル間ヲ六區ニ區劃シ各隔板ハ水密トシ加敷ニハ通水穴五個宛ヲ穿チ各區ニ船口ヲ設ケ而シテ前部二室ヲ餌料槽后部四室ヲ魚槽ニ充ツ

一、挖

用材檜長サ一丈一尺二寸五分巾上部一尺四寸下部八寸厚サ前部三寸後部一寸

一、橋

用材檜		
前橋	長一丈五尺五寸	元口徑三寸
中橋	二丈三尺七寸	五寸
後橋	二丈六尺八寸	五寸
		先口徑二寸
		三寸
		三寸



一、帆

前帆	上縁五尺五寸	前縁一丈	后縁一丈二尺五寸	下縁七尺三寸
中帆	八尺五寸	一丈八尺	二丈一尺	一丈一尺五寸
后帆	一丈一尺五寸	一丈九尺	二丈五尺	一丈四尺

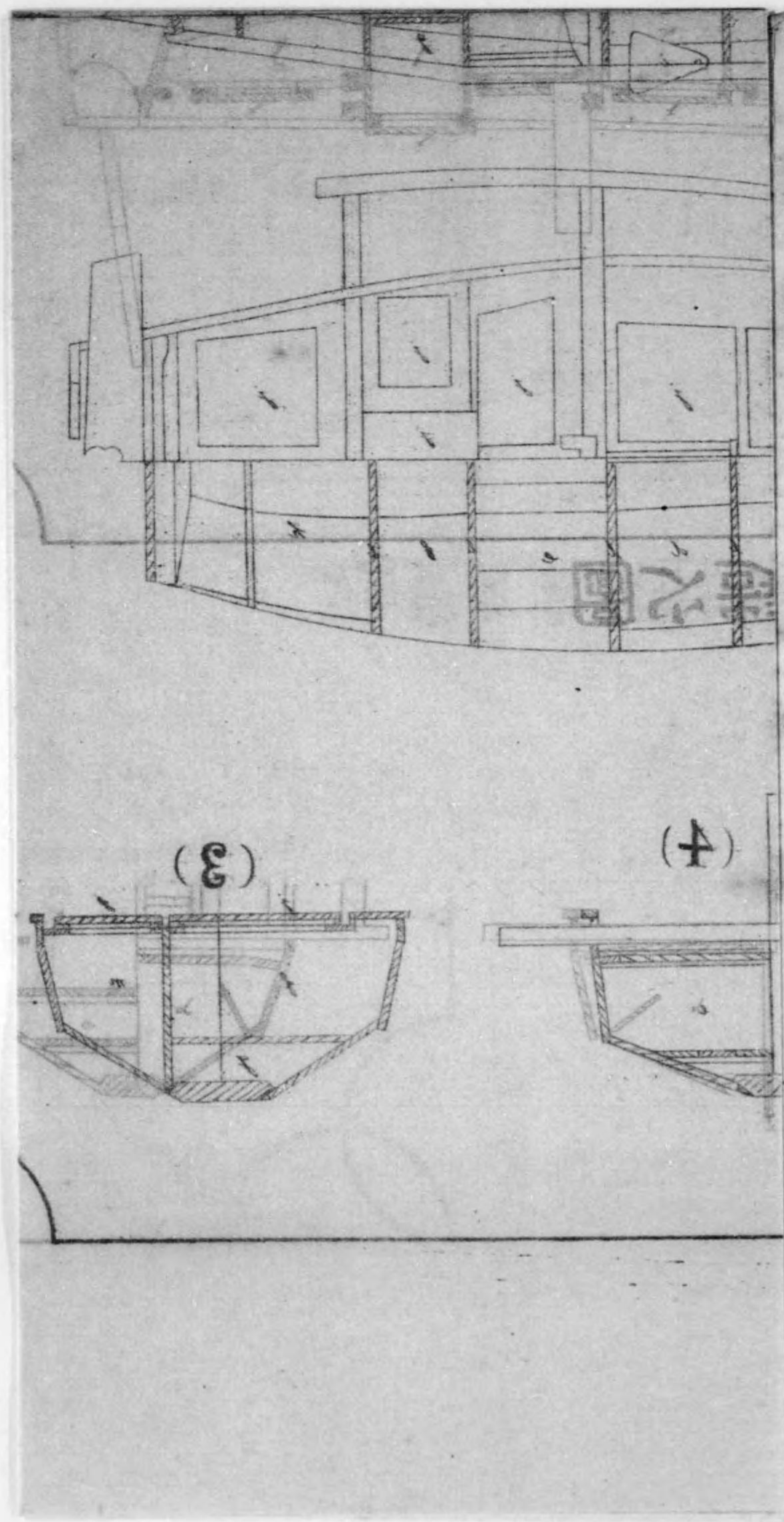
一、帆桁

用材杉				
前帆	上桁長六尺	元口徑一寸		末口徑一寸
	下桁 七尺五寸	"		"
中帆	上桁 九尺	二寸		二寸
	下桁 一丈二尺	"		"
後帆	上桁 一丈二尺	"		"
	下桁 一丈四尺五寸	"		"

一、索具

「リギン」中橋及后橋ノ頂端ヨリ徑五分ノ「マニラロープ」左右各一條ヲ臺ニ張リ詰メ橋ノ起伏ニ不便ナキヨウ取付タリ  
 「ハリヤード」徑六分ノ「マニラロープ」  
 「シート」徑六分ノ「マニラロープ」  
 錨網徑九分ノ棕綱長サ二百尋及ヒ七分徑ノモノ百尋ヲ備フ

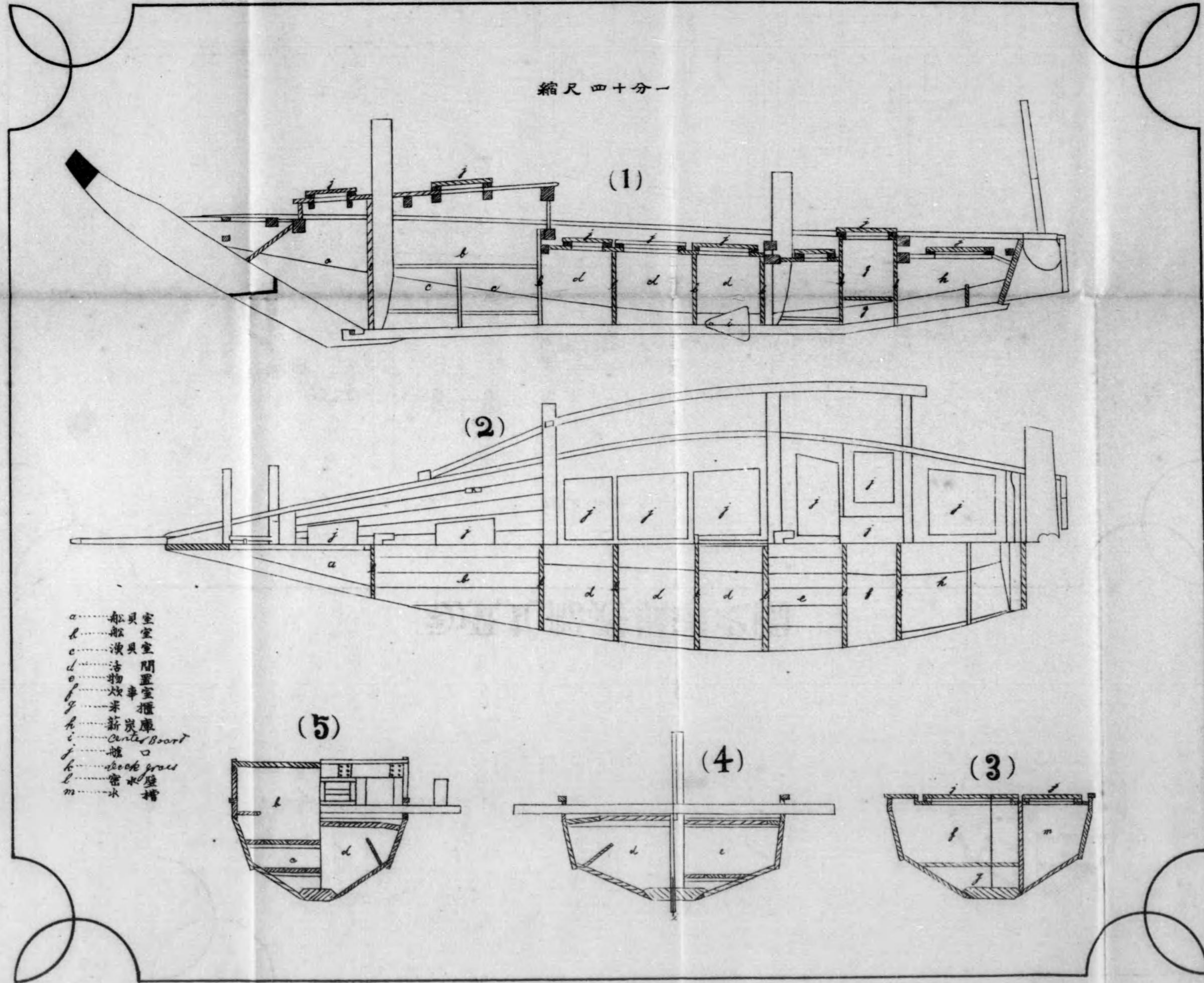
一、錨





# 初鷹丸船體構造之圖

縮尺四十分一



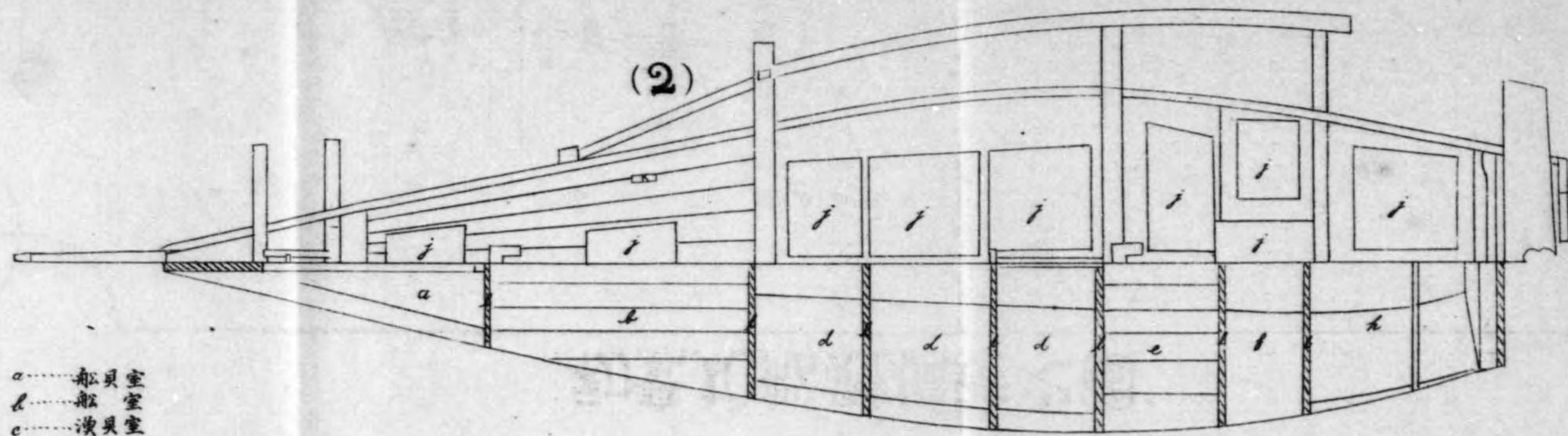
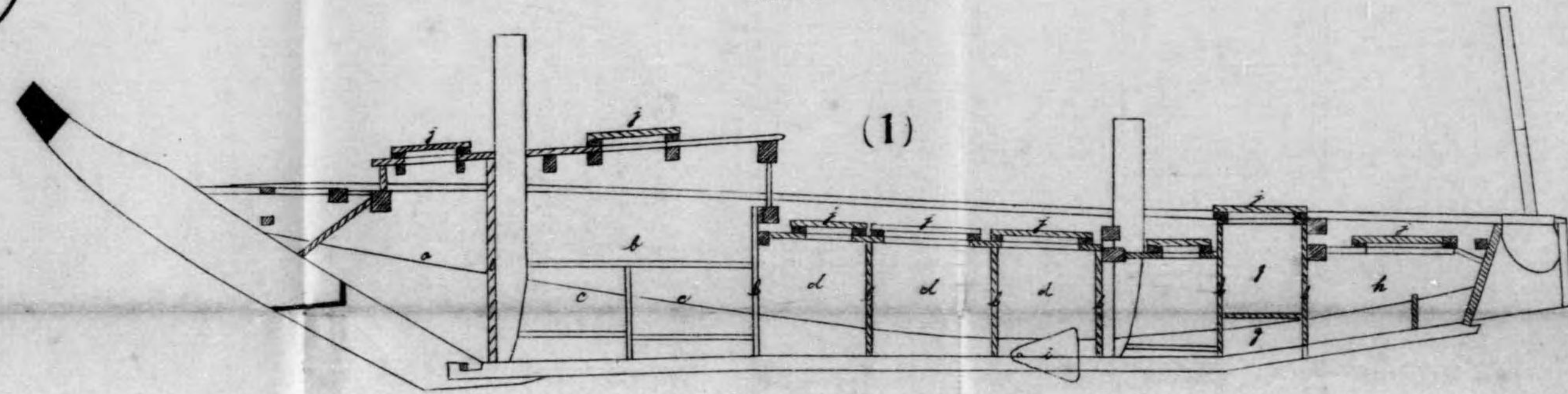
- a.....船艙室
- b.....船艙室
- c.....船艙室
- d.....活間
- e.....物置室
- f.....炊事
- g.....米櫃
- h.....薪炭庫
- i.....Center Board
- j.....櫃
- k.....lock grill
- l.....密水壁
- m.....水櫃



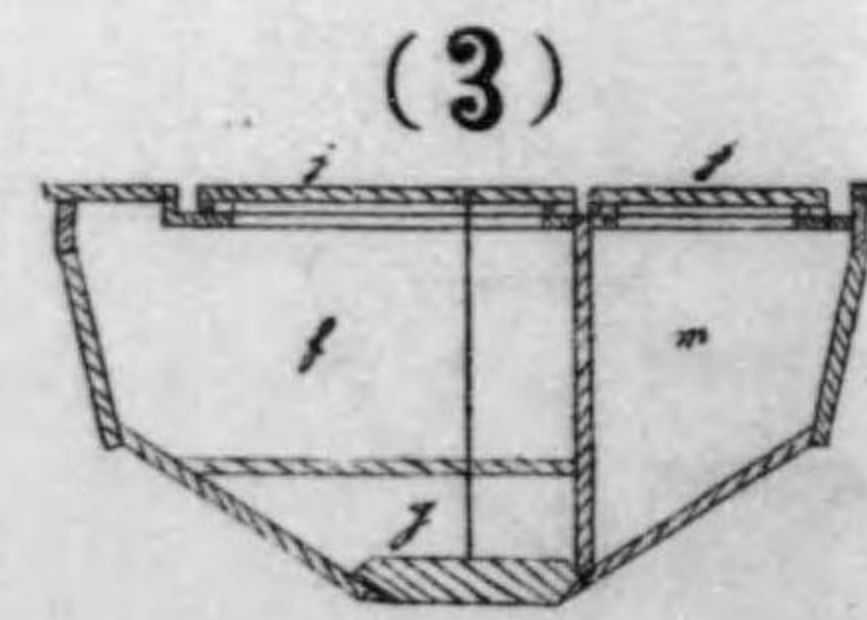
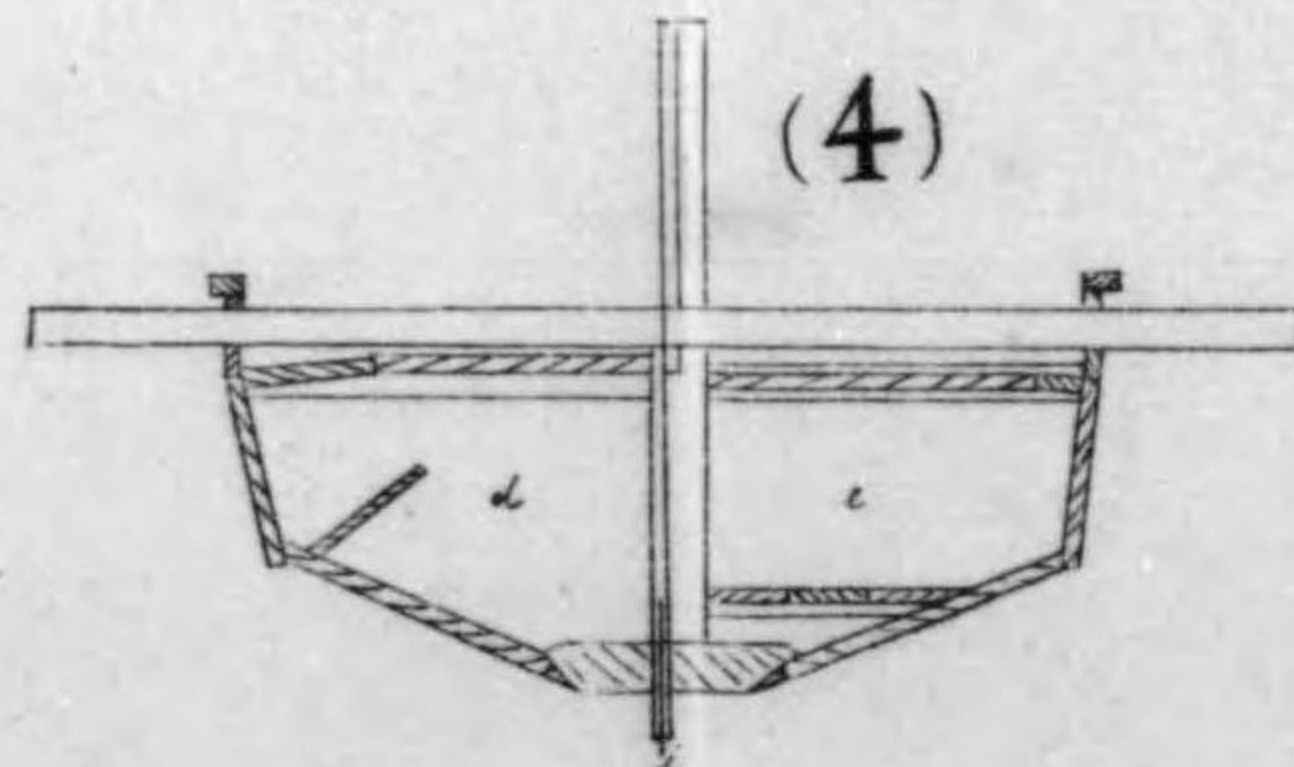
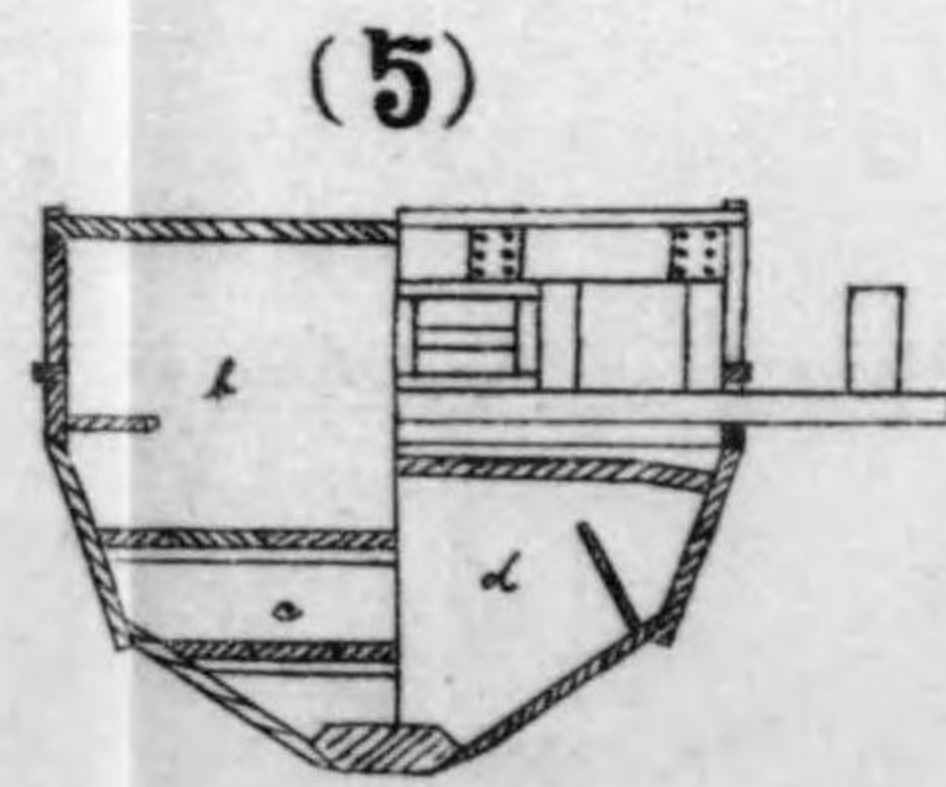


# 初鷹丸船體構造之圖

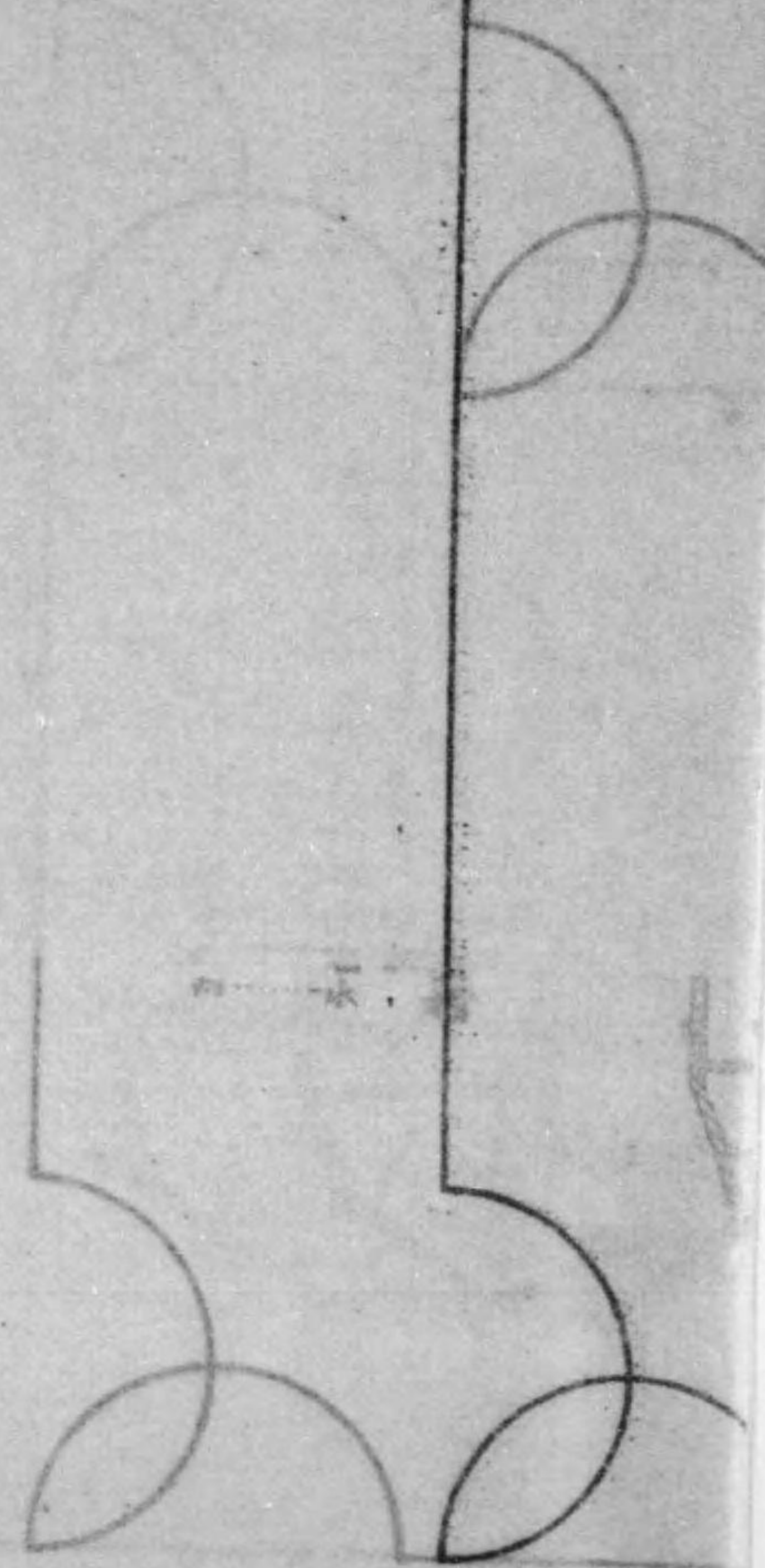
縮尺四十分一



- a.....船室
- b.....船室
- c.....船室
- d.....活間
- e.....物置
- f.....炊事
- g.....米櫃
- h.....薪炭庫
- i.....Center Board
- j.....櫃口
- k.....deck plate
- l.....密水壁
- m.....水槽







鐵製唐人形重サ六貫、八貫並ニ十貫ノモノ三挺ヲ備フ

一、櫓

六挺ヲ備フ

構造ノ大略以上ノ如シ而シテ本船ノ設計ニ就テ注意シタル所及在來ノ漁船ノ構造ト異ル所ハ

- 一、船體ノ構造ヲ堅牢ニシ沖合漁業ニ支障ナカラシム
  - 一、全部ニ甲板ヲ設ク
  - 一、船體ノ横撓ニ對スル抵抗力ヲ増加セシムル爲メ船内ニ七ヶ所ノ隔板ヲ設ク
  - 一、中舵ヲ設ケ逆航ニ適良ナラシムルト全時ニ復原力ヲ強カラシム
  - 一、外柵ヲ設ケ帆走時風壓ニ對スル船體ノ傾斜ヲ支持セシメ航行力ヲ増加シタリ
  - 一、帆裝ヲ「ラツグセル」トナシ開航ニ便シ且ツ逆轉ニ容易ナラシム
  - 一、船首乾舷部ヲ低クシ操業時ノ踞ヲ容易ナラシメタリ
  - 一、表甲板ヲ二番門迄延長シ船口ヲ前後二ヶ所ニ設ケ船員室並ニ船具庫ヲ置キタリ
- 上記ノ構造法ニ依リ明治四十五年四月五日大分縣佐賀關ニ於テ起工シ全年六月五日日本縣呼子港ニ廻航セリ爾來大正元年十一月ニ至ル六ヶ月間本縣近海ニ於テ使用シタル成績ニ徴スレバ船體堅牢ニシテ復原力強キ爲メ航海ノ確實ナルコトヲ認メラル又外柵ノ設備ハ強風時ニ際シ益々此ノ特徴ヲ發揮シ怒濤ヲ蹴テ疾走スルモ激烈ナル搖動ヲ生セズ又「ラツグセル」ヲ用ヒ中舵ヲ垂下シタルガ爲メ逆航ニ際シ風下へ押流セラル、ノ度ヲ減シ風位ニ接近シテ約四點内外迄遡上スルコトヲ得ルヲ以テ風上ノ目的地ニ向ツテ屢々逆航轉回スルニ當リテハ從來ノ角帆ト「ラツグセル」ノ干係中舵ノ有無ガ時間航程ニ及ボス得失決シテ些少ナラザルヲ知ル而シテ之レカ効驗ニ就テハ已ニ識者ノ定論アル所ナリト雖モ未ダ本縣ニ於テ一般漁業者ガ漁船ニ使用



スルニ至ラサルハ畢竟其ノ効用ノ周知セラザルト聊カ取扱上ノ煩雜ナル等ノ事情ニ起因スルガ如シ内海及近海ノ漁業ニ従事スルモノハ暫ク之ヲ措キ少クモ沖合ニ出漁スル當業者ニ對シテハ此範ニ從ハンコヲ獎勵シテ已マザルナリ又船首乾舷部ヲ低クシタル爲メ操業踴躍ノ際ニ於テハ風壓ヲ受クルコト少キヲ以テ其ノ勞ヲ除ク事多シ其他所々局部ノ構造ニ注意ヲ施シ全体ノ上ニ於テ好成绩ヲ收メタリト雖モ無風時ニ於テ漕行スル場合ハ船体ノ輕快ヲ缺クヲ以テ速力鈍キハ已ムヲ得サルノ事ナリト雖モ如斯ノ機會ハ一漁期中僅々數日ヲ數フルニ過キサルヲ以テ之レヲ全體ノ上ヨリ云フ時ハ敢テ意トスルニ足ラス

鯛延繩試驗

主任 技手 宮 田

光

本試驗ハ前年度ノ計畫ヲ繼承シテ行ヒタルモノニシテ其ノ概況左ノ如シ

漁期及漁場

本試驗ハ四五月ノ候ニ於テ行フ可キ豫定ナリシモ漁船進水期ノ遅延セシ爲メ六七月並ニ十一月ノ初旬ニ於テ施行スルノ已ムナキニ至レリ而シテ漁船ハ初燃丸ヲ使用シ漁夫六名乗込ニ神島ヨリ烏帽子島ノ間ニ於テ施行セリ

漁具

前年ノ例ニ鑑ミ左ノ如ク改造セリ

幹繩ハ麻糸ノ二子撚ニシテ一鉢ノ長サ三百二十尋其ノ重サ二百八十匁之レニ麻糸ノ二子撚長サ二尋半其ノ重サ一匁ノ枝系ヲ八尋毎ニ一本ヅツノ割合ヲ以テ總數四十本ヲ付ス  
上記ノ如キモノ拾鉢ヲ準備シ他ハ先年度製作ノモノヲ併用セリ

餌料

六七月ニ於テハ柔魚ヲ以テ十一月ニ於テハ手長章魚及ビ鰻ヲ使用セリ今其ノ漁撈情況ヲ表示スレバ左ノ如シ

月日	氣象		海況		漁場	餌料	漁具	漁獲物	記事
	天氣	風向	風力	潮流					
六月十一日	晴	北	五	西	小神島ヲ西方ニ去ル約四里ノ地点ヨリ西方ニ二神島ノ北方約三里ノ所ヨリ北方	魚柔	午後四時半	大たい	午前九時出帆四時漁場看風波高クシテ操業困難ナリ終テ二神島ニ假泊ス
六月十二日	晴	北	三	西	二神島ノ北方約三里ノ所ヨリ北方	魚柔	午後四時半	大たい	揚繩後展帆呼子ニ入ル
六月十三日	晴	不定	〃	西	馬渡島ノ北方二里ヨリ南西ニ	魚柔	午前九時四十分	ふたい	揚繩後展帆呼子ニ入ル
六月十八日	晴	北西	二	東	加唐島ノ北方約四里ヨリ東方ニ	魚柔	午後八時	ひらめ	揚繩後展帆呼子ニ入ル
六月廿二日	晴	北	四	東	烏帽子ノ南方約三里	魚柔	午後八時	たい	終テ一本釣チ行フ
六月廿四日	晴	不定	〃	東	神集島ノ北方約二里	魚柔	午後九時	あたい	揚繩後漕進間ノ瀬ニ向フ
六月廿五日	曇	北	二	東	名島ノ北方約四里	魚柔	午後八時	あたい	午後四時名島ヲ發シ揚繩後名島ニ假泊ス
六月廿八日	晴	北東	四	西	名島ノ西方約一里ノ所ヨリ上いづみ岩ニ向ク	魚柔	午後六時	小たい	午前九時展帆唐津ニ向フ
六月三十日	晴	北東	四	西	神集島ノ北方約二里ノ所ヨリ平瀬ニ向ク	魚柔	午後九時	たい	正午唐津出帆漁場ニ至リ揚繩後名島ニ假泊
七月一日	晴	北東	二	東	馬渡島ノ北方四里ノ所ヨリ北西ニ向ク	魚柔	午後八時	たい	午後三時呼子出帆壹州水道ニ下籠シ帆走大島ニ假泊
七月四日	晴	南	二	東	平島ノ西方四里ノ所ヨリ平島ニ向ク	魚柔	午後六時	たい	午後一時展帆風雨トナレシヲ以テ初瀬ニ入港
七月五日	晴	北	二	東	妻島ノ南方約三里ノ所ヨリ名島ニ向ク	魚柔	午後七時	たい	午前二時半印通寺發漁場ニ向ヒ終テ馬渡及馬津ニ至リ一本釣チナラス
七月六日	雨	北	二	東	東方ニ	魚柔	午後七時	たい	午後三時出帆五時漁場看揚繩後假泊
七月十六日	晴	南	五	西	下いづみ岩ノ南方約二里ノ所ヨリ西方ニ	魚柔	午後八時	たい	午後三時神集島出帆揚繩後小川島假泊



全	全	全	全	全
十七日	十八日	十一月二日	十一月三日	全
晴	晴	曇	晴	晴
西	南	西	北西	北西
四	四	四	二	二
西	西	東	東	東
砂	礁	礁	礁	礁
小川島ノ北方約二哩ヨリ北	鳥帽子ノ南方約三哩ヨリ西	鳥帽子ノ西方約一哩ヨリ北	小川島ノ東方二哩ノ地点ヨリ北方	小川島ノ北東四哩ノ所ヨリ北西
ピエ	ピエ	ピエ	コタ	シワイ
四	六	八	二	二
午前	午後	午前	午後	午前
四時	五時	六時	八時	十一時
たい	たい	たい	ふ	ふ
七	六七	四一	一三	三
揚後後展帆第二ノ漁場ニムカヒ	揚後後展帆第一ノ漁場ニムカヒ	午前九時展帆唐津ニムカヒシモ逆風トナレルヲ以テ呼子ニ入ル	午後五時小川島發揚後後展帆ニ至リ揚後後展帆妙見ニ入ル	午前七時釣ナメ展帆名島ニ向ヒ午後五時揚後後展帆ヲ下ス

鯛一本釣試験

主任 技手 宮 田

前表ニ揚クルガ如ク漁獲ハ砂底ニ於テ少ナク主ニ礁上ニ於テ獲ラル、ノ結果ヲ呈セリ而シテ本漁場ニ於ケル岩礁ノ面積擴大ナルモノ少ナキヲ以テ礁上ノミニ於テ行ハントセバ勢ヒ縫航シテ下繩セザル可カラザルモ潮流ノ速カナル場合本船ニ於テハ其ノ操業困難ナル爲メ十分ニ漁場ヲ撰ビテ延下スルヲ能ハザリシハ實ニ遺憾トスル所ナリ而シテ鯛ノ漁獲ノ礁上ニ於テ多クシテ砂底ニ於テ少ナキ理由ハ兩三年以來トロール漁船ノ禁漁區域ヲ侵シテ加唐島沖合ニ操業スル爲メ鯛ノ棲息場ヲ變更シタルニ由ルトノ評アルモ之レ精密ナル調査ヲ遂クルニアラズンバ直ニ之ヲ信スルコト能ハザルヲ以テ更ニ調査研究ノ上報告スル所アルベシ

本試験ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ其ノ試験ノ概況左ノ如シ

漁期及漁場

本試験ハ鯛並ニ小鯛ヲ釣獲スルヲ以テ目的トシ七月ヨリ十月ニ至ル四ヶ月間ニ神島ヨリ鳥帽子島迄ノ間ニ於テ施行スル豫定ナリシモ六月中潮流ノ關係ニテ延繩ヲ使用シ得サリシキニ於テモ之レヲ施行セリ

漁具

前年ノ例ニ鑑ミ左ノ如ク改造セリ

鯛一本釣

元やまハ麻糸二子撚長サ三十尋重サ十三匁ニシテ先やまハ麻糸二子撚長サ三十四尋重サ三匁二分ナリ

沈子

先やまノちも七尋ノ間ニハ鉛製束形沈子長サ六分重サ五匁ノモノヲ釣ヨリ二尺ヲ隔テ、付シ以下ハ沈子一個ダケノ長サヲ短縮シテ付ス總數二十三個ナリ而シテ以下二十七尋ノ間ニハ一尋ニ付キ全形ノ小沈子一匁ノモノ十五個ヲ付ス

其ノ他ハ先年使用シタルモノニ同ジ

餌料

主トシテ蝦活餌ヲ使用セルモ試ニ一回しやこヲ使用シタルニ体ノ柔軟ナル爲メ裝餌困難ニシテ且ツ鯛ノ餌付甚ダ不良ナリシヲ以テ一回ニシテ之レヲ廢止セリ今漁期中ニ於ケル操業ノ狀況ヲ表示スレバ左ノ如シ

月	日	氣	象	海	況	漁	場	料	餌	漁	具	漁	獲	物	記	事
六月	十八日	晴	北西	二	東	礁	鳥帽子ノ南方三哩ノ所	ピエ	七	七	午後五時	いさき	二七	午後六時揚後後展帆		
全	十九日	晴	北	三	西	礁	上	ピエ	七	七	午前八時半	いさき	一三	九時展帆唐津ニ向フ		
全	廿三日	曇	西北	三	西	礁	上	ピエ	七	七	午前七時	いさき	七五			
全	廿四日	晴	不定	〃	礁	上		全	六	六	午前六時	いさき	六三			









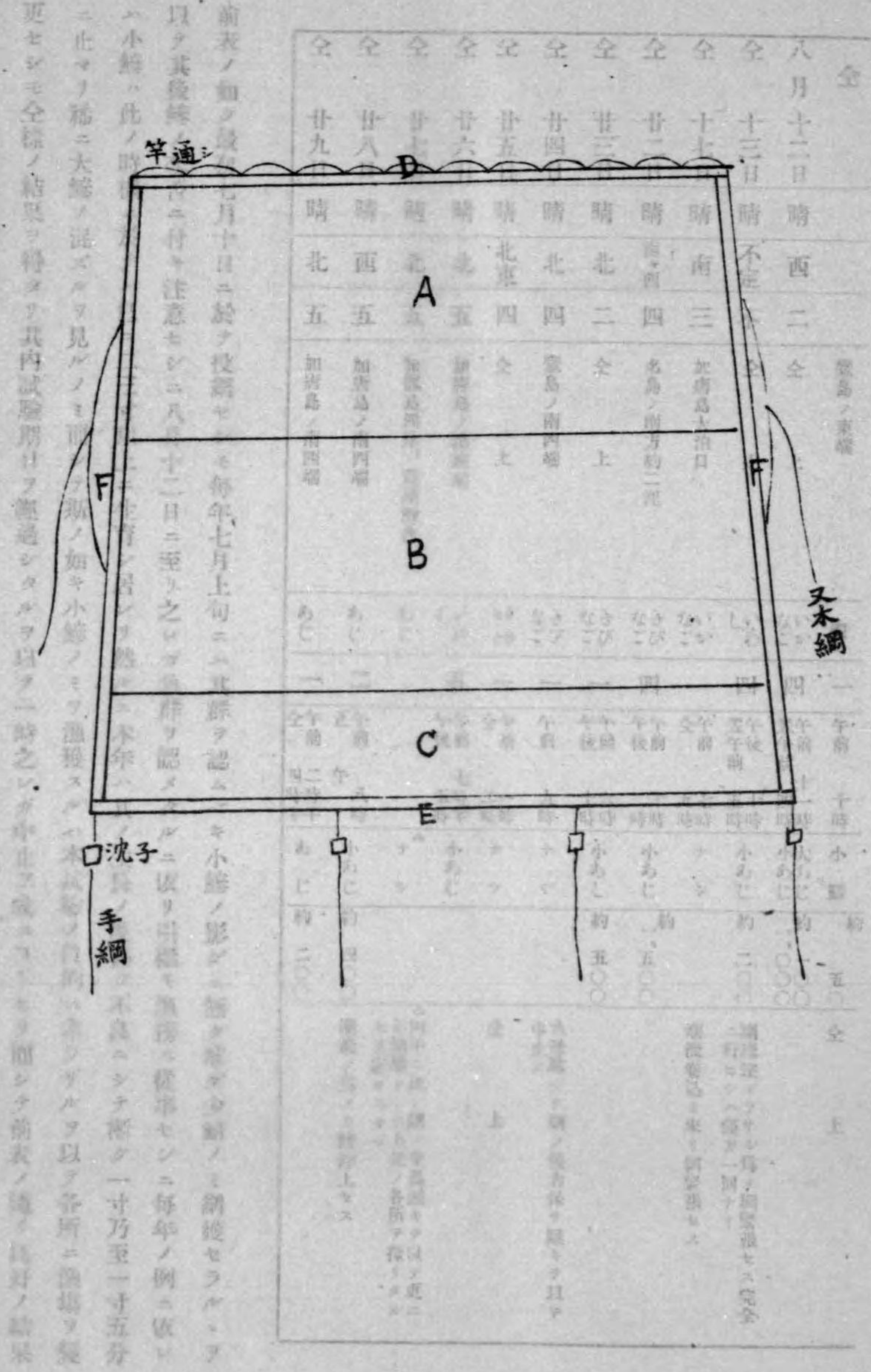


一、鰯掛受網試験

Bハ綿糸六本合セ二十節百掛長サ五尋ノモノ十三反全上  
 Cハ全上九本合セ十節百掛長サ二尋ノモノ四反全上  
 Dハ浮子擦Eハ沈子擦Fハ線網ニシテ總テ綿糸九本合セ五掛七節目ノモノDハ長サ八尋Eハ六尋半Fハ各九尋ヲ付ス  
 浮子ハ元徑三寸ノ竹一本長サ六尋トシ  
 沈子ハ鉛製一個七百々ノモノ四個ヲ附セリ  
 浮子網縁網並ニ沈子網ハ麻製二分五厘徑ノモノヲ用ヒ沈子方ハ六尋半其ノ他ハ各々長サ六尋トス  
 手網ハ棕桐徑二分五厘ニシテ長サ各十尋ノモノヲ沈子一個ニ付一本ヲ付ス而シテ兩縁ニハ又木網トシテ全上ノモノ一本宛  
 ヲ添付セリ  
 竿通網ハ徑二分五厘ノ棕桐ヲ用ヒ其構成圖ノ如シ  
 染料ハ「カツチ」ヲ用ヒタリ  
 以上ノ外ニ副漁具トシテ水眼鏡並ニ餌囊ヲ供ヘタリ

餌料  
 餌トシテハ鹽藏あみヲ使用スル豫定ナリシモ漁期ニ於テ之ヲ得ルヲ能ハザリシ爲メ已ムナク蝦、きびなど、いわし等ヲ  
 細碎シタル物ニ漁獲シタル小鯨ヲ加ヘテ之レニ代ヘタリ  
 今該漁期中ニ於ケル操業ノ狀況ヲ表示セバ左ノ如シ

月 日	氣 象		漁 場	時 間	漁 具	漁 獲 物	摘 要
	天氣	風向 風力					
七月 十日	曇	南	加唐島大泊口	蝦 二 午前	八 七時	小 鱈 約一〇〇尾	潮流ナキ爲メ時餌功ナク浮上スル數少シ



前表ノ如ク設ケルニ於テ七月十日ニ於テ投網セシメ毎年七月上旬ニムル其際ヲ認ム  
 以テ其後續ニ付テ注意セシメ八月十二日ニ至リ之レガ終リト認メ  
 ハ小網ハ此ノ如ク設ケルニ於テ毎年七月十日ニ於テ投網セシメ毎年七月上旬ニムル其際ヲ認ム  
 ニ止マテ福ニ大網ノ試ムル見ルノ如ク小網ノ試ムル見ルノ如ク小網ノ試ムル見ルノ如ク  
 更セシモ全網ノ結果ヲ得テ其内試驗期トシテ通過シタルヲ以テ一時之レガ中止スルニ  
 十五



前表ノ如ク最初七月十日ニ於テ投網セシモ毎年七月上旬ニハ其群ヲ認ムベキ小鯨ノ影ダニ無ク唯ダ少鯨ノミ網獲セラレ、ヲ以テ其後鯨ノ來否ニ付キ注意セシニ八月十二日ニ至リ之レガ魚群ヲ認メタルニ依リ引繼キ漁撈ニ從事セシニ毎年ノ例ニ依レハ小鯨ハ此ノ時機ニ於テハ已ニ二三寸以上ニ生育シ居レリ然ルニ本年ハ其ノ生長ノ度甚タ不良ニシテ漸ク一寸乃至一寸五分ニ止マリ稀ニ大鯨ノ混ズルヲ見ルノミ而シテ斯ノ如キ小鯨ノミヲ漁獲スルハ本試驗ノ目的ニ非ラザルヲ以テ各所ニ漁場ヲ變更セシモ全様ノ結果ヲ得タリ其内試驗期日ヲ經過シタルヲ以テ一時之レガ中止ヲ成スコトセリ而シテ前表ノ通り良好ノ結果

一、調延試驗

全	八月十二日	全	八月十三日	全	八月十七日	全	八月廿二日	全	八月廿三日	全	八月廿四日	全	八月廿五日	全	八月廿六日	全	八月廿七日	全	八月廿八日	全	八月廿九日
全	晴	西	不定	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
全	二	不	三	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
全	鷹島ノ東端	全	加唐島大泊口	全	名島ノ南方約二哩	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端	全	鷹島ノ南西端
全	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
全	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ	あじ
全	一	四	四	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前
全	十時	十一時	四時	十時	七時	九時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時	十時
全	小鯨	大鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨	小鯨
全	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約	約
全	五〇	一〇〇	一〇〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
全	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ	潮流定マラサル爲メ網緊張セス完全ニ行ヒシハ僅カ一回ナリ

前表ノ如ク最初七月十日ニ於テ投網セシモ毎年七月上旬ニハ其群ヲ認ムベキ小鯨ノ影ダニ無ク唯ダ少鯨ノミ網獲セラレ、ヲ以テ其後鯨ノ來否ニ付キ注意セシニ八月十二日ニ至リ之レガ魚群ヲ認メタルニ依リ引繼キ漁撈ニ從事セシニ毎年ノ例ニ依レハ小鯨ハ此ノ時機ニ於テハ已ニ二三寸以上ニ生育シ居レリ然ルニ本年ハ其ノ生長ノ度甚タ不良ニシテ漸ク一寸乃至一寸五分ニ止マリ稀ニ大鯨ノ混ズルヲ見ルノミ而シテ斯ノ如キ小鯨ノミヲ漁獲スルハ本試驗ノ目的ニ非ラザルヲ以テ各所ニ漁場ヲ變更セシモ全様ノ結果ヲ得タリ其内試驗期日ヲ經過シタルヲ以テ一時之レガ中止ヲ成スコトセリ而シテ前表ノ通り良好ノ結果

一、調延試驗



一、調延繩試驗

ヲ收ムル能ハザリシハ畢竟事創始ニ屬シ其ノ使用法ニ不熟ナリシト漁場ノ潮流状態ニ暗ク又餌タルあみヲ得ル能ハザリシトニ由ル

由來本海ハ鱒ノ來游饒多ニシテ且ツ木網ヲ使用スベキ漁場少ナカラザルヲ以テ縣下適種漁業ノ一タルヲ失ハズ若シ夫レ該魚ノ來游例年ノ如ク饒多ニシテ且ツ其ノ體長目的ノ太サニ達セルニ於テハ必ズ豫期以上ノ漁獲アリシナラント信ズ故ヲ以テ今后研究ヲ重テ諸般ノ關係明カナルニ至ラバ大ニ斯業ノ振興ヲ見ルニ至ルベク信セラル然レモ從業日猶ホ淺キ今日其ノ結果ニ對シテ云々スルハ寧ロ早計ニ失スルノ誹リヲ免レザルモ聊カ所感ヲ記シ他日慎重ノ調査研究ヲ待テ更ニ報告スル所アラントス

製造部

雲丹製造試驗

主任助手 大阪 庫太郎

本試驗ハ前年度ヨリノ繼續試驗ニシテ本年度ハ四月中旬ヨリ六月上旬ニ亘リ縣下加唐島、小川島、神集島ニ於テ施行シタリ其ノ試驗ノ詳細ヲ表示スレバ左ノ如シ

回次	月 日	原料種類	原料重量	添加量	濾液後ノ重量	製了後ノ重量	濾液後ノ重量ニ對スル歩留	備 考
一	四月十四日	鬼がせ	二五〇〇g	五〇g	三〇〇〇	一五五〇	〇、六五	卵巣採集ノ際海水洗ヲナス用鹽ハ二等鹽ヲ以テス
二	五月 一日 全	坊主がせ	一〇〇〇	二〇〇	一三〇〇	八四〇〇	〇、七〇	卵巣採集ノ際海水洗ヲナス用鹽ニ等鹽
三	全 十七日	坊主がせ	二五〇〇	五〇	三〇〇〇	一四四〇	〇、四七	卵巣採集ノ際海水洗ヲナス用鹽ニ等鹽ヲ爲メ液狀ナリ歩留少シ
四	全 二十日	鬼がせ	一〇〇〇	二〇〇	一三〇〇	八〇〇	〇、六七	卵巣採集ノ際海水洗ヲナス用鹽ハ二等鹽ヲ使用ス
五	六月 一日	坊主がせ	二五〇〇	六五〇	二九〇〇	二二六〇	〇、六	卵巣採集ノ際海水洗ヲナシ水切ヲ充分ナシタルモノヲ以テス用鹽全上

製了品ハビヤ樽形一合入硝子瓶ニ各容量五十五匁宛ヲ充填シタリ製品ハ希望者ニ對シ壹個ニ付金廿六匁宛ニテ配布セリ

海羅製造試驗

主任助手 大阪 庫太郎

一、雲丹製造試驗



去ル明治四十三年本縣ヨリ農商務省水産講習所教授岡村博士ニ海羅ノ蕃殖保護方法ノ調査ヲ囑托シ其ノ調査ノ結果ニ基キ指導獎勵セラレタル爲メ逐年其産額ヲ増加シ來リタルモ製造法ニ至リテハ未ダ幼稚ニシテ良品ノ製出ヲ見ザリシハ深ク遺憾トスル所ナリ本場ハ之レカ改良ヲ圖ランカ爲メ前年度ニ於テ縣下主産地ニ技術員ヲ派遣シ改良製造法ノ技術ヲ練習セシメ其指導ニ勉メタルガ其成績極メテ良好ニシテ大ニ面目ヲ改メ一部ノ製品ニ至リテハ先進府縣ノ優品ト輸贏ヲ爭フニ至レリ然リト雖モ本縣ノ總産額ヨリ之ヲ觀レバ僅カニ一指ヲ染ムルニ過キササルヲ以テ本年度ヨリ改良試驗ヲ行ヒ販路ヲ講究シ價格ヲ騰貴セシメ以テ改良法ノ有利ナルコトヲ一般當業者ニ示スノ目的ヲ以テ之レカ製造試驗ヲ施行シタリ

原藻

本縣ニ産スル「フノリ」ノ種類ハ主トシテ「フクロフノリ」ニシテ多少「キヌフノリ」ヲ混ス

本試驗ニ供シタル原藻ハ神集島、小川島及加唐島ノ各産地ニ於テ春期採藻後充分乾燥シテ貯藏セシモノヲ購入セリ

原藻ノ撰別

採藻ノ際混セシ雜藻並ニ貝殻等ヲ一々除去シ尙「フクロフノリ」「キヌフノリ」ヲ區別シ各別ニ製造ヲナシタリ

脱塩法

原藻体面ニハ多量ノ海水成分タル諸鹽類ノ附着スルヲ免レザルヲ以テ脱塩ノ操作ヲ施サズ直接製造セルモノハ假令製造中撒水ノ作業ヲナスト雖モ附着セル鹽類ヲ排除スルコト不十分ナルヲ以テ製品ハ殘存附着セル潮解性ノ鹽類ノ爲メ濕潤シ布糊ニ貴重ナル粘質物ノ溶解ヲ促シ其結果製品ヲ重積シタル場合互ニ固着シテ全ク分離スル能ハザルコトアリ又斯ノ如キ製品ハ到底完全ニ乾燥スルコト能ハズ何トナレバ空氣中ニハ常ニ多少ノ水分ヲ飽和セルヲ以テ必ス之ガ濕潤ヲ促スベケレバナリ如上ノ關係アルニヨリ脱塩ハ到底省略ス可カラザル操作ニ屬スルモノナリ猶此ノ操作ハ藻体ヲ軟化シ萎縮セル枝條ヲ伸展シ將來ノ製造操作ヲ便ニスル益アリ要スルニ脱塩ノ目的ハ

一、原藻ニ附着セル鹽類其他ノ夾雜物ヲ除去スルコト

二、原藻ノ軟化及枝條ノ伸展ヲナスニアリ

前記ノ如ク撰別シタル原藻ヲ半切槽ニ適量宛ヲ容レ淡水ヲ注加シテヨク洗滌シ之レヲ箆ニ打上ケ更ニ如斯反覆スルコト三四回ニシテ水切ヲナシ置クモノトス

而シテ脱塩ノ程度ハ洗滌中原藻ノ一部ヲトリテ之ヲ嚼ミ鹹味ヲ感セズ又原藻ヲ採リ握壓ヲ加ヘ再ヒ弛フスレハ直ニ反撥シ或ハ又洗滌スルニ當リ白泡ヲ生セザルニ至ルヲ以テ適度トナス

伸藻法

乾燥場ニ普通ノ荒蕙ヲ排列シ之ニ長サ四尺五寸巾二尺五寸高サ一寸ノ木枠ヲ置キ前記水切セル原藻ヲ其ノ木枠中ニ厚薄ナキ様指頭ヲ以テ排列シ伸藻ヲナス蕙伸ヲ行フ時刻ハ早朝ヨリ正午ニ至ルヲ普通トス之レ畢竟薄付ナレバ當日中ニ乾燥ヲ終了シ又厚付ナルモ當日中ニ大部分ハ乾燥セルヲ以テ仮ヘ翌日不幸雨天ニ遭遇スルモ屋内ノ乾燥ニ委ネテ猶ヨク腐敗ヲ免カレ可キヲ以テナリ

褪色粘合法

褪色粘合法ノ方法ハ色素分解シテ褪色白化セル無數ノ藻体ヲ癒合固着セシメ板狀ノ藻層ヲ爲サシムルノ操作ニシテ之レヲ遂行スルニハ蕙上ニ移シタル藻層ニ適當ナル撒水器ヲ以テ水ヲ給シ直射ノ日光ニ曝露シ陽熱ニヨリテ加温乾燥スルニアリ

一、撒水日乾

撒水ハ如露ヲ以テ蕙ニ伸シタ藻體ニ水分ヲ平均ニ撒布セリ  
撒水及ヒ日乾ノ製造上必要ナル理由ハ精細ナル研究ヲ遂グルニアラサレバ明言スル能ハズト雖モ藻類ノ色素ハ水分ヲ含有スル場合日光ノ高熱ナル直射ヲ受ケ始めテ分解セラル、モノ、如シ



而シテ撒水中ノ日乾ハ一方ニ於テハ光線ニヨリテ脱色ヲ促スノ必要アルニヨルト雖モ之レト同時ニ一方ニ於テハ太陽熱ニ依リテ撒水加熱セル爲メ藻體中ノ粘質物ノ幾分溶解セラレ各個ノ藻體互ニ粘着シ緊密ナル網狀ヲ呈スルニ至ルモノニシテ撒水後製品ヲ全ク乾燥セシムル爲メニ日乾スルハ一方ニ於テ經濟的熱原トシテ陽熱ヲ求ムルト一方ニ於テハ其間ニ於テ光線ヲ作用セシメ以テ褪色ヲ完全ニセントスルニヨルモノナリ

撒水ノ回数ハ決シテ一定セルモノニアラズ諸般ノ條件ニヨリテ一、二回ヨリ十數回ニ至ルノ差異ヲ生セシムルモノトス而シテ如上回数ニ増減アル所以ハ素ヨリ枚舉スル能ハズト雖モ其ノ要件ヲ舉クレバ左ノ如シ

- 一、原藻ノ性質
- 二、撒水ノ性質
- 三、氣温ノ高低
- 四、風ノ有無及風力
- 五、撒水法及用具ノ相違
- 六、準備加工ノ方法及程度
- 七、蕈ノ新古
- 八、干燥場ノ土質

如上ノ條件ヲ斟酌シテ適度ノ撒水ヲ行フヲ肝要ナリ

二、撒水日乾中ニ起ル變化

撒水シタル後直射ノ日光ニ曝露スルキハ原藻ノ色素ハ分解セラレテ白色ニ化シ之レト同時ニ藻體ハ多少溶解ノ狀況ヲ呈シ且ツ一時ハ其容積ヲ増加シ相互密着スルニ至ル而シテ漸次乾燥スルニ從ヒテ淡黃色ニ變化ス之レ蓋シ布糊成分中空氣中ノ酸素

ニヨリ酸化作用ヲ蒙ルモノアルニヨルガ如シ

乾上ゲ

撒水ヲ終リタル後藻體ヲ全然日乾シ終ルノ操作ヲ乾上ト云フ之レニ要スル時間ノ長短ハ諸般ノ事情ニヨリ差異アリ即チ原藻ノ性質、氣温ノ高低、風ノ有無、空氣中ニ含有スル湿度ノ如何等尤モ密接ノ關係ヲ有スト雖モ尙ホ藻層ノ厚薄ニヨリ差異ヲ生スルモノナリ即チ薄付ニアリテハ六、七時間厚付ニアリテハ十數時間ヲ要ス故ニ厚付ニアリテ其ノ干シ上ケハ翌日ニ亘ルヲ免レス此ニ於テ夜間ハ屋內ニ取入レ置キ翌朝屋外ニ取出シ更ニ乾燥ヲ行フモノトス

仕上ゲ

製品全部乾了スルニ及ビ蕈ヨリ剝キ取り茲ニ全ク製了ス蓋シ製品ノ優良ナルモノハ左記ノ條件ヲ具備セルモノトス

- 一、糊分強キモノ
- 二、殘滓少ナキモノ
- 三、溶解容易ナルモノ
- 四、色澤良好ナルモノ
- 五、層ニ厚薄ナキモノ
- 六、落子付キヨキモノ
- 七、夾雜物ナキモノ

今其試驗ノ成績ヲ表示セバ左ノ如シ

回次	月	日	原藻重量	製品重量	歩留	原藻種類	產地	備	考
一	七月	廿九日	八五〇	五五〇	〇・七三	ホンフノリ	加唐島	井水洗チナス	







菰 麥桿製長サ一間半巾三尺ノモノ

製造スルニ際シテハ採集シタル海苔ヲ桶ニ移シ淡水ヲ注加シテ一應洗滌シ更ニ之ヲ窠ニ入レ水ヲ滴下シ後之ヲ前記ノ菰ヲ擴ケ置キタル上ニ梓ヲ載セ水切ヲ終リタル海苔ヲ適量宛ヲ取り指頭ニテ厚薄ナキ様梓中ニ擴ケ菰ノ全面ニ滿ツレバ之レヲ日當リヨキ場所ニ斜ニ立掛ケ其全ク乾了スルニ至リ菰ヨリ剝キ取り茲ニ製了ス之レヲ十枚宛葉ニテ束ネ一帖トナシ二錢乃至二錢五厘ニテ小賣ヲナセリ

試験ノ製造法

製造場並ニ乾燥場トシテハ別ニ建設セシテ便宜ノ場所ニ運ビ抄製並ニ乾燥ヲナシタリ即チ加唐島ニテハ漁業組合事務所並ニ本濱、小川島ニテハ宮ノ浦ノ濱ノ南向ニ傾斜セル處ヲ以テセリ  
製造用器具トシテハ左記ノモノヲ使用ス

- 梓 杉製
- 簀 葎製
- 樹
- 水流
- 四斗樽
- 庖刀
- 粗板

洗滌並ニ脱塩

採集シ持歸リタル原料一貫匁宛ヲ四斗樽ニ入レ之レニ淡水ヲ注入シテヨク攪伴シ附着セル介殼並ニ砂泥ヲ分離沈降セシ

メ漸次上方ヨリ海苔ノミヲ窠ニ打上ケ最後ニ沈降セシ介殼砂泥ヲ除去シ更ニ二三回此ノ操作ヲ反覆シテ洗滌シ脱塩ヲ行フ  
洗滌全ク終レハ之レヲ窠ニ打上ケ水切ヲナシ適量宛粗板上ニトリ薄及庖刀ヲ以テ適當ノ大サニ細切ス

抄製

細切シタル原料一俵ヲ水一斗五俵位ノ割合ニテ四斗樽ニ入レヨク混和シ攪伴ス而シテ之レヲ樹ニテ汲ミ取り豫テ設ケタル流臺上ノ簀上ニ梓ヲ置キ其中ニ厚薄ナキ様注下ス此際其手加減ニヨリ抄ヒ切レ或ハ厚薄不同ヲ生スルモノナレバ熟練ヲ要スルコト多ナリ若シ抄ヒ切ヲ生シタル際ハ其所ヲ繕ヒ輕ク梓ノ一端ヲ叩キ水分ノ滴下ヲ助ケ原料ノ梓外ニ流出セザルヲ窺ヒ梓ヲ去リ其簀ハ漸次之レヲ斜立セシメテ二三十枚抄キ了リタル時順次乾燥場ニ送り乾燥ニ付ス

乾燥

乾燥場トシテハ高サ四尺長サ數十間ノモノヲ斜ニ作り藁ヲ以テ被ヒ其ノ上ニ葎簀ヲ張り竹竿ヲ海苔簀ノ丈ニ應シ數段ニ結束シ簀ヲ排列シ建設ス可キモノナレバ經費ノ都合上之ヲ建築スルヲ得ザル爲メ假ニ南向ニ適當ニ傾斜セル土地ヲ撰定シ麥桿製ノ菰ヲ斜ニ立掛ケ之ニテ乾燥場ノ代用トナシタル故往々風ノ爲メ飛散スルヲ免レサリシハ甚ダ以テ遺憾トスル處ナリ  
乾燥ノ方法ハ抄製水切ヲナシタルモノヲ先ヅ其ノ裏面ヲ日光ニ當テ八分通り乾燥シタルキ之レヲ反轉シ其全ク了乾スルニ及ビ簀ヨリ剝キ取り茲ニ製了ス

回次	月	日	原料量	原價	製品量	枚數	重量	歩留	備	考
一	十二月	十三日	一七四匁	三三〇	一六匁	二〇〇枚	〇・八	一〇九二		
二	"	十四日	三六一	六五〇	三五	四〇〇	〇・八一	一〇九〇		
三	"	十七日	二七〇	五〇〇		三〇〇			午前九時製造ニ着手シ午後曇リ夜ニ入り降雨トナリ十八日十九日大雨ナリシ爲メ全部腐敗ス	



一、海苔製造試験

一〇	九	八	七	六	五	四
七	五	二	二	五	四	二十
日	日	日	日	日	日	日
七〇〇	一三四	一五五	九〇〇	三二四	三六〇	一五三
二六〇	三九〇	四五〇	二五〇	七〇〇	七五〇	三〇六
六二二	二二〇	一四三	七三三	二八〇	三〇〇	一五三
七〇〇	一七五	二〇〇	八〇〇	三〇〇	三五五	一七〇
〇・八七	〇・七〇	〇・七一	〇・九	〇・八七	〇・八九	〇・九
〇・八五	〇・九二	〇・九五	〇・八七	〇・八九	〇・八九	〇・九二

午前六時半ヨリ製造ニ着手シ午後迄ニ乾燥セシモノ二百五十枚夜ニ入り降雨トナル二十九日降雪アリ乾燥スル能ハス納屋ニ取入レタル儘放置三十日晴天全部乾了ス

製品ハ未ダ試賣セズ

青海苔製造

青海苔ハ常ニ河口又ハ淡水ノ注入スル處或ハ流水ノ内灣及他ノ海藻ニ附着シテ外海ニ産スルモノ、三種ニ區別スル事ヲ得ベシ是レ素ヨリ植物學的區別ニアラサレモカク所在ノ異ナルニ伴レテ其ノ香味及形狀ニ多少ノ變化アリ就中河口ニアルモノヲ以テ最モ佳トナス色ハ鮮綠色ニシテ圓盤狀ノ根ヲ以テ附着シ之ヨリ絲狀ノ莖ヲ發シ上部ニ至ルニ從ヒ太クナリ中空圓柱狀ヲナス

之等青海苔ハ縣下各地ニ産出スト雖モ未ダ之レカ利用ノ途ヲ講ゼズ徒ラニ放棄シテ顧ルモノナシ依而本場ハ茲ニ見ル所アリ利用ノ方法ヲ講スルト同時ニ其販路ヲ求メ相當ノ産トナサバ漁民ノ閑散時ニ於ケル事業トシテ多少ノ利益ヲ收メ得ヘキニ依リ副業的ニ之ヲ獎勵スルノ目的ヲ以テ之レカ製造試験ヲ名古屋村ニ於テ施行シタリ

青海苔原料

原料ハ方名「カツノリ」ト稱シ打上河口ニ着生セシ青海苔ヲ以テセリ  
採集方法  
干潮時籠ヲ濱ニ据ヘ置キ両手ヲ以テ採集シ歸リ製造ニ着手ス

製造方法

製造方法ハ海苔製造試験ノ方法ニ全シ  
今其成績ヲ表示セハ左ノ如シ

回次	月 日	原料 數量	原價	製品 數量	枚數	一 重 量 枚	歩 留	備	考
一	二月廿四日	六五〇	三九四	三二五	四五〇	〇・七	〇・四六〇		
二	廿五日	九七〇	五二三	四〇	五八五	〇・七	〇・四一〇		
三	廿六日	一一三〇	五九〇	四七三	六七五	〇・七	〇・四一一		
四	廿七日	一六〇〇	八五	六	九〇	〇・五	〇・四一〇		
五	廿八日	一一五〇	六五	四四	六九〇	〇・七	〇・四三〇	三月一日降雨トナリ未乾燥ノ分ハ全部屋内ニ取入レ 二日ニ至リ乾燥サナシ	

製品ハ未ダ試賣セズ

一、海苔製造試験



## 養 殖 部

### 蝗被害原因調査並ニ稚貝保護試験

主任 技手 吉 津 常 藏  
助手 磯 谷 克 雄

本試験ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ既ニ第一回ノ試験ニ依レバ今後研究ノ資ニ供スベキモノ尠カラズト雖ドモ其被害ノ原因タル多クハ稚貝蒔付量ノ厚薄及其時期並ニ浮泥ノ堆積海洋氣象上ノ障害等ニ基クモノ、如ク思考セラル、ヲ以テ更ニ進ンテ幾多ノ試験ヲ重ネ之カ闡明ヲ期セントス然レ共蝗被害時期ヲ避クルノ養殖方法ハ第一回試験ニ於テ好成绩ヲ收メタルニ依リ當業者一般ニ之レヲ奨励シタル結果本年ノ如キハ此ノ養殖方法ニ則リ五、六、七ノ三ヶ月間ニ於テ蒔付タル其ノ數量ハ一千六百三十六石餘ニ達セリ

養殖試験用稚貝採收、運搬中ニ於ケル處理並ニ蒔付方法等ハ前年度ノ方針ニ基キ四月ヨリ(前年ハ五月ヨリ)八月ニ至ルマデ毎月一回所定ノ數量ヲ蒔付ケ被害ノ關係ヲ試験セリ其狀況左ノ如シ

#### 四月蒔

(古種貝ト唱ヘ稚貝發生地ニ於テ越年セルモノ)

坪蒔付量	蒔付 月日	蒔付 數量	採收 月日	採收 數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
二坪五合蒔	四月二十一日	六、〇九合	九月二十四日	七、五三合	百五十七日
三坪蒔	全	二、三四〇	全 二十六日	三、一七〇	百五十九日

#### 五月蒔

(古種貝ト唱ヘ稚貝發生地ニ於テ越年セルモノ)

一、蝗被害原因調査並ニ稚貝養殖保護試験



坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
三舛蒔	五月二十五日	九、六〇〇	八月二十八日	二、七〇〇	百 日

六月蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
二舛蒔	六月二十日	八、五〇〇	九月二十七日	六、〇〇〇	百 十日
二舛五合蒔	全 二十九日	一〇、〇〇〇			

七月蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
二舛蒔	七月十三日	六、四七〇			

八月蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
二舛蒔	八月十五日	五、四七五			

明治四十四年八月蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
二舛蒔	八月十二日	四、〇〇〇	八月十三日	七、〇〇〇	三百六十六日
三舛蒔	全	三、〇〇〇	全	五、七〇〇	三百六十六日

以上ノ内六月二十九日蒔拾石八月十五日蒔五石四斗七舛五合ノ二區劃ハ例年ノ産卵期前即チ九月中ニ採收スル筈ナリシモ成長ノ意外ニ不良ナリシト氣候ノ早冷ニ伴ヒ産卵期ノ約一週間早カリシ爲メ終ニ採收スルヲ得ス不得止次年度ニ引續キ養殖スルコト、セリ然ルニ十月中旬ヨリ十一月ニ亘リ一般養殖地ニ被害アリ前記ノ養殖貝モ同時ニ大部分ハ斃死セシガ獨リ佐賀郡南川副村地先試驗地ニ於テハ其當時何等ノ異狀ナク七月蒔ノ分ハ現ニ生育セルヲ以テ次年度ニ於テ採收スル豫定ナリ

坪蒔養殖試驗

本試驗ハ前年度ト同一ノ方針ニ依リ古種貝ハ一ヶ月時期ヲ早メ四月ヨリ五月マテ又新種貝ハ六月ヨリ八月迄ノ間ニ移殖セリ其成績左ノ如シ

四月二十二日蒔

(古種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
一舛蒔	一寸五分區	一、五〇〇	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日
二舛蒔	全	全	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日
三舛蒔	全	全	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日

本表ニ依レバ養殖日數百二十八日間ニシテ蒔付當時ノ體量ニ比シ一舛蒔ノモノ五倍九分強、二舛蒔ノモノ六倍弱、三舛蒔ノモノ五倍五分弱ニ各成長シ又採收量ハ蒔付量ニ比シ一舛蒔ノモノ三割八分、二舛蒔ノモノ八割五分、三舛蒔ノモノ四割六分ノ各增收トナレリ

五月二十五日蒔

(古種貝)

坪蒔付量	蒔付月日	蒔付數量	採收月日	採收數量	蒔付ヨリ採收マデノ養殖日數
一舛蒔	一寸五分區	一、五〇〇	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日
二舛蒔	全	全	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日
三舛蒔	全	全	二寸五分區	七、五〇〇	四十五日



一、鹽被害原因調査並ニ種貝養殖保護試験

一 舂 蒔	一寸五分皿	九分八厘	二百三粒	二百三粒	一寸五分皿	六分一分	五十二粒	九十一粒	一升七合勺
二 舂 蒔	全	全	全	四百三粒	一寸四分五厘	五分八分五厘	五十五粒	百一十一粒	二升六合勺
三 舂 蒔	全	全	全	六百九粒	一寸四分五厘	五分九分七厘	五十三粒	百六十四粒	三升四合勺

三十六

本表ニ依レバ養殖日數九十六日間ニシテ蒔付當時ノ体量ニ比シ一舂ノモノ六倍二歩強、二舂蒔ノモノ五倍九歩強、三舂蒔ノモノ六倍弱ニ成長シ又收納量ハ蒔付量ニ比シ一舂蒔ノモノ七割五歩、二舂蒔ノモノ三割三歩強、三舂蒔ノモノ一割五歩ノ增收トナレリ

四拾四年八月十二日蒔

(新種貝)

坪蒔付量	蒔付當時ノ種貝		收納時ノ成長	
	體	量	體	量
一 舂 蒔	一寸四分皿	八分	一寸四分皿	十三分
二 舂 蒔	全	全	一寸四分皿	二十五分
三 舂 蒔	全	全	一寸四分皿	二十五分

本表ニ依レバ養殖日數三百六十七日間ニシテ蒔付當時ノ体量ニ比シ一舂蒔ノモノ十六倍二歩強、二舂蒔ノモノ十五倍七歩強、三舂蒔ノモノ十五倍七歩強ニ成長シ又收納量ハ蒔付量ニ比シ一舂蒔ノモノ二割八歩強、二舂蒔ノモノ三割一歩強、三舂蒔ノモノ二割三歩強ノ增收トナレリ

養殖製鹽試驗

本試驗ハ以上坪蒔養殖種貝ヲ各月ニ區別シ之ヲ原料トシテ製造セリ其成績左ノ如シ

製造歩合

調査事項	月別	八月	九月	十月	十一月	十二月	摘要
------	----	----	----	----	-----	-----	----

原料ノ數量	全上重	數量	原料生貝ニ對スル煮熟後ノ歩留	煮熟後ニ於ケル肉ト殼トノ歩合	乾燥 製了後ノ斤數	煮熟後ノ肉量ニ對スル乾燥歩留	製品一斤ニ要セシ原料	製品一斤ノ粒數
一斗七舂三合	五貫五百三十六匁	三貫五百五十六匁	二貫八百八十三匁	一貫三百七十三匁	四斤 六合	三割三歩七厘	三舂七合六勺	九十五粒
九舂四合六勺	三貫九百二十七匁	一貫九百九十匁	七貫二百五十九匁	五百九十一匁	二斤 〇四勺	二割六歩一厘	四舂六合四勺	二百八粒
七舂 九合	二貫五百二十八匁	一貫五百四十一匁	九百九十一匁	五百九十一匁	一斤四合八勺	二割 五歩	五舂三合三勺	二百四十八粒

本表ニ依リ製品一斤ニ要セシ原料ハ四十四年八月蒔ノモノ三舂七合六勺、本年度四月蒔ノモノ四舂六合四勺、全五月蒔ノモノ五舂三合三勺ノ割合ニテ本年度ノ五月蒔ヲ前年度ノ五月蒔ニ比スレバ製品一斤ニ對シ原料トシテ一舂二合五勺ノ多キヲ要セリ以テ成長ノ概シテ不良ナリシヲ證スルニ足レリ

蠶生活ト海水比重トノ關係試驗

本試驗ハ前年度ヨリノ繼續ニシテ専ラ海水比重ノ變化ニヨリ蠶生活上ニ及ホス關係ヲ調査セリ其狀況左ノ如シ

番號	海水比重	試 育 中 ノ 生 活 狀 態	生 死 別	放養ヨリ斃死シタルマデノ時間
一 号	1.000	七月五日後三時放養九日ニ至ルモ異狀ナシ十日ニ至リ稍々何レモ作穴太クナリ十五日ニ至リ後六時ニ一粒死ス殘リ四粒ハ作穴レタルモ十八日ノ試驗終了期迄ハ生活シ居レリ	一粒	(一粒丈ケ) 二百四十三時間
二 号	1.005	七月五日後三時放養後十四日ニ至ルマデ一粒丈ケ稍々作穴太クシタル外異狀ナシ十六日後六時後頃ニ至リ一粒死シ他ハ十八日ニ至ルモ生活シ居レリ	一粒	(一粒丈ケ) 二百六十七時間

一、鹽被害原因調査並ニ種貝養殖保護試験

三十七



一、鹽被害原因調査並ニ稚貝蓄殖保護試験

番号	海水比重	試 養 中 ノ 生 活 状 態	生 死 別	放養ヨリ斃死シタルマデノ時間
三号	一、〇一〇	七月五日後三時放養以來殆ト異狀ナク十八日ニ至ルモ異狀ヲ認メス全部生存セリ	1	1
四号	一、〇一五	七月五日後三時放養以來異狀ナカリシモ十五日ニイタリ一粒丈ク住穴ヤ、太クナリシモ斃死セ	1	1
五号	一、〇二〇	七月五日後三時放養十四日マテ異狀ナク十五日ニ至リ後六時調査ノ際一粒死シ他ニ二粒ハ稍ヤ休	1	1
六号	一、〇二五	七月五日後三時放養後十三日午後六時ニ至リ二粒十四日前六時ニ至リ二粒死殘一粒モ休大ニ疲	1	1

附記 各容器ニ體長一寸三分ノ稚貝五粒ヅ、ヲ放養セリ

本表ノ成績ニ依レバ比重一、〇一〇ト一、〇一五ノ各海水中ニ於テハ何等異狀ナカリシモ一、〇〇〇。一、〇〇五。一、〇二〇ノ各海水中ニ於テハ一粒ヅ、斃死シ一、〇二五ノ海水中ニ於テハ悉ク斃死セリ

番号	海水比重	試 養 中 ノ 生 活 状 態	生 死 別	放養ヨリ斃死シタルマデノ時間
一号	一、〇〇〇	九月十二日後四時放養十五日マテ異狀ナシ十六日正午ニ至リ二粒混面ニ横臥ノ儘斃死シ他ノ三	1	1
二号	一、〇〇五	粒モ混面ニ呼吸管ヲ出シ死ニ趨テ十八日ニ至リ全部死滅ス	1	1
三号	一、〇一〇	全上放養後十七日マテ異狀ナカリシモ十八日ニ至リ一粒死スタハ二十日ニイタルモ生存セリ	1	1
四号	一、〇一五	全上放養後十七日ニ至リ一粒ハ住穴ヲ稍ヤ太クシ異狀ヲ認メタルモ他ノ四粒ト共ニ二十日マテ	1	1
五号	一、〇二〇	全上放養後十六日ニ至リ二粒ハ混面ニ呼吸管ヲ出シ十七時ニ至リ一粒ハ終ニ斃死セシモタハ二	1	1
六号	一、〇二五	全上放養後十四日ニ至リ三粒ハ混面ニ呼吸管ヲ出シ稍ヤ異狀ヲ認メ十五日正午頃二粒十六日前	1	1

附記 各容器ニ體長二寸五分ノ養殖壯成蠶五粒ヅ、ヲ放養セリ

本表ノ成績ニ依レバ海水比重一、〇〇〇(淡水ヲ用ヒタルモ混中ニ少量ノ塩分ヲ含ム)ノ中ニ於テハ百十六時乃至百四十六時間内ニ又海水比重一、〇二五ノ中ニ於テハ六十八時間乃至八十六時間内ニ悉ク斃死シ次ニ一、〇二〇ノ海水中ニ於テハ

一粒斃死セシモ他ハ稍ヤ健全ナリシ之ニ反シ一、〇一〇乃至一、〇一五ノ海水中ニ於テハ試験着手後一週間餘ハ何等ノ異狀ナク十八日ニ至リ一粒ハ斃死セルモ餘ハ二十日ニ至ルモ生活シ居レリ

蠶養殖試験中ニ於ケル氣象トノ關係

蠶被害原因調査ニ關シテハ前年度ノ試験成績ニ鑑ミ稚貝蒔付ヲ一ヶ月早メ四月ヨリ蒔付ヲ開始シ爾後八月ニ至ルマテ毎月一回若クハ二回ノ移殖ヲナシ蒔付ノ時期及ヒ蒔付ノ厚薄並ニ海水比重等ノ關係ニ就キ調査セリ

四月蒔ハ全月十八日佐賀郡南川副村地先ニ於テ採取セシ古種貝一舂ニ貳百四拾粒入ノモノ參石六斗九舂ノ内壹石貳斗四舂五合ヲ全村地先試驗地ニ蒔付ケ殘リ貳石四斗四舂五合及ヒ十九日ニ採取シタル六石九舂五合ヲ十九日、二十日ノ兩日ニ亘リ藤津郡八本木村地先試驗地ニ蒔付ケ別ニ坪蒔トシテ一舂二舂三舂ノ割合ニテ蒔付ヲ爲セリ恰モ其當時ハ「ジメキ」(藤壺)簾被取後ニテ瀉面ニ浮泥ノ堆積ヲ認メズ又蠶生育上ニ障害トナルヘキモノナカリシ爲メ其經過良好ナリキ

五月蒔ハ全月二十四日南川副村地先ニ於テ採取セル古種貝一舂ニ二百三十粒入ノモノ九石九斗六舂ヲ翌廿五日八本木村地先試驗地ニ蒔付ケ別ニ一舂二舂三舂ノ割合ニテ坪蒔試驗地ニ蒔付ケタリ又之ヨリ先五月十九日ニ於テ天然發生地ニ於ケル稚貝ノ間採法ト一時採取法トノ利害得失調査ノ目的ニテ豫メ撰定セル南川副村地先區劃地ヨリ採取セシ新種貝一舂ニ千八百粒入ノモノヲ三合、五合、一舂ノ割合ニテ蒔付ケ又全月二十二日藤津郡鹿島村地先ヨリ同一ノ目的ニ依リ採取セシ新種貝一舂ニ千五百粒入ノモノヲ五合、一舂、一舂五合ノ割合ニテ坪蒔ヲ爲セリ其後海洋氣象上蠶ノ生育ニ何等憂フベキ變化ナキニ拘ラズ右二回ニ蒔付ケタル新種貝ハ蒔付後一週間以内ニ於テ全ク斃死セリ然ルニ之ニ接近セル四月蒔並ニ五月蒔ノ古種貝ニハ何等ノ異狀ヲ認メズ其當時ハ健全ニ生育シ居レリ

六月蒔ハ前年度ノ好成绩ニ鑑ミ三日間早ク全月十九日佐賀郡南川副村地先ヨリ採取セル新種貝一舂ニ四百八十粒入ノモノ八石六斗五舂ヲ翌廿日ノ干潮時ニ八本木村地先試驗地ニ蒔付ケ又一舂二舂三舂ノ割合ニテ坪蒔試驗地ニ蒔付ヲナセリ然ルニ其

一、蠶被害原因調査並ニ稚貝蓄殖保護試験



後一旦泥中ニ入滯シタル種貝ハ蒔付後一週間位ニシテ八九歩通り斃死セリ  
 次ニ全月廿八日南川副村地先ニ於テ採收セシ新種貝一舛ニ四百七十粒入ノモノ拾石ヲ翌廿九日ノ干潮時ニ八本木村地先試驗  
 地ニ蒔付タルニ前日マテ打續キタル晴天ハ俄ニ一變シテ暴風雨トナリ續テ霖雨トナリ六月三十日ヨリ七月六日ニ至ル一週間  
 ノ降雨量ハ二百八十五耗餘ヲ測リ之ヲ平均スルトキハ一日四十耗ノ降雨量トナリ各河川共大ニ出水シ海水比重ノ如キハ著シ  
 ク下降セリ然レ共第二回ノ蒔付蠶ハ更ニ異狀ナク健全ニ生育セリ  
 今六月二回ニ蒔付タル蠶ノ生活狀況ト其前後ノ氣象等ヲ對照スルニ第一回蒔付後ハ晴天打續キタル爲メ海水比重高度ニシテ  
 蒔付當時ノ種貝ニ障害アリシモノ、如ク之ニ反シ第二回蒔付ハ其翌日ヨリ降雨打續キタル爲メ各河川出水シタルヲ以テ淡鹹  
 水ノ調和ヲナシ蠶ノ生育ニ適當ナラシメタルガ如シ其當時ノ比重ヲ對照シ後日ノ參考ニ資ス

四十四、五年兩年六月分觀測比重比較表

事項	四年						五年					
	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
水溫	二三、七	二三、〇	二三、九	二四、六	二三、〇	二三、四	二三、一	二三、五	二三、五	二五、六	二五、五	二四、七
比重	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一〇	一、〇一七	一、〇一九	一、〇一五	一、〇一〇	一、〇一三	一、〇一四	一、〇一四	一、〇一四	一、〇一六
潮候	八合干	七合干	二合干	三合干	七合干	八合滿	七合滿	七合滿	八合滿	二合干	二合干	二合干
平均	二四、〇						二四、〇					

本表ハ觀測セシ日及ヒ潮候共兩年同一ナラサルヲ以テ比較對照スルコト能ハザルモ六月分ノ平均溫度並ニ比重ヲ對照ス  
 ルトキハ六月第一回蒔付貝ノ斃死セシ原因ヲ推知シ得ベシ尙ホ四十五年ニ於ケル六月、七月ノ觀測事項ヲ比較セバ左ノ  
 如シ

大正元年六、七月分觀測比較表

事項	六年						七年					
	二月	六月	七月	八月	九月	十月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
水溫	二三、一	二三、一	二三、〇	二三、五	二六、六	二六、五	二七、五	二四、六	二七、七	二七、五	二六、六	二七、〇
比重	一、〇一九	一、〇一〇	一、〇一五	一、〇一四	一、〇一四	一、〇一〇	一、〇一七	一、〇一四	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一六
潮候	六合滿	八合滿	七合滿	七合滿	八合滿	二合干	二合干	二合干	六合干	六合干	八合滿	七合滿
平均	二四、〇						二四、〇					

本表ニ依リ毎月六回ノ觀測比重ヲ比較スルニ七月ノ平均比重ハ六月ニ比シ比重著シク降下セシハ六月十二日入梅後全月  
 二十九日ニ至ルマテ殆ド降雨ナカリシモ六月三十日ヨリ七月ニ入り降雨打續キタル爲メ各河川トモ出水シ大ニ鹹度ヲ稀  
 薄シタルニ由ル如斯比重調和シタルニ依リ第二回蒔付蠶ノ成育良好ナリシコトヲ推知シ得ベシ

七月蒔ハ全月十三日南川副村地先ニ於テ採收セシ新種貝一舛ニ四百粒入ノモノ六石四斗七舛ヲ全村地先試驗地ニ蒔付ケタル  
 ニ其後ノ海洋氣象頗調ニ復シタルヲ以テ異狀ナク成育シ又既ニ八九歩通り斃死セシ六月二十日蒔付ノ殘貝モ全ク常態ニ復シ  
 成育良好ナリキ

八月蒔ハ全月十三日南川副村地先ニ於テ採收セシ新種貝一舛ニ三百八十粒入ノモノ五石四斗七舛ヲ八本木村地先試驗地  
 ニ蒔付ケ又一舛、二舛、三舛ノ割合ニテ坪蒔ヲ爲セリ而シテ其後ノ經過良好ニシテ各蒔付區域トモ異狀ナク成育セリ  
 本年度ノ蒔付ハ之ヲ以テ全ク終了セリ八月十三日ヨリ九月下旬ニ至ル間ニ於テ前年八月蒔ヲ始メ本年四月、五月蒔ト順次  
 採收セシニ四、五月蒔ハ成育不良ニシテ蒔付量ニ比シ多キモ七割餘ノ增收ニ過ギザリキ又六月、七月、八月蒔ノ新種貝モ前  
 年度ノ成績ニ比スレバ甚シク不良ナリシヲ以テ採收ヲ見合セタリ然ルニ其ノ當時ヨリ氣候著シク冷氣ヲ催シ海水溫度ノ如キ  
 モ俄ニ低下シ爲メニ蠶ハ例年ヨリ約一週間早ク即チ九月廿八日ヨリ産卵シ初メ十月十日頃ニハ既ニ全部産卵ヲ終レリ其後十  
 月二十一日ニ至リ八本木村地先養殖地九月蒔ニ被害ヲ認メタルニ數日後ニ於テハ一般養殖地ニモ之ヲ認メタリ又八本木村地  
 先養殖地ニ於ケル採收殘存貝ノ七八歩及六、八兩月蒔ハ殆ト斃死セリ然レ共南川副村地先試驗ニ於ケル七月蒔ハ更ニ被害ナ



カリキ本年ニ於ケル煙斃死ノ状態ヲ觀ルニ初メ九月時ノ最モ脆弱ナルモノ被害ニ罹リ次ニ夏時ノ最モ厚キ部分又ハ低地ノ場所ニ及ビ比較的土質硬ク俗ニ云フ地盤ノ緊リタル個所ハ被害ヲ受クルコト最モ遅カリキ要スルニ被害ノ原因ハ煙産卵後ニ於テ体ノ著シク疲勞セル時期ナルヲ以テ多ク海洋氣象上ヨリ來ル障害ニ基クモノ、如ク之ニ依テ想察スルトキハ左ノ事項ハ煙養殖上最モ注意スベキ要件ナリト認ム

第一 養殖スヘキ瀉地ノ撰擇

第二 種貝蒔付ノ時期

第三 種貝ハ其大小ト蒔付ノ時期ニ依リ蒔付量ノ適度ヲ失セザルコト

第四 種貝蒔付時ニ於ケル海水比重ノ適否ニ留意スルコト

### 輸出向牡蠣養殖試験

本試験ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ蒔付後蠔苗ノ生育良好ニシテ蒔キ擴ケノ必要ヲ認ムルニ至レリ

第一回 手入

四月二日三日ノ兩日ニ於テ牡蠣ハ一粒毎ニ手ニテ其殼頂部ヲ下ニシ少シク傾斜ニ並列シ第一回ノ手入ヲ終レリ其當時ノ成長度ハ介殼壹寸四分内外ニ伸長シ居レリ其後七月上旬大降雨連日打續キ南風又吹キ荒シタル爲メ一時浮泥堆積シ爲メニ約二歩通ノ面積ニアリシ蠔苗ハ稍ヤ被害アリシモ一旦堆積シタル浮泥ハ天候ノ順調ニ復スルト共ニ洗ヒ去ラレ七八歩ノモノハ被害ヲ免カレタリ

第二回 手入

牡蠣ハ第一回手入後大ニ伸長シ益々密殖スルヲ以テ蒔キ擴ケノ必要ヲ認メ九月八日、九日ノ兩日ニ於テ面積ヲ八十坪ニ擴メ

第一回手入ノ如ク一粒ツ、殼頂部ヲ下ニシ正シク並列シ第二回ノ手入ヲ終リ次年度ニ繼續スルコト、セリ其當時ノ成長度ハ介殼二寸三分内外ニ伸長シ居レリ

蠔苗附着材料試験

前年度ニ於テ購入セシ材料ヲ用ヒ住ノ江川筋杵島郡福富村地先ニ築立ヲ撰定シ五月上旬ニ雜木及竹ノ二種ヲ立込ミ又瓦ハ百五十枚ヲ三分シ内五十枚ヲ杉丸太ニテ瓦臺ヲ造リタル其上ニ並架シ棕櫚繩ニテ結着シ立込ヲナシ残り百枚ハ同一ノ方法ニ依リ六月上旬ニ五十枚七月上旬ニ五十枚ト二回ニ立込ミ都合三回ニ立込ミヲ爲セリ

築立込後ノ經過

第一回 調査

六月二十五日第一回ノ調査時ニ當リ五月立ノ瓦ノ表面ニハ「ジメキ」(藤壺)ノ稚介密着シ蠔苗ハ其上ニ僅カ點々附着セルヲ認メタリ之ニ反シ裏面ニハ蠔苗ノミ一枚ニ付多キハ貳百粒少ナキモ百二十粒ハ附着シ介殼ハ一二分ニシテ漸ク肉眼ニテ認ムルヲ得タリ

第二回 調査

七月十四日第二回ノ調査時ニハ五月立ノ瓦ニハ前回ヨリ附着セシ蠔苗著シク伸長シ既ニ大ハ七、八分ニ成長セリ又六月立ノ瓦ニハ更ニ「ジメキ」ノ附着ヲ認メズ表裏トモ蠔苗ノミ附着シ其粒數ハ五月立ニ優ルモ劣ルコトナク外見最モ美ニシテ其太サ四、五分ニ伸長シ居レリ尙ホ七月立ノ瓦ニモ一分五厘大ノ蠔苗點々附着スルヲ認メタリ

第三回 調査

八月三十一日第三回ノ調査時ニハ五月、六月立ノ分ハ殆ト識別シ得ザル程其成長ニ優劣ナク介殼ハ何レモ大ハ一寸三分ニ伸長セリ又七月立ノ分モ大ハ既ニ七、八歩ニ伸長シ瓦ノ表裏トモ平均ニ附着セリ



其他雜木、竹ノ二種モ前回調査時ニハ「ジメキ」ノミニテ蠶苗ヲ認メサリシモ當調査時ニ於テハ肉眼ニテ「ジメキ」ノ間ニ蠶苗ノ點々附着スルヲ認ムルニ至レリ

第四回 調査

九月十一日第四回ノ調査時ニハ雜木、竹ノ漢トモ上部二三寸ヲ餘スノミニテ其以下ハ悉ク泥中ニ埋没シ又五月立ノ瓦ノ裏面マテ浮泥堆積セシ蠶苗一部ハ埋没セラレ居リシヲ以テ之ヲ掻キ除ケ應急手入ヲナシタリ其他六月、七月立ノ瓦ニ附着セルモノハ更ニ被害ナク大ハ既ニ一寸七八分ニ伸長シ紅紫色ヲ帯ヒ頗ル成育良好ナリキ

第五回 調査

十月二十八日第五回調査時ニハ既ニ蠶苗ハ平均一寸二分位ノ圓形ニ成長シ殊ニ瓦ニ附着セルモノハ成績良好ニシテ五、六、七ノ三ヶ月ニ立込ミタル瓦百五十枚ヨリ蠶苗四百九十斤ヲ採收シタルヲ以テ瓦一枚ニ付三斤餘ノ採收量ニ當リ且ツ良好ノ蠶苗ナリシ之ニ反シ雜木並ニ竹ヲ用ヒタル漢ハ密植ノ爲メ浮泥著シク堆積シ僅ニ上部二、三寸ヲ泥面ニ露スノミニテ折角附着シ居リタル蠶苗モ泥中ニ埋没ノ爲メ斃死シ僅ニ八十斤餘ヲ採收セシニ過キスシテ不成績ニ終レリ故ニ瓦臺ノミニ付各月分ノ採收量ヲ比較シテ其立込時期ノ適否ヲ調査スルニ左ノ如シ

瓦臺立込期	瓦 枚 數	瓦一枚ノ採收量	總 採 收 量	附 記
五 月 上 旬	五 〇 枚	三 斤 五 合	百 七 十 五 斤	四斗樽入九十斤トシテ 二 樽 半
六 月 上 旬	五 〇 〇	四 斤 貳 合	二 百 十 斤	全 三 樽
七 月 上 旬	五 〇 〇	貳 斤 壹 合	百 五 十 斤	全 壹 樽 半

以上三ヶ月ノ内五月立ノ瓦臺ニハ浮泥堆積ノ爲メ多少被害アリシヲ以テ正確ナラサルモ大体ニ於テハ六月上旬立ノモノ採收

量多ク又藤臺「ジメキ」モ全ク附着セサリシヲ以テ築立ノ時期トシテハ此ノ一回ノ試験成績ニ依ルトキハ六月上旬ヲ以テ適當ノ時期ト信セラル依テ尙ホ之カ試験ヲ重ネ以テ其適否ヲ知ラントス

以上採收蠶苗約五百六十斤ハ住ノ江川筋佐賀郡久保田村地先試験地ノ一部ニ坪七十斤ノ割合ニテ蒔入レ次年度ニ繼續セリ

伏老貝養殖試験

本試験ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ其後新ニ稚貝拾石ヲ岡山縣兒島郡八濱町養貝合資會社ヨリ購入シ新ニ撰定セシ杵島郡南有明村地先試験地ヲ二區ニ區分シ壹坪五百粒入ノモノ五石及ヒ壹坪八百粒入ノモノ五石ヲ坪貳坪ノ割合ニテ大正二年三月十五日午後二時頃ノ干潮時ニ際シ各蒔付ヲ爲セリ又前年度蒔付ノ稚貝ハ十一月中旬ニ於ケル調査ノ結果一坪三百八十粒位ニ成長セシモ未タ支那輸出トシテハ稍ヤ小ナルヲ以テ大正二年ノ十月ヨリ大正三年二月ニ至ル普通販賣ノ好時期ニ於テ試賣スルノ見込ナルヲ以テ次年度ニ於テ其成績ヲ報告スヘシ

淡水養殖試験

主任 吉 津 常 藏  
助手 田 中 勘 治

本試験ハ大体ニ於テ前年度ノ繼續事業ナリシモ本年度ヨリハ新ニ第二號池ニ於テ溜池養殖利用連絡試験ヲ開始シ尙ホ親蠶二十頭ヲ購入シテ蠶兒養成等ヲ實行セリ左ニ項ヲ追フテ其成績ヲ叙述ス

養魚池ノ設備

本年度ニ於テ鯉卵孵化池、親蠶池及蠶兒池ノ設備ヲナセリ

一 孵化池 面積 二十八坪 之ヲ六區ニ區劃セリ

一、伏老貝養殖試験 一、淡水養殖試験



一、淡水養殖試験

一親龍池 面積 四十坪 之ヲ二區ニ區割セリ  
 一龍兒池 面積 二百四十坪

前年度ニ於テ購入セル親龍ハ雌魚貳拾尾雄魚八拾參尾ナリシモ本年度ニ於テハ新ニ雌魚拾五尾ヲ前年ト同様奈良縣郡山小松金鱗舎ヨリ購入シ採卵ニ使用セリ

産卵及孵化ノ狀況

親龍ハ四月二十日ヨリ五月二十三日ニ至ルマテ都合五回ニ産卵セシメタリ其卵數及孵化ノ割合等左ノ如シ

第一回 産卵

雌雄配合尾數	雌雄體量	配期合	産卵月日	孵化月日	産卵數	斃死卵數	孵化數	産卵ヨリ至ルマテノ日數	自産卵至ニ要セシ日數
雌 一 雄 一	雌 八〇〇 雄 一五〇	男 十九日	男 二十日	男 二十五日	三万	一、一〇〇	一〇、八〇〇	三	三
雌 四 雄 四	雌 九〇〇 雄 一五〇	男 十九日	男 二十日	男 二十五日	一四、〇〇〇	七、〇〇〇	六、六〇〇	三	三
雌 四 雄 四	雌 八〇〇 雄 一五〇	男 十九日	男 二十日	男 二十五日	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、八〇〇	三	三

第二回 産卵

雌 一 雄 一	雌 一、〇〇〇 雄 一五〇	男 二日	男 三日	男 六日	一三、〇〇〇	一、一〇〇	一〇、八〇〇	三	三
雌 三 雄 三	雌 九〇〇 雄 一五〇	男 二日	男 三日	男 六日	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	三	三
雌 六 雄 六	雌 七〇〇 雄 一五〇	男 二日	男 三日	男 六日	一四、〇〇〇	八、四〇〇	五、六〇〇	三	三

第三回 産卵

雌 一 雄 一	雌 九〇〇 雄 一五〇	男 五日	男 六日	男 九日	一三、〇〇〇	一、一〇〇	一〇、八〇〇	二	二
雌 四 雄 四	雌 一、〇〇〇 雄 一五〇	男 五日	男 六日	男 九日	一〇、〇〇〇	一、三〇〇	一、七〇〇	二	二
雌 四 雄 四	雌 八〇〇 雄 一五〇	男 五日	男 六日	男 九日	一〇、〇〇〇	一、五〇〇	八、五〇〇	二	二

第四回 産卵

雌 一 雄 一	雌 八〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	九、五〇〇	三	三
雌 四 雄 四	雌 九〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	四、〇〇〇	七、六〇〇	三	三
雌 三 雄 三	雌 七〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	三、二〇〇	四、八〇〇	三	三
雌 三 雄 三	雌 七〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇	三	三
雌 三 雄 三	雌 七〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、七〇〇	六、三〇〇	三	三
雌 一、二〇〇 雄 一五〇	男 十日	男 十日	男 十日	男 十日	一五、〇〇〇	七、〇〇〇	一四、六〇〇	二	二

第五回 産卵

雌 一 雄 一	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、〇〇〇	六、四〇〇	三	三
雌 六 雄 六	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	一三、〇〇〇	二、四〇〇	九、六〇〇	三	三
雌 六 雄 六	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇	二	二
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇	三	三
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	六、〇〇〇	三、〇〇〇	二、四〇〇	三	三
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	七、〇〇〇	二、〇〇〇	四、九〇〇	三	三

一、淡水養殖試験

第六回 産卵

雌 一 雄 一	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、〇〇〇	六、四〇〇	三	三
雌 六 雄 六	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	一三、〇〇〇	二、四〇〇	九、六〇〇	三	三
雌 六 雄 六	雌 八〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇	二	二
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	八、〇〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇	三	三
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	六、〇〇〇	三、〇〇〇	二、四〇〇	三	三
雌 五 雄 五	雌 七〇〇 雄 一〇〇	男 十日	男 十日	男 十日	七、〇〇〇	二、〇〇〇	四、九〇〇	三	三







觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力	雲量	觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力	雲量
五月十三日 午前	曇	一七、六	一七、四	西	和風	九	五月十三日 午後	曇	一七、三	一七、五	西	和風	九
五月十四日 午前	晴	一九、〇	一七、〇	西	和風	三	五月十四日 午後	晴	三、六	二〇、八	西	和風	三
五月十五日 午前	曇	一九、九	一八、七	北	軟風	九	五月十五日 午後	曇	三、〇	三、八	北	軟風	九
五月十六日 午前	晴	三、六	二〇、四	北	軟風	三	五月十六日 午後	晴	二、五	二、四	西	軟風	三
五月十七日 午前	晴	二、五	二〇、八	北	軟風	三	五月十七日 午後	晴	二、〇	二、七	南	軟風	三
五月十八日 午前	雨	二、三	二七、〇	南	軟風	一〇	五月十八日 午後	雨	二、〇	二、七、六	南	軟風	一〇

此期間ニ於テハ天候稍ヤ不順ナリシ爲メ産卵池ニ雌雄配合後全部産卵ヲ終ルマデニ四日間ヲ要セシモ孵化后三、四日間天氣持續シタル爲メ成育概シテ良好ナリシ

第五回孵化氣象觀測日表

觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力	雲量	觀測時刻	天氣	氣溫	水溫	風向	風力	雲量
五月二十三日 午前	晴	一八、〇	一八、二	北	軟風	三	五月二十三日 午後	快晴	三、三	三、〇	南	和風	二
五月二十四日 午前	晴	一八、六	一七、五	南	軟風	三	五月二十四日 午後	晴	二、六	二、〇	南	軟風	四
五月二十五日 午前	曇	二、二	二、五	西	軟風	九	五月二十五日 午後	曇	二、〇	三、八	西	軟風	九
五月二十六日 午前	曇	三、〇	三、七	東	軟風	九	五月二十六日 午後	曇	二、四	三、六	西	軟風	一〇

此ノ期間ニ於テハ魚卵ノ發育至テ良好ナリシモ孵化后天候ノ溫暖ニ伴ヒ害虫發生シ之ニ多少食害セラレタルト且ツ六月廿九日午後六時頃ヨリ俄然冷氣加ハリ大雹霰ノ池中ニ降下シタル爲メニ水温著シク低下シ多數ノ斃死ヲ見タリ

模範養魚

本試験ハ前年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ前年十月二十日鯉兒體長二寸乃至六寸體量平均六匁ノモノ總重量七拾貳貫尾數壹萬貳千尾ヲ放養シ爾後短期日間給餌シタルガ本年度ニ於テハ四月一日ヨリ十一月三十一日マデ左記ノ餌料ヲ適宜給與シ成育ヲ計レリ

餌料ノ種類及量

價額

乾 蛹 四百八拾七貫五百五拾匁  
麥粉粕 拾 石

金百五拾參圓八拾五錢  
金參拾七圓  
計金百九拾圓八拾五錢

飼養鯉ハ次年度マデ繼續給餌シタル上全部捕獲シテ其成績ヲ調査スベキ豫定ナルヲ以テ第一期試驗終了ヲ待テ報告スベシ

鯉兒配付

養成中ノ鯉兒ハ六月下旬ヨリ一般養鯉希望者ニ配付ヲ始メ九月下旬迄ニ總數十五萬六千七百二十尾ヲ配付シ殘餘ハ溜池養殖利用連絡試驗ノ試料魚トシテ七千尾ヲ大池第二號池ニ放養セリ  
鯉兒配付出願數及配付數左ノ如シ

鯉兒配付出願數一覽

郡市名	尾數			計
	一寸以下ノモノ	一寸五分以下ノモノ	二寸以下ノモノ	
佐賀郡	一三五、五〇〇	四八、七〇〇	五、四〇〇	一九一、〇五〇
神埼郡	一九、九〇〇	八、〇〇〇		三三〇、五〇〇



郡市名	一寸以下	一寸以上一寸五分以下	一寸五分以上二寸以下	二寸以上三寸以下	計
三養基郡	三四、五〇〇	一一、〇〇〇	二、三〇〇	一、五二〇	三四、五〇〇
小城郡	三二、四五〇		一、七〇〇	一、五〇〇	四五、二七〇
東松浦郡	一八、〇〇〇		二、六〇〇	〇九〇	三二、二〇〇
西松浦郡	七、〇五〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、七六〇	九、八九〇
杵津島郡				二、〇〇〇	四、三六〇
藤津郡				一、四二〇	一、四二〇
佐賀市				三、〇〇〇	三、〇〇〇
其他市郡	二四七、〇〇〇	六八、〇〇〇	二一、六〇〇	三、八五〇	三五三、四九〇

鯉兒配付一覽

郡市名	一寸以下	一寸以上一寸五分以下	一寸五分以上二寸以下	二寸以上三寸以下	計
佐賀郡	九五	一九			一一五
神埼郡	八	三			一一
三養基郡	九	〇			九
小城郡	〇	〇			〇
小松浦郡	一	八			九
東松浦郡	〇	〇	六		六
西松浦郡	三	〇	〇		三
杵津島郡					
藤津郡					
佐賀市					
其他市郡		二〇〇〇	三〇〇	三〇〇	二、三〇〇

計	一一七	三〇〇	二六	一〇〇	八〇〇	二	五二〇	一五六	七二〇
---	-----	-----	----	-----	-----	---	-----	-----	-----

溜池養殖利用連絡試験

本試験ハ水産局ノ指令ニ基キ湖沼溜池等ノ水面利用ノ養魚經營ノ模範ヲ示ス爲メ施行セルモノニシテ本年十一月之ニ着手シ  
 全月二十一日試料魚ヲ放養セリ之レハ滿一ケ年ヲ經過シタル後捕獲シテ調査スベキ豫定ナルヲ以テ詳細ノ成績ハ第一期試験  
 終了ノ上報告スベシ

今試験ノ方法及施行方法等ヲ列記スレバ左ノ如シ

溜池養殖利用連絡試験方法

- 一、試験ノ目的 溜池ニ各適當ナル魚族ヲ養殖シ生産的ニ利用スルヲ以テ目的トス
- 二、連絡府縣 秋田、滋賀、福岡、大分、佐賀、京都、富山、岩手、高知、和歌山、福島、香川(十二府縣)
- 三、試験池 面積一町歩以内ノ溜池ヲ撰用スルコト
- 四、養殖種 鯉、鰻其他溜池ノ狀況ニ應シ他種ハ撰ブモ可ナリ
- 五、報告 連絡各府縣ハ試験ノ經過及成績ヲ水産局ニ報告シ本局ハ之ヲ取り纏メテ連絡地ニ報告スルコト
- 六、試験期間 本試験ハ三ケ年繼續トス但シ其着手ハ四十五年度ヨリスルモノトス

溜池養殖利用連絡、試験施行方法

- 一、試験池(溜池)ニ付別紙甲號表記載事項ノ調査ヲ行フコト
- 二、試験池(溜池)ノ堤塘並ニ開水ハ魚族ノ逃逸ヲ防クニ足ルヤ否ヤヲ檢シ若シ不備ナル箇所アラバ之ヲ改修スルコト
- 三、放養スベキ魚族ハ鯉ハ體長二寸以上鰻ハ體量五匁以上ノモノヲ用ヒ其他ノ種類ニ付テハ便宜撰定スルコト



一、溜池養殖利用總務試驗

- 四、放養尾數ハ各試驗池ノ生産力ヲ豫測シ最モ有利ト認ムル數量ニ就キ定ムルコト
- 五、餌ハ試驗池ノ狀況ニ據リテ之ヲ與フル場合(集約的養魚法)ト與ヘサル場合(粗放的養魚)トノ二トシ便宜撰定スルコト
- 六、試驗ニ着手セシトキハ別表乙號記載ノ事項ニ付觀測並ニ調査ヲナスコト
- 七、試料魚ノ体長体重測定ノ場合ハ全數ノ十分ノ一以上ニ付實査スルコト
- 八、一ケ年内ノ試驗期間ハ各地ノ狀況ニ應ジ最モ有利ト認ムル所ニ依リテ定ムルコト
- 九、試驗終了ノ際ハ其生産物ヲ試賣シ又ハ相當ノ價格ニ見積リ收支計算ヲ明ニスルコト
- 一〇、報告期日ハ甲號ハ試驗着手後二ヶ月以内乙號ハ各一ケ年ノ試驗終了後二ヶ月以内ニ提出スルコト

甲號表

溜池養殖利用總務試驗池ニ付報告事項

- 一、試驗池名
- 二、位置地勢及面積
- 三、水深水質及水量ノ増減
- 四、底質及周圍ノ地質
- 五、堤塘及水閘ノ構造
- 六、注排水路及湧水ノ有無
- 七、水面結氷ノ有無若シアレバ其期間及結氷ノ厚サ
- 八、生物ノ種類及天然餌料ノ多寡
- 九、害敵ノ有無及其ノ種類

- 一〇、洪水被害ノ有無
- 一一、水利組合トノ關係
- 一二、從來養殖ヲ行ヒタルコトノ有無若シアラバ其ノ成績
- 一三、試驗池ノ所有權ノ所在(所有權者ノ意)

備考

- 一、第二及第五項ニハ圖面ヲ附スルコト
- 一、水深ハ最深、最低、平均ノ三種ヲ表ハスコト
- 一、第六項中注入水路アレバ其水質水温ヲモ記入スルコト

乙號表

溜池養殖利用總務試驗經過及成績報告事項

- 一、試料魚 種名、放養數、體長、體量、價格、系統
- 二、餌料 餌料ノ種類一日ノ投餌量及回數投餌期間及其日數、投餌總量
- 三、成長度 體長、體重、增肉量
- 四、減耗數 尾數、重量、減耗率
- 五、試驗期日 開始、終了、日數
- 六、水量 增水量、減水量、平均水量
- 七、溫度 水温、氣温
- 八、生物ノ狀態 沿岸生物、浮游生物

一、溜池養殖利用總務試驗



九、看守状況

一〇、生産物試賣又ハ豫定收支計算

備考

一、体長、体量ヲ測定スル場合ハ最大、最小、平均ヲ表ハスコト

一、水量ノ増減ハ其理由ヲ併記スルコト

一、温度ノ観測ハ少クトモ一日一回以上トシ水温ハ水面ニテ観測シ出來得ルナラバ水底ニ於テモ之ヲ行フコト

此場合ハ其深度ヲ記入スルコト

本試験ハ第二號池(面積五千二百坪)ニ於テ執行スルコト、シ十月七、八、九ノ三日間該池ヲ干上グ雜草及ビ棲息セル魚族ヲ取リ除ケ池中掃除ヲ行ヒ排水樋管並ニ水閘其他ノ設備ヲ完整シ十一月廿一日試料魚ヲ放養セリ

放養鯉兒體長體重尾數測定表

試料魚體長	試料魚體重		放養尾數
	尾	體	
(最大)三寸五分以上六寸五分以下	、二二〇尾	、一九三、六〇〇尾	一、五二〇尾
(最小)二寸以上三寸五分以下	、二九六	、二五六、八〇〇尾	六、〇三〇尾
總計		、三五〇、四〇〇尾	七、五五〇尾

備考 体長、体重ノ測定ハ試料魚ノ全數十分ノ一以上ニ付テ調査セリ

産卵及孵化ノ状況

産卵及孵化ノ状況

六月十二日ヨリ八月十六日迄ニシテ此期間ニ於テ其ノ總數三百六十六個ヲ産卵セリ

産卵表

産卵順序番號	産卵數	産卵月日	摘	要
第一號	一九	六月十二日	斃	死
第二號	一四	六月十三日	斃	死
第三號	一九	六月十九日	斃	死
第四號	一八	六月廿四日	斃	死
第五號	二一	六月廿八日	斃	死
第六號	一八	七月九日	斃	死
第七號	一三	七月十五日	斃	死
第八號	七	七月十五日	斃	死
第九號	九	七月十五日	斃	死
第十號	五	七月十五日	斃	死
第十一號	二八	七月十六日	斃	死
第十二號	二一	七月廿三日	斃	死
第十三號	二二	七月廿五日	斃	死
第十四號	二二	七月廿七日	斃	死
第十五號	一七	八月一日	斃	死
第十六號	一五	八月一日	斃	死
第十七號	三〇	八月一日	斃	死
第十八號	一七	八月一日	斃	死
第十九號	一七	八月一日	斃	死
第二十號	一七	八月一日	斃	死



産卵後之所置

産卵シタル卵ハ長サ五尺高サ一尺五寸ノ竹籠ヲ以テ直ニ其ノ筒所ヲ蔽ヒ置キ數日ヲ經テ適當ノ位置ニ移シ卵數ヲ調査シ總テ卵ノ頭部ヲ上トシ地中深サ四寸ノ位置ニ排列シ其ノ上ニ砂ヲ覆ヒ前記ノ竹籠ヲ以テ圍繞シ更ラニ其内部ノ低所ニ豫メ孵化期ヲ豫測シ其三四日以前ニ一鉢入ノ水甕ニ水ヲ盛り之ヲ砂ト水平ニ埋メ孵化兒ノ收容ニ供セリ

孵化

孵化ノ成績甚シク不良ナリシハ親籠産卵場ノ周圍ハ悉ク鯉兒飼養池ニシテ一段高ク常ニ貯水セルヲ以テ多少産卵場ニ水氣浸潤シ爲ニ池温ノ上昇ヲ妨ケタルモノ、如ク又七月七日前後並ニ七月二十三日前後ニ於ケル大雨ノ爲メ池水著シク増水シタルニ依リ極力之カ排水ニ努メタルモ四圍ノ田面並ニ池水トモ一時ニ激増シ終ニ前後二回トモ産卵場ハ一晝夜内外浸水セリ尙本年ハ例年ニ比シ八月下旬ヨリ氣候俄然冷氣ヲ催シタル等ノ諸點ニ基因スルモノ、如シ

孵化兒之飼育

孵化セシ稚籠飼養池ハ鯉産卵池(叩池)ニ砂四五寸位ヲ入レ水深ハ常ニ六寸乃至七寸トナシ周圍ニハ逃脫ヲ防グ爲メニ板ヲ池縁ニ圍繞シ之ノ中ニ放養シ孵化當日ヨリ十月下旬迄少量ノ田螺ヲ細切シテ給餌セリ

池水並氣象觀測表

明治四十五年自四月一日  
大正二年至三月三十一日

觀測時刻	天氣	氣温	第一號 池水 水温	第一號 孵化池 水温	風向	風力	雲量	觀測時刻	天氣	氣温	第一號 池水 水温	第一號 孵化池 水温	風向	風力	雲量
------	----	----	-----------------	------------------	----	----	----	------	----	----	-----------------	------------------	----	----	----

午前 十一時	午前 十二時	午前 十三時	午前 十四時	午前 十五時	午前 十六時	午前 十七時	午前 十八時	午後 二時	午後 三時	午後 四時	午後 五時	午後 六時	午後 七時	午後 八時	午後 九時	午後 十時	午後 十一時	午後 十二時	午後 十三時	午後 十四時	午後 十五時	午後 十六時	午後 十七時	午後 十八時
曇	雨	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
一一、三	一一、五	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇
一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五	一一、五
東	北	西	北	東	無	東	北	西	北	東	無	東	北	西	北	東	無	東	北	西	北	東	無	東
和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
九	六	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時	四月 二時
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二	一一、二
一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四	一一、四
東	北	西	北	東	北	東	北	西	北	東	北	西	北	東	北	西	北	東	北	西	北	東	北	西
和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

一、溜池養殖利用連絡試験

五十九











一、溜池養殖利用連絡試験

午前 全 四 時	午前 全 三 時	午前 全 二 時	午前 全 一 時	午前 全 三 十 一 日	午前 全 三 十 日	午前 全 二 十 九 日	午前 全 二 十 八 日	午前 全 二 十 七 日	午前 全 二 十 六 日	午前 全 二 十 五 日	午前 全 二 十 四 日	午前 全 二 十 三 日	午前 全 二 十 二 日	午前 全 二 十 一 日	午前 全 二 十 日	午前 全 十 九 日	午前 全 十 八 日
快晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	曇	雨	曇	雨	雨	曇	曇	晴	晴	晴
三三〇	三三〇	三三〇	三〇四	二九八	三〇七	三〇〇	二九八	二七〇	二七〇	二六五	二五七	二五七	二六四	二六八	二六五	二六〇	二九八
二九〇	三〇〇	二九六	二九六	二九八	二六五	三〇〇	二九八	二七三	二六三	二五〇	二五〇	二六〇	二六三	二六〇	二七〇	二七三	二六六
三〇〇	三〇〇	三〇四	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二七三	二七三	二五〇	二五〇	二六〇	二六三	二六〇	二七〇	二七三	二六六
南	南	南	南	南	南	南	西	南	南	南	北	北	南	南	南	南	南
軟風	軟風	軟風	和風	軟風	軟風	軟風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	和風	軟風	和風
二	三	五	六	九	九	三	七	九	〇	〇	〇	〇	九	九	四	五	五
午後 全 四 時	午後 全 三 時	午後 全 二 時	午後 全 一 時	午後 全 三 十 一 日	午後 全 三 十 日	午後 全 二 十 九 日	午後 全 二 十 八 日	午後 全 二 十 七 日	午後 全 二 十 六 日	午後 全 二 十 五 日	午後 全 二 十 四 日	午後 全 二 十 三 日	午後 全 二 十 二 日	午後 全 二 十 一 日	午後 全 二 十 日	午後 全 十 九 日	午後 全 十 八 日
快晴	晴	晴	晴	曇	曇	快晴	曇	曇	雨	雨	雨	雨	雨	晴	晴	快晴	快晴
三三〇	三三〇	三三〇	三〇四	二九八	三〇七	三〇〇	二九八	二七〇	二七〇	二六五	二五七	二五七	二六四	二六八	二六五	二六〇	二九八
二九〇	三〇〇	二九六	二九六	二九八	二六五	三〇〇	二九八	二七三	二六三	二五〇	二五〇	二六〇	二六三	二六〇	二七〇	二七三	二六六
三〇〇	三〇〇	三〇四	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二七三	二七三	二五〇	二五〇	二六〇	二六三	二六〇	二七〇	二七三	二六六
南	南	西	南	南	南	西	南	南	南	北	南	南	南	南	南	南	南
軟風	軟風	軟風	和風	和風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	和風	軟風	和風
二	六	三	五	四	〇	四	二	九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三	七	二

一、溜池養殖利用連絡試験

午前 全 三 十 日	午前 全 十 九 日	午前 全 十 八 日	午前 全 十 七 日	午前 全 十 六 日	午前 全 十 五 日	午前 全 十 四 日	午前 全 十 三 日	午前 全 十 二 日	午前 全 十 一 日	午前 全 十 日	午前 全 九 日	午前 全 八 日	午前 全 七 日	午前 全 六 日	午前 全 五 日	午前 全 四 日	午前 全 三 日	午前 全 二 日	午前 全 一 日	午前 全 十 月 三 十 日	
晴	曇	曇	曇	曇	雨	雨	曇	晴	雨	雨	雨	雨	雨	晴	快晴	曇	雨	曇	曇	晴	晴
二七〇	二七〇	二七五	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二七〇
二五〇	二五〇	二六〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二五〇
二六〇	二六〇	二七〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二六〇
南	南	北	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風
四	六	九	九	九	〇	〇	九	六	九	〇	〇	三	一	九	〇	九	七	七	七	七	七
午後 全 十 七 日	午後 全 十 六 日	午後 全 十 五 日	午後 全 十 四 日	午後 全 十 三 日	午後 全 十 二 日	午後 全 十 一 日	午後 全 十 日	午後 全 九 日	午後 全 八 日	午後 全 七 日	午後 全 六 日	午後 全 五 日	午後 全 四 日	午後 全 三 日	午後 全 二 日	午後 全 一 日	午後 全 十 月 三 十 日	午後 全 十 九 日	午後 全 十 八 日	午後 全 十 七 日	
晴	晴	晴	晴	雨	雨	雨	曇	晴	曇	雨	雨	雨	雨	晴	曇	雨	雨	晴	晴	雨	曇
三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五
二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
南	南	西	西	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
和風	和風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風
五	三	六	六	〇	〇	〇	〇	九	五	九	〇	〇	五	五	七	〇	九	三	三	三	三































## 調 査 部

### 漁業基本調査

本調査ハ前年度ヨリ繼續施行セル事業ニシテ松浦海及有明海ノ両出張所ニ於テ農商務省指定ノ方法ニ據リ各事項ノ調査ヲ遂行セリ

#### 一 海洋観測

明治四十五年四月ヨリ大正二年三月マデ毎月六回ツ、規定ニ基キ海洋ノ観測ヲナシ其都度本省へ報告ヲナセリ其詳細ハ別冊トシテ報告スベシ

#### 二 漁村調査

本年度ニ於テハ東松浦郡ニ於テ佐志、湊、呼子、名古屋村ノ四ヶ村杵島郡ニ於テ龍王、錦江、南有明、北有明、福富、佐留志、福治、六角、大町、山口村ノ十ヶ村ニ就テ調査ヲ終ヘタリ之等ハ全漁村調査終了ノ上一括シテ報告スベシ

#### 干瀉養殖利用調査

本調査ハ準備ノ都合上調査開始ノ時期稍ヤ遅レ八月ヨリ着手シタルモ其後氣候等ノ關係上遂ニ全般ニ亘リ豫定ノ調査ヲ爲スコト能ハズ不得止河川又ハ江湖筋ヨリ出水スル關係ノ場所ヲ撰ビ主ニ水質及潮流ニ就キ豫備的調査ヲナセリ本調査ハ全部完成ノ後報告スベシ



1421  
307

大正二年十一月二十三日印刷  
大正二年十一月二十五日發行

### 佐賀縣水產試驗場

印刷人 酒見次吉

佐賀縣藤津郡鹿島町四四四〇番地

印刷所 文真堂印刷所

佐賀縣藤津郡鹿島町四四四〇番地

*[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]*



終